

# 世界の山旅

## 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」  
それにお応えするのが  
大体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

花咲く春のスイスアルプスを満喫

**マッターホルン山岳フライトと  
花のスイス・アルプス 7日間**

●大阪・名古屋・東京  
●5/1発 ..... ¥395,000  
●5/16発 ..... ¥325,000  
●5/30発 ..... ¥335,000

ニュージーランド・ハイキングの人気コース!

**NZ「アルプス街道」  
日帰りハイキング満喫**

●大阪・東京  
●3/17発 ..... ¥430,000  
●4/7●4/21●5/5発 ..... ¥398,000  
●4/28発 ..... ¥460,000

伝統文化の「雷龍の国」に「女神」の山を訪ねる

**ブータンの聖峰チョモラリB.C.  
トレッキング 12日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡  
●3/21●4/18発 ..... ¥548,000  
●5/2発 ..... ¥558,000

エベレスト山脈まっただ中の展望地タンポチェへ

**エベレスト・パノラマ  
トレッキング 12日間**

●大阪  
●4/26発 ..... ¥340,000  
●3/15●3/29●4/12●5/10発 ..... ¥320,000

アンナプルナとダウラギリを眺める展望コース!

**アンナプルナ・ダウラギリ  
パノラマ・トレッキング 9日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡  
●3/21●3/28●4/4●4/18発 ..... ¥298,000  
●4/25●5/2発 ..... ¥298,000

往復ヘリ利用!世界で最も美しい谷のひとつへ

**ロッジ滞在で楽しむ  
ランタン・ヘリ・トレッキング 10日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡  
●3/9●3/16発 ..... ¥345,000  
●4/26発 ..... ¥355,000

世界でもっとも水と空気の美しい島を歩く

**タスマニア島  
満喫ハイキング 9日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡発大阪着  
●3/30発 ..... ¥468,000

ユーカリの大樹海と豪州大陸最高峰に登頂

**世界遺産・ブルーマウンテンズと  
Mt.コジオスコ 7日間**

●大阪  
●3/5発 ..... ¥418,000  
●3/27発 ..... ¥410,000  
●4/30発 ..... ¥415,000

クレイドルマウンテン、ウルルとMt.コジオスコ登頂

**オーストラリア  
3大ピーク登頂 10日間**

●大阪  
●3/29発 ..... ¥648,000  
●4/25発 ..... ¥623,000

南アフリカで最も美しい世界遺産と南部アフリカ

**ケープ・フローラル・キングダムハイキング  
とテーブルマウンテン縦走 9日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡  
●5/13発 ..... ¥398,000  
●4/29発 ..... ¥498,000  
●3/11●3/25発 ..... ¥428,000

メキシコ第4の高嶺と情熱の国

**4,600m峰トルーカ山登頂と  
メキシコの山旅 7日間**

●大阪・東京  
●3/16発 ..... ¥338,000  
●4/26発 ..... ¥398,000

日本から最も手近な4,000m峰

**マレーシア最高峰  
Mt.キナバル登頂 6日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡  
●3/25発 ..... ¥188,000  
●4/29発 ..... ¥242,000  
●4/8●5/20●5/10発 ..... ¥162,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F  
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(285)4511(転送)  
札幌/☎011(711)7106 広島/☎082(542)1660(転送)  
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でおリジナルツアーを企画してあげませんか?

山岳会、ハイキングクラブで企画  
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅  
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ  
キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き  
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか  
らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ  
ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。

登高(西穂高岳) 武田 誠司



桜のライトアップ（三井寺）

花の便りが届く  
 神苑に櫻の花がほころび  
 染井吉野がトンネルを作る  
 八重紅枝垂れ櫻が咲き誇る  
 多様な櫻の花が咲き乱れ  
 春の美しさを教えてくれる  
 心あたたまる春の贅  
 華やかな雅やかな世界  
 舞楽を舞う稚児たちは  
 櫻の精のように妖しく美しい  
 与謝野晶子は詠んだ  
 櫻月夜こよひ逢ふ人みな美しき  
 秀吉は稀代の櫻好き  
 吉野・醍醐の花見  
 永遠に語りぐさとなる

琵琶湖疎水の桜（浜大津）



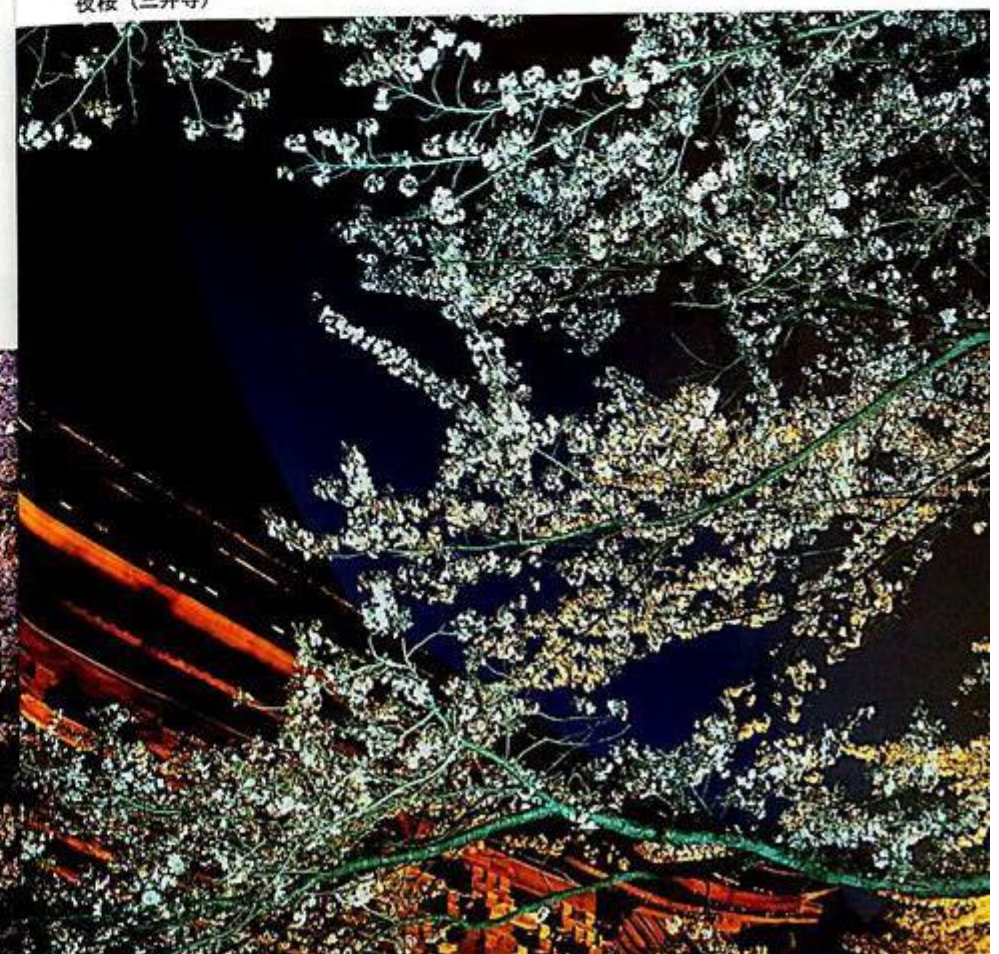
Photo essay

弥生



題字 中田 蘭 石  
 撮影 由井 収  
 文 松 永 恵 一

夜桜（三井寺）



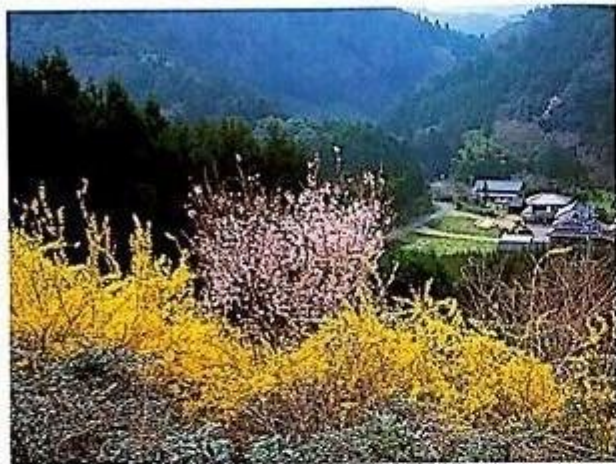


イカリソウ

花の山



# 季節の



レンギョウ咲く

# 実景

西吉野 (下市町貝原)

陽春

撮影 武市通治



しだれ桜

咲き競う





屏風岩の桜（室生） 三浦 弘幸



雪稜を行く（奥美濃・金草岳） 一芝 義雄

北山桜（京都北山杉坂） 山中 茂

佐々里峠の春（京都北山） 中川 光郎

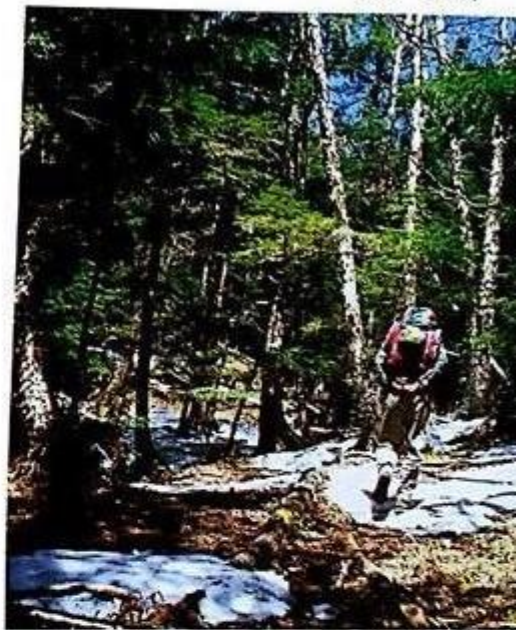


# 残雪の山 -尾高山 (南信濃)-

奥田 英一郎



柔らかい陽差しのもと



残雪を踏んで



ビューポイントよりの兔岳・聖岳 (南アルプス南部の山)

## 新伴作 別冊 関西の山

06 3・4月 増巻 第87号

### ●目次

表紙：松田敏男「風光るブナ林」

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の展覧会多岐開催。(京都平安楽園、南アルプス山氷小堂、東京ギャラリー一百号、他)山の版画集「光る山」刊行 (東京新聞出版局)。京高山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

沿線ハイキングガイド	74	新ハイ関西山行計画	112
せせらぎ	76	新ハイ関西山行報告	100
新ハイサービスチェーン	79	編集後記・広告案内	86
コース			
① 新定田から若狭山 (若狭)	72	長宗 清司	68
② 釜ヶ谷山・古城山・天王山 (美濃)	70	山形 誠之	66
③ 百里ヶ岳 (朽木)	68	山田 明男	64
● 旗振り通信の資料			
● エリヤ別荘庭園研究	43	柴田 昭彦	43
● ①一の鳥居く多武峰 ②多武峰く飛鳥 (奈良)	50	上田 偉弘	50
● 紀州富士の龍門山へ (紀北)	58	中村 敏文	58
● 文学歴史探訪ハイク	60	松永 恵一	60
● 下高野街道 (下) 布忍から狭山池へ (大野)	64	西尾 寿一	64
● 「ツ」または「つ」の役割	66	野瀬 和紀	66
● 「山のレポート」ネパールのトイレ事情	66	田中 明	66
● 「山のレポート」登山あれこれ	64		
● 紀行			
● 七種山 (播磨)	12	生駒 逸雄	10
● 東照山十種ヶ峰 青野山・久松山・三角山 (山陰)	14	木村 太郎	14
● 栗木田谷からイクワクワ峠・釣瓶岳 (比良)	18	中山 仁志	18
● 運載 標高による山の紹介シリーズ 27 △△△?の山	22	小山 誠次	22
● 門内山・鹿嶺高原・雲谷山	26	松田 敏男	26
● 妙義山と高尾山 (関東)	28	田中 明	28
● 西郷丸山と鍋平高原 (北アルプス)	32	鷺見 守康	32
● わが心の仙香池 (鈴鹿)	36	長谷川 雅俊	36
● 小豆島・黒ヶ城山 (瀬戸内海)	40	筒井 克治	40
● 運載 三角点を訪ねて	54	磯部 純	54
● 裏六甲の山、逢ヶ山へ (六甲)	54		
● グラビア			
● 弥生		松永 恵一	2
● 季節の実景 (陽春) 「西吉野 (下市町貝原)」		武市 通治	4
● (口絵) 武田誠司 一芝義雄 中川光郎 三浦弘幸 山中 茂 奥田英一郎			
● 随想 (山のエッセイ)			
● 「比叡山」の山名由来		網木 逸雄	10
● 平成の聖		生駒 逸雄	10

### 巻頭言

あなたが登山・山歩きするのはなぜですか？  
 このように問われたらどどのように答えますか。  
 私はしばらく考えてしまい、答えに窮してしま  
 います。「特に目的はないが、所用でし  
 ばらく登っていないとしきりに登りたくなるか  
 らです」としか答えられない。  
 新ハイのメンバーにはそれぞれ目的をも  
 て山登りされる人が多い。「花や鳥や樹木等  
 の自然観察」「写真・絵画、神社・仏閣・寺・  
 石仏などの「歴史遺跡探訪」、そして共通す  
 るのは「健康維持・体力増強」が考えられま  
 すが、山中を静かに歩いて「思索をめぐらす」  
 のをこよなく愛する人も多い。山の形態 (三  
 角点・百名山・〇〇富士・展望の山など) を追  
 求する人もいます。なかには、山頂や山小屋  
 で呑むお酒は格別だと「ミニ宴会」を楽しむ  
 ために登る御にも多いようです。  
 多種多様な趣味・趣向があり、各人の目的  
 に合わせてみんなで楽しんでいきます。登山は、  
 協力し合い助け合って登らねばなりません。  
 お互いの目的を尊重し合って歩きましょう。  
 私は、山の中をみなさんと歩けるだけで幸せ  
 です。趣味・趣向はとくにありません。  
 新ハイキング関西 (代表 村田 智俊)



見

### 「比叡山」の 山名由来

綱本 逸雄

京都市左京区と大津市の境に聳える山で、古米、王城鎮護の靈山として知られた。日枝山・日吉山・神叡山とも表記し、また叡山、天台山、台嶺、都の不二などと呼ばれた。伝教大師最澄は延暦七年(788)、一乗止観院(のちの根本中堂)を創建。最澄没後の弘仁十四年(823)、延暦寺の寺号が下賜されたが、比叡山は延暦寺の山号でもある。近畿の山岳修行場・七高山(比叡山・比良山・愛宕山・伊吹山・金峰山・葛城山・神峰山)のひとつであったが、かつて「お山」といえば、比叡山を指した。『愚管抄』を著した鎌倉前期の天台座主、慈円(勅置号慈圓)が「世の中に山てふ山は多かれど、

山とは比叡のみ山をぞいふ」(拾玉集)と詠ったように、比叡山は中世にはわが国仏教の中心的存在で、その靈威と財力・武力で強大な支配力を誇った。比叡山の地名由来については、様々にいわれてきた。

①室町時代の国語辞書『下学集』(元和三年版)は「比叡山」始めの名は日枝山と言は、朝日此の山に出でて漸く其の枝に昇る故に云ふなり。後に改めて比叡山と言、鎮護國家の道場天子本命の靈場なり。故に叡聖(天子の徳)之無双に比そ、比叡山と云ふ也」とか、『太平記』巻八・山徒寄京都事にも「山を比叡というは佛法王法の相比するが所以なり」などと載る。もっとも、吉田東伍『大日本地名辞書』は「世俗比叡とは天子大師と叡慮と等しくし給い、以て道場を建て給ふが故にこの名あり」と云ふ。妄誕(でたらめ)の極なり」と指摘している。

あるいは②「上古は此の山樹木繁茂して、日光樹枝に遮蔽せらる、故に日枝山と名く、又比江山ともいふ」(高頭式「日本山嶽志」)③「ヒエ」は、「冷え」で寒冷地の意味(鏡味完「日本地名小辞典」)角川新書、山中養太『地名語源辞典』④「ヒエヤマ(葛山)の意で、断崖を伴う山名に用いる」(吉田茂樹「日本地名事典」)⑤比良山の枝山となるので比枝山が原名、もとの比良は新羅のことという古代朝鮮語説、あるいは、比叡の源流はヒ(目)のエ(廻)で、恐れ多い神様と一体に居る。説などがある。

ここで比叡山の歴史をたどってみると、『下学集』にみるように、古代は比叡山は日枝山と称した。仏教が日本に入る以前は、漢詩集「懷風藻」(751)に「神叡まことに神山」とあり、神の住む山だった。「古事記」に「大山咋神またの名は山末之大主神、この神は近淡海國の日



見

### 随想 (山のエッセイ)

枝の山に坐す。また葛野の松尾に坐す鳴鏑の神ぞ」と比叡山塊の地主神であることを記す。「大山咋はうしはく(嶺)神の意だろ。荒ぶる神の語感を持つ。山末は頂をさす」(西郷信綱『古事記注釈』、本居宣長『古事記伝』を引用)という。

比叡山塊の東側に八王子子山(牛尾山、標高378尺)があり、『古事記』の地主神の坐す日枝山である。麓には日枝の社(のちの日吉大社)があり、社名は、日枝、日吉、比叡、裊衣とも表記された(『日吉社額直口伝抄』)。山は円錐形の美しい山容で、頂上には「金大嶽」と呼ばれる巨大な磐座と、奥宮二社がありそれぞれ男神の大山咋神と女神の玉依媛を祀る。磐座は社ができる以前からこの巨岩を神の出現する祭場として祭られていた。

日枝の由来について、作家・中井国重は「金大嶽は古代には

太陽の光をうけて黄金色に輝く大磐座であった。比叡は古来『日枝』『日得』『日榮』『日吉』等の文字が当てられ、太陽に関係」(『古代史を歩く近江・山城』毎日新聞社)すると日神信仰を指摘する。早くに、『下学集』同様、江戸初期以前成立の『諸社根元記』が「良(北東)にありたりて日得と云山あり、是も日神の御光をながへとも、是其光を得ざる處を、諸神是を折て日を得べと云心にて、日得の山と名づく」と言っている。「日吉神社」日は太陽で、江は湖である。されば日江は日の輝く琵琶湖という意味であった(『志賀剛』「神名の語源辞典」)。「ヒエ山とはあさひのたださす山の意」(西郷信綱『古事記注釈』)、『日迎え』が転訛短絡して「ヒエ」とした(『深淵』「日本地名ルーツ辞典」所収)など太陽に求める説は多い。

ところで、『古事記』は、大

山咋神が鳴鏑の神でもあるという。鳴鏑は雷神をさし、飛米中響きを発する鏑矢に例えた表現である。従来説では、この神と関連付けられた由来説は見当たらない。雷(イカツチ)は、イカ(鰐)ツ(助詞)チ(空)の意で、猛々しい霊、稲妻・雷火をもたらす光る神である。嶽はイワ(名乗り)でもある。つまり、金大嶽の「嶽」は雷をさし、「金」は落雷による発光を象徴したとも考えられる。地主神・大山咋神の靈(ヒ、日と同根)の座(ウ行エ)と日枝(ヤ行エ)は上代特殊仮名遣いでは同音でなく区別されるが、枝・吉・江(ヤ行エ)と得(ア行エ)を同列に扱っている例もあり、地主神の性格はもっと検討されてもよいかと思う。

上代特殊仮名遣いでは、母音数は現代の五音と違い八音とされた。つまり、ア、イ、ウ、エ、オのほかには、エ、オの変母音



随想 (山のエッセイ)

があり、イ列・エ列・オ列に二つの母音があった。ア行エとヤ行エ、ワ行エとは区別され、平安時代以降これらの区別がなくなった、というのである。八母音説は本居宣長と弟子が発見し、東大の橋本進吉博士の再発見(1917)以来定説である。ところが、二十年前、松本克己金沢大学教授(当時)が「古代日本語母音組織考」内の再建の試み」を発表した(ひつじ書房から一九九五年、「古代日本語母音論」として刊行)。論文は難解で詳述は控えるが、「万葉時代も母音は五つ」説で、八母音説との論争は決着がついていない。

松本説に従えば、甲類・乙類は区別されないで、日枝の日(甲類)は火(乙類)である。松岡静雄「新編日本語辞典」は「ヒ(火)(日)」「火」を原義とし、其から「日」の意を生じた」という。光る神の「光は陽光に因する字ではなく、火の光」

〔白川静「字訓」〕であり、会意は人が頭上に火を載せた姿を示す。「ひかり」は雷光を形容する語から出ており、神の光を示す語であった(岡)。つまり、日は松岡氏のいうヒカル(動詞四段活用)のヒ(原語)で、雷神である大山咋神の神の光を指すと理解できる。枝は、中国最古の字書「説文解字」に「木、別に生ずる篠なり」とあり、「すべて本体から別かれて分出するものを「元」という」(白川静「字訓」)、また、「類從名義抄」は古訓「ワカル」である。だから、枝は光が四方に発散する意を含む。従って、雷神の稲妻が金大嶽にあたり、光が四散する様を「日枝」と表現したとも推察される。

## 平成の里

生駒 善峰

年号が平成になってすでに18年、いままさ平成でもないが、年号が変わった時に全国で唯一平成の名をもつ所として話題になり、この村にある「平成山」を大勢の人が訪れた。

場所は岐阜県の東南部の武儀町で、平成の地名があるところから平成村が立村した。元々「へなり」と読むのだが、年号の平成と同じことから「へいせい」に鞍替えしたのだろう。

村には他にも「水成」なる地名があり、成は物事の出来上がりという意味なので、平らな所の意味があるのだろうか。

地形図の平成山にはルビが記載されていないが、山麓の平成は「へなり」と付けられているので、当然「へなり山」だろう。年号に由来する山の一つとして以前から私の記憶にあった。

私の山行はいつも車泊まりの旅で、その宿泊場所として道の駅をよく利用する。今回美濃地

方の山を訪ねた折、平成の道の駅に泊まった。駅には観光案内所もあり、地元の情報を得られ、平成山が記載されていた。尋ねてみると、すでに平成も十数年が経ち、人々の関心も薄れていて登る人は稀とのこと、「登っても何もありませんよ」とパンフをくれた。

登山口の平成から平成谷林道に入る。元号橋や平成自然公園など当時の賑わいを感じさせる。林道を進むと、分岐に「平成山登山口300軒」の表示が現れ、その先の林道は倒木が道を塞いでいた。前年の台風の倒木らしいが、放置されているところを見ても、すでに平成山のブームが去ったことがわかる。

林道終点には案内板があり、沢沿いの道をひと登りで鞍部に登り着く。右に平成山、左に平洞の表示があり、簡単に山頂に到着した。

小さい平成山の名板と、椅子

のようなコンクリートの円形方位台が一つ。林のなかの一隅で全く山頂らしくもない。展望も無く名に引かれて登った人達は失望したことだろう。これでは人気も出ない。

平洞にも立ち寄ってみる。こちらは小さいがピークで三角点もあり、展望も良い。こちらのほうが山らしい。

ところで道の駅に「人口重心の町」の看板がかかっている。

今まで「日本の中心」とか「日本のへそ」などの話は聞いたが、人口重心の町など耳にしたことがない。何でも先の国勢調査の結果で日本の人口分布を平均すると、この村に中心があることがわかった。そこで記念のモニュメントを建てたとか。

今回私の登る予定の2等三角点の水晶山の登路上にもあるので立ち寄ってみよう。ところが、説明板には「現在行けません」となっている。三角点の山登り

では登山路の不明は常時なので、ともかく登山口を目指した。

水成の林道は崩壊も無く、所どころに人口重心地の表示があり、安心して車を進めた。林道終点の案内板には、モニュメントの位置・水晶山の登山路・コースタイムが記載されている。

道は所どころ荒れていたが、たいした事もなくモニュメントに到着する。中腹の植林のなかで、地球儀状の小さい球形と説明板がひっそりと立っている。

ここから周遊路がのびている。三角点は水晶山より北の地点で「ナガサコ」となっていた。水晶山には岩峰があり、昔水晶が産出したとあった。

案内所の話では、国勢調査が今実施されているので、その結果で人口中心地は変わるから、モニュメントも廃止しなければならぬし、村も関市に合併して平成の名も消えるだろう。と

の話であった。(平成17年秋)

燃え上がる熱情の槍を歩く

# 七種山

播州

木村太郎

久しぶりに七種山塊の岩尾根を歩きたくなり、兵庫県播州山地へ足をのびした。中国道福崎インターで降り、JR福崎駅前に車を廻した。好天気になりそうなので飲み物を買って足しておきたかった。駅のホームを隔てて県立福崎高校の校舎が見える。実は山の帰りに、兵庫県神崎郡生まれで福崎高校出身の歌人岸上大作の墓を訪ねることが、今日のもう一つの目的である。

ともすれば傷つきやすき十六の心でさまよう三月の山  
(岸上大作「大学以前拾遺」)  
高校時代に短歌を始めた岸上大作は、国学院大学在学時に「意志表示」五十首

で短歌研究新人賞に推薦された。将来を展望されていたが、安保闘争の挫折と失恋で、21歳で自らの命を絶った。彼がもし生きていれば自分と同世代で、岸上大作は気にかかる天折の歌人である。歌人の故郷の山を歩き、歌の原点を訪ねてみたかった。

福崎駅横の線路をまたいで福崎町青少年野外活動センターへ走る。管理棟前の車寄せに車を入れる。神戸ナンバーが一台だけ駐車していた。七種山の見どころ、俗に七種四十八滝と呼ばれる滝の道へと歩き出す。

福崎町山の会が整備した七種薬師への道を左に、笠岩に通じる小滝林道を右に

今では、田口集落奥にある七種池(春日池)も整備がなされ、スイセンが植えられている。  
別の所へ来たような気分だったが、七種神社から見る七種流(雄滝)は昔のままである。数日前に雨が降り、大岩壁を濡らす水流も多い。大岩壁と流のシャワーのスペクタクルに釘づけになる。今年の遅かった春を呼び寄せ、明るいしぶきを光らせている。大岩壁と壁続きの岩塊を越え、隠れ滝への道を分けて七種山を目指す。

「あれは七種薬師、あれが七種槍だよ」と、信田君から山の説明を聞いた展望岩が途中にあった。漠然とした記憶をたどり、登り一辺倒の岩登りを愉しんで進んだ。息を切らしながら登る自分の脇を、眼鏡をかけ青いシャツを着た瘦身の若者が追い抜いていった。生来の好奇心が頭をもたげ、矢継ぎ早に若者の背中に質問を投げしてみた。

「学生さんなの?どこへ廻るの?」と大声で問いかけると、「京大です」「七種槍へ縦走します」と短い言葉が返ってきた。

時を惜しむかに若者は前向き直り、山岳マラソンのようなスピードで視界から消えていった。もう少し若者と会話を交わしたい気持ちで、山頂で再会できればと速度を上げた。私と同世代の夫婦連れを追い越した。駐車場で見た

神戸ナンバーの登山者らしかった。展望岩に寄らずに七種山(683m)に着いたが、若者の姿はなかった。山頂に兵庫登山会の雑記帳を入れたボックスがあり、ノートを開いてみると、目付の後に「JR福崎駅8時30分、七種山10時20分。駅から歩いて疲れました。これより七種槍へ。KUCAC北野」と書かれた文を見つけた。  
頂上を極め来ていまははからず「若者」のうたを高々と歌う  
(岸上大作「大学以前拾遺」)  
眼鏡をかけた瘦身の若者は、写真で見えていた岸上大作の面影にどこか似ている気がした。痛切な若者の叫びを残し40数年前に21歳で逝った歌人も、颯爽と山を登っていった現代の若者も、自分には手の届かない「青春の時」という輝きに生きていたのである。  
自分は大坂を7時前に出て、七種池に車を置いたのが8時30分だった。それで七種山10時30分である。自分の歩いた時間と比べて、超人的とも思える若者のスピードに脱帽するしかない。若者の健脚ぶりを羨ましくは思えたが、真似のできるものではない。若者を追いかけるのを



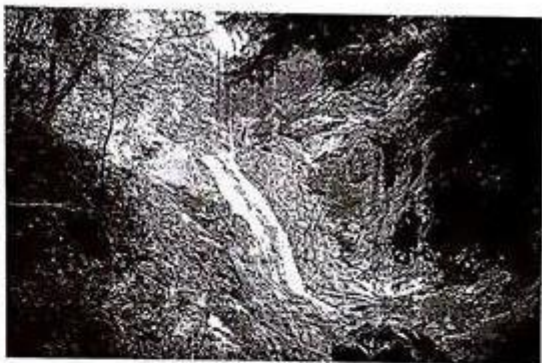
七種山



見送る。古びた山門を過ぎれば雄滝と夫婦滝、太鼓橋を渡ると虹ヶ滝と八龍滝に出会う。石段まじりの山道を登れば、七種流群の白眉、雄滝を傍らにおく七種神社に着く。

友人の信田恵介君と七種山に来たのは7年前である。野外活動センターは当時、今建っている多目的ホールも出来ていなかった。駐車場も舗装されていなかった。





七種滝

あきらめ、以前に信田君と昼食をとったつなぎ岩にくだった。  
岩の節理にそって剥離した岩盤が底部で止まり、長い裂け目を見せている。眼下と15分ほどの深い空間があり、ロープをつかみこわごわつなぎ岩に渡る。七種槍が目の前に見え、眺めは最高だが、とても大休止できる場所とは思えない。薄れた記憶をとり戻すすべもないが、古い

て恐怖心がふくらんだのかも知れない。  
『播磨国風土記』によれば、七種山は奈良佐山の名で、槍の山として記されている。山頂周辺は去年の台風で槍や杉など多くの木々が倒され、踏み跡も不確かな道をくだる。倒木をまたぎ時にはくぐって七種栗師との分岐へくだり着く。市川町の七種槍愛好会の道標に導かれ、歩きやすくなった雑木林の道を七種槍へ向かう。

携帯コンロでお湯を沸かし、七種槍の狭い頂で昼食にする。通称コウジヤ峰に七種槍の名を付けたのは「兵庫の山やま」の多田繁次である。氷ノ山を兵庫槍と命名した加藤文太郎を見習っている。アルプスへ登るのを至上の目的として山歩きに熱中していた頃、燃え上がる熱情で七種槍と名付けたのであろう。

昭和40年代に多田繁次が七種槍に初めて登ったのは、市川町の鶴居駅から谷峠を越えるルートであった。今この七種槍から市川町へくだる道にはなぜかロープが張ってある。ヒカゲツツジが群生していた七種槍を、多田繁次は「槍ヶ岳以上に孤高の山への思慕をかり立てる」と告白した。だが、槍を飾る「憧憬の花」は、

この季節まだ咲いてはいない。  
七種槍との短い語らいを終え、町界尾根を南へくだる。胸が高鳴るやせた岩尾根が続き、393分峰を過ぎると岩場を捲く鎖が現れる。振り返れば、七種槍と七種栗師を双翼にした七種山が迫る。右手眼下に野外活動センターが見え、左側には笠形山など東播磨の山々が視界に収まる。鉄塔の骨組みを潜り、七種池野のみのりの回廊へくだる。

ただの無名峰が七種槍と名が付けられ、ピラミッド型の山容と岩稜は、多田繁次により「槍ヶ岳のミニ版」と絶讃された。七種槍はただ存在するだけで登山者を屈服させる姿を見せている。登れるならば登ってこいと、天賦の魅力を誇示しているようだ。

歌人岸上大作は、七種槍に登るかわりに東京へ出て、鋭い槍の穂先に似た思想で荒野を切り開こうとした。誰の援けも得ない無援の愛を貫こうとした。彼の意志表示は、七種槍以上に先鋭であったがゆえに、夢が結実しなかった時の絶望がより大きかったに違いないのである。  
血と雨にワイシャツ濡れている無援  
ひとりへの愛うつくしくする

(岸上大作「黙研」)  
大学以前の作品には、主に学窓生活と母と妹に囲まれた家庭生活とが詠まれている。そこには未来に疑いをもたない、どこにでもいる日常的な若者がいた。父の居ぬ家にもつばめ来る幸を  
言いつつ母と背き爽むく

(岸上大作「大学以前」)  
ふるさとの家を出て自立し、大学生に



つなぎ岩から七種槍

なった後は勉学に打ち込むだけでなく、学生運動に走り、恋愛を体験した。ある面では非日常に生きていて、作品にも青春の陰翳が投影され、作者言うところの意志表示された歌が作られた。  
誕生日へなだれてはやき十月に  
うなじ屈するゆえの反抗

(岸上大作「十月の理由」)  
岸上大作の遺した日記には、青い空のような愛が必要だとも、限りなく聡明で美しい人が必要だとも打ち明けている。けれども現実には、「俺は一生かかったって俺を愛する女性を見つけ得ないであろう。」と結論づけている。若さゆえに直情すぎて、愛の告白が実らなかつた時に、傷つきやすい魂はこの世からの消滅を望んだのであろうか。  
断たねばならぬ思慕に首垂れている  
翳を吸わせて夜の木の橋わたる

(岸上大作「告白以後」)  
七種槍よさらば、前を駆け抜けていった若者は、もう福岡駅に着いているはずだ。若さを喪失した自分は遅れて、梓川ならぬ七種川を渡り、出発地の野外活動センターへ帰り着いた。  
福岡町の教育委員会で案内図を手に入

れていた岸上大作の墓へ、今から車で立ち寄ろう。恋と革命の挫折により、自死をとげた若者の墓は、民俗学者柳田国男の生家に近い西田原井ノ口の山辺に立っている。  
意志表示せまり声なき声を背に  
ただ歌の中にマッチ擦るのみ

(岸上大作「意志表示」)  
早くに戦病死した父と平成3年に74歳で逝った母、両親の墓に挟まれて歌人は眠っている。黒色の碑には、岸上大作の代表作が刻まれていた。都会の「非情の愛」に裏切られた若者は、故郷の土地で家族の「永遠の愛」に包まれ安息の時を得ていた。(平成17年3月31日歩く)

△コースタイム▽  
野外センター駐車場(35分) 旧山門(35分) 七種神社(40分) 七種山(10分) 七種栗師分岐(1時間10分) 七種槍(1時間) 393分峰(30分) 鉄塔(35分) 野外センター駐車場  
△地形図▽2万5千〇〇寺前・前之庄  
(資料)現代歌人文庫「岸上大作歌集」  
(国文社刊)より短歌を引用

## 山口・鳥根・鳥取の低山歩き

ひがほうべんぜん とくさ むね あおのさん きんじょうぜん みずあやま  
**東鵬翻山・十種ヶ峰・青野山・久松山・三角山**

山陰

### 中島仁志

**東鵬翻山(734m)**  
 平成17年春は山口から山陰の低山を訪れた。前日加賀大聖寺に深田さんの墓所を訪ね、例によって京都から夜行快速列車に乗る。第1日は山口の東鵬翻山。時折小雨が混じるなかを、瑠璃光寺経由で錦鶏湖奥の登山口から往復し、帰路は無人の上山口駅まで約5時間の歩程だった。この日は津和野Y日に泊まる。

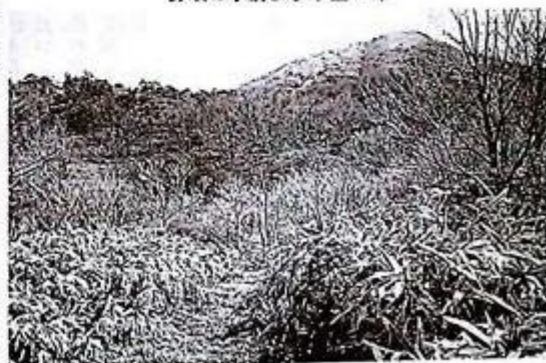
**十種ヶ峰(989m)**  
 長門富士の名をもつ十種ヶ峰は山口・鳥根県境にある美しい姿の山である。案内書から関連事務局に電話でバスなどの情報を聞くと、「車で来るのが普通です

から」と言うのが、遠来からの山訪者への返事だった。

徳佐駅ホームから北にすっきりと十種ヶ峰が望める。駅から登山口まで約14kmの歩行を覚悟して、国道9号線から右折して国道315号線に入る。単調さを我慢して進むうち鍛冶ヶ原地区で「神角コース登山口」の立派な看板を見て右折する。ここで登路を変更したのは正解だった。明瞭な車道の奥に大きく十種ヶ峰が立つ。神角バス停と登山口の道標がある。

家並を抜け山道に入るとまず金網柵を抜ける。堰堤を過ぎると先で沢を渡り、斜面を登る。最初は杉の多い登路も、登るうちに明るいコナラ・トチ・ブナなど

分岐の手前より十種ヶ峰



落葉樹林帯に入っていた。その先で谷沿いの檜林に入る。尾根に出ると、すぐ上はゆるやかなササ原が広がり、前面に十種ヶ峰が良い形で立つ。

ササの間をゆるく登ると、北からのメインルートに合流した。その先でコースは二分し、直登コースを進んだ。前衛ピクに出れば道は乾き、程なく1等三角点のある山頂に着いた。

せっかくの晴天もモヤで遠方はかなりぼやけていた。それでも青野山や東鵬翻山がうっすら見えた。山頂から南のササ原に踏み跡があるも、あまり歩かれていないようだ。

下山路は駒形神社経由で、程なく合流点から神角コースとの合流点に戻り、下りは北に向かう。すぐに舗装路になるが、散在する案内板が実にわかりにくく、どうどう巡りの末に遠廻り覚悟でその舗装路をたどった。野外活動センターを見送り西に進めば国道315号線の市場。徳佐駅までの12kmを歩く覚悟で30分は

と進んだ吉部野にバス停があり、徳佐駅までちゃんとバスが通っていると言う。果たしてマイクロボスがほぼ定刻に来て、今朝の神角経由で往路歩いた国道を走り、無事徳佐駅に着いた。代金は「福祉バス」で全ルート100円とのこと。

#### 青野山(907m)

まずまずの天気。津和野川を渡り、ゆるく登って国道9号線に出て、交叉する県道方向に右折し、ジグザグに高度を上げて行く。津和野城址の山並や西方の低い山並の上に十種ヶ峰が頭を現す。前面が開けると青野山のドーム状が大きく、笹山集落の家並も望みながら裾野を廻り、標高約450mの笹山登山口に着いた。

登路は最初から急で、杉林下の階段状。小さな社を見送ると、地元

の小学校登山記念の距離標識が立つ。かなりの傾斜で、杉林を抜け、明るいコナラ等の林になると県道を隔てた法師山、その右手に十種ヶ峰も望める。急登も残り100mほどゆるむとすぐ上が分岐点。右に折れ程なく山頂に達した。

広々とした明るい山頂だが、周囲の木がのびて期待したほどの展望ではない。釣鐘状の山なので、頂上一帯はゆったりとしている。

下山路は北コースをとった。最初はのんびりした道もその先から一気に下りで、むしろ往路よりきつい。幸い樹相は落葉樹帯で明るく、津和野の街を見下ろしながら進む。傾斜がゆるくなり、杉林から落葉樹林に入り、だれもない駐車場に着いた。

ここからは道も広く、先で中国自然歩道に出る。左に少し進むと右に小さな道標とササの被った下り道。津和野からは最も近いルートなのだが、あまり踏まれていない、杉や檜の下の暗い道である。下りがゆるくなると前方に津和野の街が開け、神社に出る。国道を横切り、家並と墓地の間を抜け、津和野川を渡れば町の一角である。





青野山を仰ぐ



予定の列車までは時間があるので、森  
岡外の墓所を訪れた。青野山を背景とす  
る「森林太郎」の墓には花が供えられて  
いた。  
あとは列車の旅で、青野山駅手前から  
は大きな青野山の姿を仰ぐ。益田駅から  
は山陰本線で適度に海岸線や低い山を眺  
めた。米子駅で乗り換え、鳥取駅に着い  
た時には薄暗くなっていた。

#### 久松山 (263 呎)

当初の予定は三角山だけだったが、鳥  
取市街北に立つ久松山が近いので、寄っ  
てみようとして少し外が白み始めた頃、ホテ  
ルに荷を置いて出かけた。

平らな形の久松山を正面に見て駅前の  
道路を北に進む。県庁前から長田神社の  
横を通りすぎた所に略図と道標が現れる。  
本陣山の名しかなかったが、そのまま浅い谷  
筋を進むと、縦走路に出た。

久松山へのコースは適切な傾斜で、城  
状の朽ちた展望台に出て、山頂の台形の  
左側を廻り、二ノ丸からの正面コースと  
合流して城址の壁をひと登りすると本丸  
跡。広い原にはわずかに葉が萌え、散見  
するブナが形良い。山頂の展望板には大

山・那岐山・氷ノ山などを望めるとある  
が、薄霞で遠方の山は判別できない。  
地元の早朝登山の人たちが表登山道を  
登ってきた。その表道をくだるがかなり  
の急降下。鳥取西高校門前にくんだり、県  
庁前から往路をホテルに戻り、朝食サ  
ービスをとり、荷を整え駅に向かった。

#### 三角山 (508 呎)

因美線には、氷ノ山訪山で鳥取から郡  
家まで二度乗っている。風景を楽しみな  
がら用瀬駅に着いた。用瀬は小京都の雰  
囲気をもつ流し雛の町である。

行く手に鋭い三角錐を見上げながら高  
台に登って行く。途中いろいろな石塔が  
立ち、百人一首で知られる在原行平と  
伝える歌碑もある。畑の間の舗装路を行  
く。大きな石の鳥居を二つ通り、右に相  
撲場への道を見送ると女人堂である。

ここから山道で、修行と信仰の道らし  
く最初は石が階段状に削られている。所  
どころに錆びた鎖やロープがあり、適度  
に使いながら高度を上げ稜線上に出た。  
右に小さな鳥居を潜り、樹の間から山頂  
方面の黒い塊を仰ぐ。尾根伝いから少し  
ずつ側に廻りその先で急に登る。途中で

白い小さな花が五、六輪。小鞍部を右に  
折れ石段を登ると、岩が散在し立派な三  
角山神社が立つ山頂である。

山頂は相応に開け、西側は用瀬の町が  
広がる。立派な石造りの神社の脇にはお  
籠もりができる小屋もある。

下りは往路を戻る。女人堂を過ぎ、鳥  
居あたりからの三角山は、さすがに鞍馬  
天狗の頭巾山の別称と感ぜさせる。

町のスーパーで昼食の買い物をする。  
駅に向かう途中の雛を流す水路から、早



三角山へ

春の花を前景に三角山の姿が良かった。  
この日は時間的にゆとりがあるので、  
この機会にゆっくりとローカル線を乗り  
継ぐことにした。智頭駅から津山駅まで  
は南東にまだ雪の付いた後山・那岐山  
などを仰ぎ見る。さらに佐用駅・播磨神  
宮駅を経て姫路駅に出る。このあたりは  
秀吉の毛利攻めコースの一つであること  
などを思い出していた。姫路駅から夜行  
快速列車の待つ大垣駅に向かった。

(平成16年3月27日、31日歩く)

#### ▲参考タイム▼

(3月27日、28日) JRR京都駅21・33  
(電車) 下関駅5・34、41 (電車) 新山  
口駅6・41、54 (電車) 山口駅7・15、  
瑠璃光寺8・15、30、登山口9・30、東  
鴨湖山11・00、25、上山口駅13・25、55  
(電車) 津和野駅15・06、津和野YH  
(泊)  
(3月29日) 津和野駅6・38 (電車) 徳  
佐駅6・55、神角入口8・10、神角登山  
口8・50、十種ヶ峰10・30、11・00、市  
場12・40、吉部野13・10、32 (バス) 徳  
佐駅13・55、14・52 (電車) 津和野駅15・  
06、津和野YH (泊)

(3月30日) 津和野YH6・00、国道9  
号線6・30、笹山登山口7・30、青野山  
8・30、50、駐車場9・30、津和野市街  
(森岡外墓所) 10・30、津和野駅11・18  
(電車) 益田駅11・58、12・57 (電車)  
米子駅16・05、17・24 (電車) 鳥取駅18・  
53、駅前ホテル (泊)

(3月31日) ホテル5・35、長田神社横  
6・00、縦走路6・20、久松山6・30、  
45、ホテル7・35、8・10、鳥取駅8・  
22 (電車) 用瀬駅8・55、女人堂9・15  
、三角山10・20、用瀬駅11・15、12・  
17 (電車) 智頭駅12・30、40 (電車) 津  
山駅13・48、14・32 (電車) 佐用駅15・  
29、16・03 (電車) 播磨神宮駅16・35、  
49 (電車) 姫路駅17・24 (電車) 大垣駅  
23・19 (電車) 東京へ  
△交通費等、京都起点京都まで  
青春18きっぷ (3日分) 6900円  
Mインライト九州 510円  
福祉バス (十種ヶ峰) 100円  
津和野YH (素泊2泊) 5000円  
(会員料金、同所は平成17年3月で閉館)

△地形図▼  
2万5千、山口・十種ヶ峰・鳥取北部・  
用瀬

黒谷から細川に到る

# 栗木田谷からイクワタ峠・釣瓶岳

比良

小山 誠 次

本誌78号「世峠・ヨコタニ峠・シロタ谷峠」で、黒谷バス停から八瀬の滝道を通り、「ベ林橋」の手前約30分で右手の分岐路に入り、道なりに進むと6分後にコンクリート製の橋に到着。橋を渡ってすぐ右の山道をたどり笹峠に到達したが、実は先の古い簡易舗装の道はそのまままっすぐ栗木田谷に沿って上流に向かっていく（写真1）。

昭文社の「比良山系」地図上、先の栗木田谷道は土城谷と金山谷の間の尾根で中絶しているように描かれている。しかし、この尾根を忠実にたどればイクワタ峠に到達するのではないかと地図上だけ

で判断したので、確認してみようと思いたった。

平成17年5月28日、滋賀県の降水確率は南部・北部共に、午前・午後を通して0%だったので、気分よく京都駅8時14分発の湖西レジャー号に乗った。車窓からは比叡山・比良山系共に少し霞んで見え、上空には巻雲が一面に広がり、遠く琵琶湖東方では巻雲となっていた。そのまま比良山系の山頂を眺めていて、蓮葉駅の手前辺りで、打見山山頂の建造物の屋根が日光を一点集中的に反射して眩しかった。が、ほんの数秒後、もう見えなくなってしまう。おもしろい体験をしたものだ。

(写真1) 栗木田谷道(まっすぐはイクワタ峠、右折すれば笹峠へ)



さて、8時52分近江高島駅に到着。改札口を出て畑行き江若バスのりばに急いだが、何とバスが待っていない！発車時刻に変更でもあったのかと思っただけで、やはり9時発は変わっていない。ようやく発車4分前にバスが入ってきたのでひと安心したが、待っていて欲しいものである。バスは拜戸辺りでは、水路に一団となっ

て咲く鮮黄色のキショウブの傍らを通って行く。9時18分定刻に黒谷着。高度計を標高240mにセットして2分後に出発し、9時38分先の栗木田谷分岐点に到着した。筆者の後をついて来た登山者が、なおも右手の分岐路を進んで来ようとするので、念のため八瀬の滝への道ではないことを告げると、ベ林橋の方に足を向けた。



栗木田谷からイクワタ峠・釣瓶岳付近略図付近略図

そこからは、コンクリート製の橋を渡り、そのまま直進すると、栗木田谷川の左岸に沿って簡易舗装の道が続く。途中、タニウツギの薄ピンク色の花が満開だった。間もなく本流に架かる橋を渡るとそのまま右岸に道が続いている。右手を注視していると、本流に流れ込む土城谷の合流点を確認した。道はその上流で再び左岸に戻って堰を越えて行く。左上上方には釣瓶岳ナガオ尾根からの支尾根がスカイラインを形成している。

10時16分、最後の堰堤にぶつかって林道はここで終点となる。現在地は標高520mで、右手にはずつと下流から杉の植林地帯が続いていた。確かにここまでの簡易舗装の道はかなり傷んではいないものの、車で乗り入れられないことはない。しかも、終点では十分転回できるだけの広場もある。ここで5分間休憩とする。気持ちのいい場所だ。

ここから杉の植林地帯に踏み入るが、入口付近はヤマアイが群生するなかにマムシグサが散在し、

踏み跡を埋め尽くしている。また、杉はよく手入れされていて踏み跡が打たれた枝で埋まり、少々わかりにくいぐらいである。ここは基本的には元々金山谷のゴロなのである。石の少ない所を選んで踏み跡が続いている。そして、さらに踏み跡をたどると、ちょうど金山谷が左カーブして流れているので、登路はそれに沿って右にカーブする。10時30分、いよいよこれからブナ科樹木の自然林のなかの金山谷北方尾根道をたどることになる。ここで標高580mである。

金山谷上流を眺めると小さな滝があり、崖にはヤマツツジが満開である。ここからたどる山道はかなり古そうで、マキキングは全く無いが、ほぼ一本道のジグザグ登路である。全体の進行方向はやや北西になるので、尾根にのりかかっていることになる。11分後には標高630mに達すると共に、周囲を石で囲まれた炭焼き跡に到着した(写真2)。

実は今たどっている古道はこの辺りから不明瞭となる。といっても、全くのやぶ漕ぎというのではない。再び出現した杉の植林地帯のなかで樹木の伐採跡が至る所であり、分岐の多い陥窪状の道で、



(写真2) 金山谷北方尾根の炭焼き跡

イクワタ峠を目指す目的からは選択するうえで少々迷いやすい。  
 そうこうしているうちに、地図上にピークの記載はないが、周囲より小高くなっている地点に達した。この辺りまで来ると鴨川沿いの集落と岩阿沙利山がよく望見できる。しかし、空を眺めると、いつの間にか青空は少なくなり、薄い高層雲が全天の八割を占めるようになってきた。

のなかを歩き出して間もなく、比較的新しい赤テープのマーキングを発見した。最初のうちは赤テープの案内する方向に違和感はなかったが、徐々に筆者の意図する下山方向よりも右に向いているので、これを追跡するのを止め、しばらくはほぼ頂上をたどることとした。踏み跡は明瞭だったり不明瞭だったりするが、できるだけ以前たどった時の記憶を呼び戻すように努力した。

北稜に近いときは比較的緩傾斜だったが、だんだんと急傾斜になると共に、周囲は杉の植林地帯に変わっている。「前はこんな急坂やったかな」と思い直しても、現実には通過したのだから、ここを登高したのは間違いない。そう言えば、本誌73号で「後は急坂に対する忍耐力・持久力の勝負となった」と書いている。  
 釣瓶岳西方尾根を下降して、特に植林地帯のなかで直角に交叉する横断道が多いのに初めて気がついた。以前に登高したときは全く気がつかなかった。やはり上から見下ろすほうが気がつくことが多いのであろう。

頂上から八幡谷に寄って行くよう意識的に方向を選んでいると、たどりやすそ

雨の心配はいらないだろう。また、進行方向正面左上方にはイクワタ峠と思われる北稜を望むことができる。現地点は標高790mで、岩阿沙利山を磁北東95度の方位に見る小ピークである。この辺りからは西方向に進路をとる。

そして、いつものことながら、背の低いクマザサが目立つようになる。北稜に近い。11時32分、北稜上の標高900mの地点に到達した。ちょうど、イクワタ峠から北向きに歩いて急坂をくだったばかりの地点である。後は逆に、6分間南方向に歩くと無事に標高923mのイクワタ峠に到着した。これで黒谷から栗木田谷を経て、笹峠にもイクワタ峠にも到達できたことになる。

ここからは釣瓶岳を目指す。稜線上にはベニドウダン・ナナカマドが満開、タニウツギは栗木田谷沿いと異なってまだ濃いピンク色の蕾のままである。標高差500mだけでこれだけ違うものかと認識を新たにした。途中振り返ると、先程の北稜に到るまでの金山谷北方尾根のこともりとした全体を眺めることができた。また、カラ岳に目をやると、本誌80号「カラ岳北方尾根を下山」でたどった道に切り抜けた。

うなトラバース道を見いだした。これをたどって尾根の上に引き戻されるように進んでいると、八幡谷に向かうザレ場に出合っ、そこで道は終息している。「こんな所が終点とは！」と恨んでも仕方ないが、比較的歩きやすそうなザレ場だったので、少しこれをたどってさらに下降した。すると、だんだん滑りやすそうな状況となってきた。滑って転んでもせいぜい打撲傷と擦過創程度だろうと判断したが、事無きに越したことはない。そこで、用心深くザックから20Lのザイルを取り出し、ニピッチ使って安全地帯に切り抜けた。

この辺りから耳を澄ませば水音が聞こえてくるようになった。水の流れる音は、樹間から西方を仰いでV字形に空が垣間見える方向と一致する。ここまで下降して来ればもう問題は無い。現在は八幡谷に平行して右岸高きにある山腹の踏み跡をたどっている。今回は八幡谷を渡る必要はない。その後、八幡谷縁の山道まで降りて行くと、前方に大きな堰堤を認めた。本誌73号で書いたように、やはりこの付近はタケニグサが多い。まだ続いている河川工事現場を左手に眺めつつ、

順と難渋した場所もよく望見できる。

釣瓶岳への登路は、目前の風景を見て次こそ頂上かと期待するが、二、三回裏切られた後にやっと本物の頂上に達する感がある。山頂直下にはオオイタヤメイゲツの若葉が散乱している。この木はここで会っても、どういわけか若葉がよく落ちていた。

12時18分、釣瓶岳山頂に到着。頂上には「界」と刻まれた石柱が建立されている。大津市と高島市の界という意味だろうか。昼食はナガオ尾根への下山道を足元に見て、45分間の大休止と共に楽しんで。空模様は青天が一割程に減っているが、いぜん薄曇りの高層雲のままである。

さて、昼食も終え、これから本誌73号「細川から細川越へ」で報告した釣瓶岳西方尾根を逆にたどって、細川バス停に下山することとした。釣瓶岳から細川越に向けて行って行き、ちょうど左カーブしている出合地点を以前のように同定した。

現在は13時16分。これから平成15年6月29日に歩いたときの感触を思い出しながら釣瓶岳西方尾根を下山する。自然林

細川バス停に14時41分無事に到着した。バスを待っていると、若狭から来た行商人がバス停広場でいつものように店開きを始めた。「兄さん!」「姉さん!」と呼び合う地元の人とのやりとりをおもしろおかしく眺めて時間をつぶした後、15時37分発の江若バスで堅田駅に向かった。

本日の収穫は、前半の栗木田谷からイクワタ峠に到達しようというコース確認なのに、皮肉にも後半の釣瓶岳西方尾根下降のほうが予想外の険路で印象深かった。(平成17年5月28日歩く)

#### ▲コースタイム▼

黒谷バス停(18分) 栗木田谷分岐点(6分) コンクリート製の橋(11分) 右岸に渡る橋(11分) 林道終点(9分) シグザグの山道(11分) 炭焼き跡(20分) 標高790mの小ピーク(18分) 北稜出合(6分) イクワタ峠(31分) 釣瓶岳(13分) 西方尾根への分岐点(1時間19分) タケニグサの多い堰堤(6分) 細川バス停

#### △地図▼

昭文社『比良山系』(2003年版)

新ハイ関西87号

標高△△87mの山

門内山 (1887m) 飯豊連峰)  
 鹿嶺高原 (1887m) 南アルプス)  
 雲谷山 (787m) 若狭)

門内岳

門内岳は飯豊連峰の中央部にある主峰のひとつの北股岳から北へ少しくだった所の小さな山だ。山そのものは小さな突起で山体の特徴はないが、山頂直下に門内小屋があるのが大きな魅力だ。

朝夕の美しい光線のとときに、山頂から北股岳や飯豊本山などの南方の奥深い山の景色や、北端の帆差岳の美しい姿をゆっくり眺められることは、たまらない魅力だ。また門内岳周辺のお花畑は、飯豊連峰のなかでもすばらしい場所のひとつだと思う。お花畑も朝夕の斜光線で

見る浮かび上がる花々や、朝露をたたく

ている姿などに、格段に印象深い山行になる要素を秘めているから、これらが実感できた時は、門内岳はすばらしい山という位置付けになると思われる。

(平成11年7月25日、26日歩く)

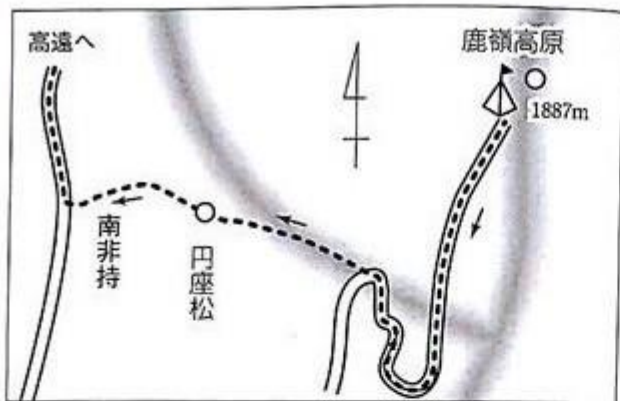
▲コースタイム▼

石転び沢末端(8時間)北股岳を経て門内岳(6時間)帆差岳

▲地図▼昭文社「飯豊山」

鹿嶺高原

時季を誤れば人で賑う山だが、私はこの山頂に3連泊のテント生活をして冬の



鹿嶺高原の朝

程だったが、奥深い山の風情に接することができた。途中から樹間越しに望む東駒ヶ岳や仙丈ヶ岳は、テント場の平地を前景にして印象的な姿で望めた。

下山の歩き出しはタクシーで登った林道をくぐったが、西側に尾根の踏み跡を見つけたので、カラマツの葉を敷きつめた茶色の尾根道をくぐった。

下界が近くなった所にあった円座松という一見に値する松を見て、南非持の集落に降りた。バス待ちが長過ぎるので高遠まで長い道のりを歩き通した。

タクシーを降りてから人里に下山するまでの69時間、人に全く会わなかった。だから鹿嶺高原は奥深い印象の山として心に残ることとなった。

それから9年後の昨年11月末、日本山岳会のスケッチ山行で再訪した。

テント場から細径をたどって最高地点に至るあのわずかだが、それがあつたことで奥深い印象として残ったのに、その斜面が公園と化していた。最高地点には階段で数段の高さに展望台が設置されていて、鶴岳から東駒ヶ岳、双児山や北沢峠付近を経て仙丈ヶ岳、そして地蔵尾根まで遮るものなく連なって見渡せた。

南アルプスの展望を楽しんだ。

年末の雪中生活を思い描いて高遠からタクシーに乗り鹿嶺高原を目指した。雪道になればタクシーはそれまで、というつもりで登り始めたが、雪が一向に現れず、また冬期閉鎖のゲートも開いていて、あっさり山頂直下の車道終点に着いてしまった。

雪はわずかししか積もってなく、ササの頭が見える程度だった。冬景色には物足りなかったが、気温が低いので3日間降雪がなくても解けることはなかった。

夕日が雪原をオレンジ色に染め、枯れ草の濃い紺色の影が雪原に平行線を長く引く。そのキリリと引き締まった美しさのなかに、キラキラと輝く雪の光は暖かく優しい。夕方の無音のひととき。

目を上げれば白く輝く東駒ヶ岳(甲斐駒ヶ岳の伊那側の名称)と仙丈ヶ岳が美しい。テント場の雪原から輝きが消えると、東駒ヶ岳と仙丈ヶ岳が赤く染まり始め、荘厳な一日のフィナーレを迎えた。オレンジ色が赤く濃くなり、その下の線が徐々に上がっていくと山頂の輝きも消えていった。暗闇が訪れるのはすぐだった。

テント場から最高地点まではほんの5分

(平成8年12月27日、30日歩く)

▲コースタイム▼

鹿嶺高原(4時間15分)南非持

▲地形図▼

2万5千倍濃溝口・甲斐駒ヶ岳

雲谷山

三方石観音の前に駐車し、山の会の5人のメンバーで登った。

残雪と展望を期待していたが、下の方は全く雪が残っていないので、松などの緑の木が多く北国の山という私のイメージからかけ離れた雰囲気だったが、三方五湖の入り組んだ湖岸線が眺められ、その湖の色が北国的に見えて感慨深かった。

標高400m付近で進路方向が南南東に変わり、標高点628mあたりからは残雪がしっかりある落葉樹の林のなかの道となった。最後はすっかり冬山の気分浸れた。(平成6年3月21日歩く)

▲コースタイム▼

三方石観音(3時間)雲谷山(2時間)

▲地形図▼

2万5千倍濃溝口・甲斐駒ヶ岳

## 早春の花巡り

# 妙義山と高尾山

みょうぎ さん

たかお さん

田中 明

関東

4月ともなれば花巡りはいっきよに忙しくなる。いつもの年と違わない。

でも今年、関東の山の花を見ようと山仲間と東への旅に出た。さすがに「所変われば品変わる」、道も険しく、なかなか骨のある妙義山だった。

JR信越本線西松井田駅から田舎道を行くと、雪煙を上げる真っ白な浅間山がどっしりと座っていて、山登り気運がしぜんに盛り上がる。前方には、表妙義の雄、白雲山が岩峰ピークを見せ、睨みつけている。岩峰の連続する稜線は、上級者コースだと山岳看板もうやうやくしゅく教えている。

我々は当然一般コースで、中間道から

「関東ふれあいの道」を予定する。

しかし、一般道といえどもなかには険しい鎖場が数ヶ所あり、最近では軟弱な花巡り山行ばかりで、久しぶりに緊張する山歩きとなった。

花が見られる樹木は少なく、キブシ・アブラチャンが満開である。多くはないがダンコウバイも満開であった。これからはクロモジ・カナクギノキに移るのだろう。イヌブナも茶色の新芽を大きく膨らませており、チドリノキは枯れ葉をいっぱいつけた状態で、冬芽が膨らむのはこれからである。

山野草は、ミヤマキケマン・ミツバツチグリ・ヒゲネワチガイソウに、タチ

鎖につかまりながら岩場を降りると、なぜかもう山歩きは終わりにしてほしいと思うほどであった。

緊張する時間帯も短くはなかったがどうにか岩くずの山道を歩き、石門から中之岳神社を経由して長い車道歩きの後に妙義神社への山道に入って、カタクリ・アズマイチゲなどの大群落に出会うこととなった。

京都での今年のカタクリの開花は相当遅くなっているので、この時季になるま

でまだ目にしていなかった。群馬県まではるばる足をのびした甲斐があった、と大群落に感動した。

帰りは妙義神社から長い長い舗装道路を歩いて松井田駅まで戻った。

2日目は、スミレの山として知られる高尾山の花巡りをするにした。

JR中央線高尾駅の近くに宿をと、翌朝一番のバスで日影から小下沢渓谷の山野草を愛でることにした。つまり裏高尾から高尾山を目指すルートである。

梅林から林道をつめていけると、思いもよらないハナネコノメ・ヨゴレネコノメソウの花々に出会えた。いずれも図鑑だけの知識で、何にもまして「百聞は一見にしかず」、嬉しさがこみ上げた。

さらにはミミガタテンナンショウも大きな耳たぶのようなヒレを見せ、伊吹北尾根でいつも見ているハシドリコロには再会したような気分となった。どちらの山でも見られるニンソウ・ユリワサビ・ヤマリソウが所狭しと咲き、さらにはイカリソウ・ヒトリシズカ・センボンヤリなども咲いていた。

一方、ヤマエンゴサク・ジロボウエン

ハナネコノメ



ツボスミレ・エイザンスミレが見られた。とくにガレ場付近に健気に咲いているエイザンスミレには思わず感動した。

登山道は、行くに従って次第にガレ場が多く出てきて険しさを増す。一番の難所である大の字岩峰の上では肝を冷やした。だが展望のすばらしさは何物にも代えがたく、眼下には上州平野がどこまでも続いている。

ゴサクを見慣れている我が目に、「あっ、これはヤマエンゴサクとジロボウとは違うぞ!」と言わせる、何か不思議な色合いのエングゴサクが群がって咲いていた。

この種は普通は苞が全縁か切れ込むかのいずれかだが、このエングゴサクはそのどちかが現れるのが特徴であり、また葉も線形または広線形はたまた卵円形など変化が多く、結局いろいろ全体を見ての同定が必要のようである。

そして庄巻はタチツボスミレは当然のことながら、アカフタツボ・アオイ・エイザン・ナガバノスミレサイシンなどのスミレ類が大群生で咲き誇り、次第に高度を上げる登山道沿いには一株一株と個体数は多くはないが、サクラスミレ・ヒナスミレ・ケマルバスミレなど8種が観察でき、今日ばかりは感動のスミレ花巡りとなった。

スミレの女王といわれるサクラスミレは見られたものの、アケボノスミレは見当たらず、高尾山で最初に採取されたといわれる期待のヒカゲスミレの一種で葉の表面がこげ茶色のタカオスミレをピジターセンターに立ち寄って尋ねるも、残念ながら開花時季が4月下旬であると知



# 山歩き & ウォーキング 総合カタログ

2006年3月 ▶ 山歩き & ウォーキング  
2007年3月

2月下旬完成予定 **送料無料**

お電話・FAX・お手紙  
ホームページから **ご請求ください!**

## 山歩き & ウォーキング (年間総合カタログ) ▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー! 写真も満載!

### ツアーのポイント!

- 安全・安心登山宣言。  
全コース日本山岳ガイド連盟認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎。
- 日帰りの低山から、憧れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。



## 大阪支店に 高山病対策 & 高所登山はこれで解決!! 低酸素室設置!

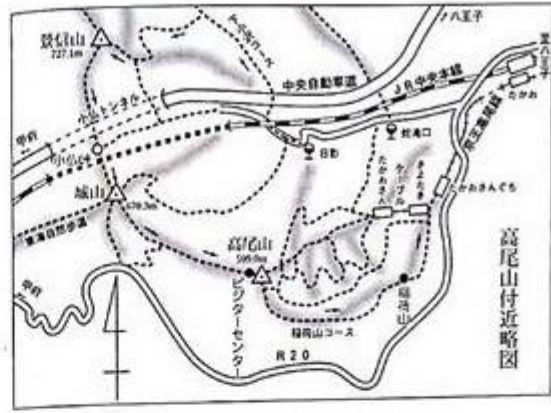
「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高所登山を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



- ① まず低酸素室に約30分間入りませう。
- ② 次に息継ぎの状態、心拍数と血中の酸素飽和状態を計りながら、自転車に乗って30分間トレーニング。
- これで終了です。できれば徐々に標高を上げながら施設にわたっての使用がおおすすめです。

●利用料 (1回/1時間) ¥2,700

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社  
**アミューストラベル株式会社** 国土交通大臣登録旅行業第1306号  
 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員  
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階  
 ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
 E-mail: [amuse@amuse-travel.co.jp](mailto:amuse@amuse-travel.co.jp)  
**06-6456-3366** FAX 06-6456-3377



サクラスマイレ センターで確認すると、高尾山で見られるスマイレ類にはヒナスミレ・オカスマイレ・ニオイタチツボスマイレなど合わせて15種もの多くを数え、「スマイレの高尾山」で名を馳せているらしい。

レ・ニオイタチツボスマイレなど合わせて15種もの多くを数え、「スマイレの高尾山」で名を馳せているらしい。

我々の登山順路は景信山に登り、サンシュユをゆっくりに眺め城山へテンプよく稜線歩きして、アップダウンを繰り返しながら、好天なら富士山が見られる展望台より高尾山に到着したが、人の数の多さにびくりしてビジターセンターに逃げ込んだ。

だが、このセンターは女性の応対もさわやかで親切なのがうれしい。京都から来たと告げると、「東海自然歩道の関係から箕面のビジターセンターにも先日行ってきましたが、植生がこちらと相当違い、いいところですね」と、話はずんだ。

そういえば東海自然歩道は、大阪の箕面から東京の高尾山までのことなのだ。いろいろなパンフも手渡してくれ、今見頃の花たちの説明も感心しない。仕事とはいえ、このようなやさしさあふれる話にはるばるやってきた者は、リピーターへの気持ちにさせられる。

この山は大都市近郊の山としては珍しいほどの天然林が残し、意外なほどの多

くの植物たちに出会える山域として関東の人たちには人気のフィールドのようである。

標高は599mと里山並みであるが、どうしてどうしていろいろなコースが用意されている。1号路から6号路までの自然研究路の選択可能なコースがあり、早春の頃、関東の山一番のおすすめである。これからは何度でも訪ねたくなる山となってしまう。

「下りのコースはどこが一番いいでしょうか」との問いに対して、「カントウカタバミが咲いているはずだから探してみてください」と、研究路以外の稲荷山コース、いわゆる尾根コースをすすめられた。

しかし、残念ながらカントウカタバミは見られず、出会うのは登ってくる多くの登山者ばかりでうんざりであったが、これも我々の眼力不足だろうと、お互いに慰め合うことで心を静めた。

(平成17年4月5日~6日歩)

\*花歩きのためタイム取らず  
 地図▶  
 昭文社「西上州妙義」「高尾・陣馬」



## 新ハイ例会自然観察山行

# 西穂丸山と鍋平高原

鷺見守康

北アルプス

### 西穂丸山

未明の4時前にペンションに到着したときは雪が舞っていた。真冬のこの時刻に朝食までバス車内で待機するのは辛い。あらかじめ、時間外のチェックインの了解を得ていたので、蒲団に入って休むことができた。

冬型の気圧配置が強まり、飛騨地方は本格的な雪となる、という天気予報だったので、私は半分以上きょうのスノーハイキングをあきらめていた。ロープウェイで千石平園地まで行き、吹雪になったら奥飛騨の温泉巡りでもしようか、などと考えていた。

数時間の仮眠の後、朝食。雪は止んで

いるが、空にはどんよりとした雲が広がっている。けれど、やがて日が差し、青空も見えるようになった。「なんとか行けそうだ」と心も軽くなる。

ロープウェイの新穂高駅に着いたのは、8時を回っていた。予想に反し、切符売場にも待合所にも乗客はなく、館内は閑散としていた。4時の始発に、登山者ばかりでなく観光客さえ並ぶ真夏とは、かなり様子が違う。「始発時間には誰も居ないんだ……」といささか拍子抜けの状態で、私は独りぼんやりしていた。ところが間もなく、ツアーの添乗員らが姿を見せ、切符売場に並び始めるや、ドタドタと大勢の観光客が押し寄せて待合所に

ガスの巻く穂高稜線（長尾一令氏撮影）



列をなしたのだった。

私は慌てた。居合わせたKさんに皆を招集するように頼んで、切符売場に並んだ。油断大敵である。

8時30分の始発に乗車。しらかば平駅で国内初の二階建ゴンドラに乗り換えた。ゴンドラから、槍・穂高、縦沢、鷺羽、双六、抜戸、錫杖などが見える。すばらしい眺めだ。女性陣から人目をはばから

ぬ欲雨があがる。

やがて、千石平園地に到着。展望台からもう一度山岳景観を堪能し、出発した。

私たちが本日の一番隊らしく、期待したトレースは無かった。ラッセルのしんどさを思い、わずかに気持ちがあじろいたが、青空を仰げばもはや行くしかない。



人間の足跡のない雪原に踏み込むと、雪はパウダー状で軽かった。「助かった」と元気づく。

西穂高登山口で、女性3人男性1人の4人パーティが追い抜いて行った。男性がカンジキを履き先導しているが、女性のほうは坪足だ。4人パーティの先行で私たちは楽にはなかったが、1人でのラッセルはやはり苦しくなる。結局、途中で私たちが追い抜くこととなった。亜高山帯針葉樹の森のなかなので、見晴らしはあまりきかないものの、要所所で穂高の雪嶺が輝いて見える。

比較的平坦な道をスノーシューで快調に歩いてきたが、西穂山荘が近くなると傾斜が増す。奥美濃の野伏ヶ岳でも経験したことが、スノーシューを履いていると、どうもアイゼンを使うタイミングをはずしてしまいうようだ。この時も、山荘直下の斜面でアイゼンに履き替えるべきだった。斜面が雪の壁のようになり、その壁をトラバースするルートが歩きにくく、そのため、当該ルートはずして丸山方向へ直登のルートをとった。ハイキング用スノーシューのクランポンでは、雪面への食い込みが足りず、体力を余分

に消耗してしまい、ここで、4人のメンバーが撤退した。

11時10分過ぎ、なんとか西穂山荘に到着。高山の冷気と寒風を避け、山荘の暖かいレストランに逃げ込んで昼食をとった。小屋は窓に板を打ち付けて閉鎖しており、この時期の厳しさが窺える。以前、例会山行で八ヶ岳の鏡枯山荘に泊まったときには、ひと晩中蒲団の中で震えていた。冬季の山小屋泊は、できるなら避けたいものだと思う。

食事後、丸山に向けて出発。森林限界を超えた尾根は、強風に雪が吹き飛ばされ、アイスバーン状になっていたが、大した傾斜もないので、スノーシューのまま進む。バリッバリッと凍結した雪を割り、行ける所までを目標とする。足元はともかく、2004年の根子岳で経験したような強烈な風と厳寒とを心配したが、幸い、烈風に見舞われることなく、丸山に到着した。

厳冬のアルプスの稜線に立つなど夢のような、と言う人もいて、凛と張りつめた大気のなか、しばし、真冬の北アルプスの大景観に眺めいる。夏にはお花畑となる「大斜面」はすぐ目の前である。



鍋平高原のクマ樹

新穂高駅からロープウェイで急峻な斜面を一気に登ると、鍋平高原である。雪の高原が広がり、新穂高ビクターセンター「山菜館」によってスノーハイキングコースが開かれている。同センターでは、スノーシューやクロスカントリースキーのレンタルも用意されており、スノーハイキングマップも入手できる。この山菜館の物品販売コーナーに、知

り合いのGさんの絵画が展示してあった。見なれた水彩の風景画だ。山菜館職員によれば、聴覚障害のGさんは、もう4年ほど新穂高に通っているらしい。職員の言葉の端々には、Gさんに対する親しみと優しさが感じられた。

同センターから東側の平坦地を進み、北側の谷沿いに進んで、夏の散策道に沿って歩いた。クロベやウラジロモミなどの針葉樹に混じって、シラカバ・ゲケカンバ・ミズナラ・ブナ・ホウノキが林立する。降雪で消されてしまったのか、動物の足跡は見当たらない。

やがて、折れた枝がひっかかっているブナを見た。「クマが折ったのかもしれない……」と独り言のように呟いたのだが、次に見た木の樹冠には、枝が果のように束ねられている。「クマ棚かも」という思いに緊張が走った。期待にドキドキしながら接近すると、なんと幹にはクマの爪跡が鮮明だ。「クマ棚です！」私は興奮気味に叫んだ。

メンバー全員がブナの老いた大木を囲んだところで、クマ棚の説明をする。クマは、好物のブナ材の果実（どんぐり）を食べるとき、天才的な木登りの技を発

揮して樹上に登り、枝をたぐり寄せて果実を食べ、食べ終わった枝は折り、次々と尻の下に敷いていく。そうして出来上がった形が「クマ棚」である。

まるで見本のように見事なクマ棚と爪跡を写真に収め、久々に感激した。

（平成17年2月26日〜27日歩く）

▲コースタイム▼

（26日 晴れのちくもり）中尾温泉3・15（仮眠・朝食）7・50（バス）新穂高駅8・10〜30（ロープウェイ）西穂高口駅9・10〜西穂高登山口9・15〜西穂山荘11・10（昼食休憩）11・40〜西穂丸山12・05〜15〜西穂山荘12・40〜13・00〜西穂高登山口14・05〜西穂高口駅14・15〜15・00（ロープウェイ）新穂高駅15・25（バス）中尾温泉15・45（泊）

（27日 晴れ）中尾温泉7・40（バス）新穂高駅8・00〜30（ロープウェイ）鍋平高原駅8・50〜鍋平高原スノーハイキング10・45（ロープウェイ）新穂高駅11・00（バス）ジョイフル朴ノ木11・45（入浴・昼食）13・40（バス）岐阜駅18・10（解散）

△地図▽昭文社「上高地・槍・穂高」



厳冬の西穂山荘

その大斜面を単独行の登山者が登っている。この大斜面を越えれば、やがて独標だ。天気はいいし、時間もある。「行きたいな」と思う。アイゼンの装備もあるから、無理な話ではない。待て待て、今回はあくまでもスノーハイキングだ、と自らに言い聞かせた。

西穂山荘に戻り、雪の広場で「せんざい」を温め、「しゃぶしゃぶ餅」を全員

で味わう。寒さのなかでは、甘くて温かいものもいい。

13時、下山開始。復路では、西穂山荘を目指す何組ものパーティとすれ違った。スノーハイキングの私たちとは違い、明日は西穂独標を目指すのだろう。それぞれのパーティが醸し出す、いわば実力者集団の空気に圧倒されたのか、3人パーティとのすれ違いざま、Hさんが相手の女性に「ここまで登ってこられたの？ すこいですね〜」などと声をかけた。そのトンチンカンな問いかけに当の女性は「あなたたちも登ってこられたのでしょ」と突っ当った。

すれ違うパーティのなかには、まったくの坪足グループもいた。すっかりトレースが出来上がっているのだから、坪足でも容易なのだ。なるほど、こうした時間帯ならなんなくトレースをたどることが出来る。夏季などに比べて登山者の出足が遅いのは、こういう事情なのか、と納得した。

新穂高駅からペンションへの帰路、流岳が荘厳な山容を現していた。

鍋平高原

オリジナルザック & 登山用品専門店

◆里山ザック◆

神戸ザック <http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

新製品紹介

味わい深い、綿帆布の小型ザック

昔懐かしい綿帆布と本革を使い内外のポケットに工夫をこらした小型のザック。里山歩き、街歩きにご愛用下さい。

☆のうさぎ18/☆

☆カラー サンドベージュXキヤメル

☆重量 780g

☆素材 綿9号、牛本革

☆価格 ¥15,000

☆たんぽぽ18/☆

☆カラー サンドベージュXキヤメル

☆重量 660g

☆素材 綿9号、牛本革

☆価格 ¥15,000

イモック山遊行くらぶ

春、夏、秋、冬、季節を気にせず里山・登山・名山を訪ねます。

詳細はお問い合わせください。イモックと存んで下さい

IMOCK KOBÉ

〒653-0020 神戸市長田区日吉町3丁目1番20号 カナゾノビル2F

TEL (078) 621-5851 FAX (078) 621-3528

■営業時間/10:00-20:00 ■日曜日不営業

八風峠はつふうとう近くにある

# わが心の仙香池せんこういけ

鈴鹿

長谷川 雅 俊

鈴鹿の山中には、地図に載っている水舟の池以外にも魅力的な池がたくさんある。なかでも御池岳では、近藤郁夫氏や山田明男氏が精力的に探索されて、多くの池が発見されているのは、新ハイの読者なら皆さんご存知のことと思う。小生もそんなお2人のやぶ漕ぎ山行ウィルスに汚染された哀れな犠牲者?の1人である。

御池岳の池の中でも、やはり幸助の池は文句なくすばらしいが、小生が一番好きなのは南池である。池の周りの雰囲気も合わせて何となくおやかな感じが、とても気に入っている。

そして御池岳以外で、小生にとってお

きの池が田光から西へ向かった所の八風峠近くにある仙香池である。仙香池とは仙香山にある池のことだが、この辺りでは三池岳のお菊池が有名だが、風格・雰囲気共に仙香池のほうがはるかに上である。最初、この池を見つけたのは、ガスのなかを彷徨っている時だった。そのあまりの幽玄さに思わず立ち尽くしたほどだった。どう表現したらよいか小生の乏しい語彙力では難しいのだが、「竜神の潜む池」という感じで、胸が高鳴ったのを今でもはっきりと覚えている。

昔、石森章太郎という漫画家が初期の頃に「竜神沼」というマンガを描いていたが、その沼のイメージとこの仙香池の

仙香池



イメージが小生の頭の中でまさに一致したのであった。物語は、東京から母の実家のある山奥へ、お盆に帰省した、健一という学生と竜神沼に住むお姫様との淡い恋物語だったと思うが、なぜかいまだに覚えているというか、小生の心の片隅に残っているのである。

そのせいなのか、それから何度も仙香池に、竜神の化身である竜神姫に出会え

ないものかと、スケベ心を出しては通っているのだが、残念ながらいまだに出会えていない。

しかし、いつもこの池がすばらしいのかと言うと、そうでもない。やはり、天気が悪くガスっているか、雨の時のほうが、青空の下ではそういう風情は期待できな

いので、天気の悪い時に、1人でそと出かけるのが最高の山旅である。そんな感じで、いつも悪天の時にしか出ていたのだが、今回は黄葉でも見ながらと天気を気にせず出かけることにした。

前夜、22時32分自宅出発、田光射撃場

上の空地に23時49分着。シュラフに包まっ

て朝5時起床。まだ暗いのでヘッドライトを灯けて5時32分に出発する。

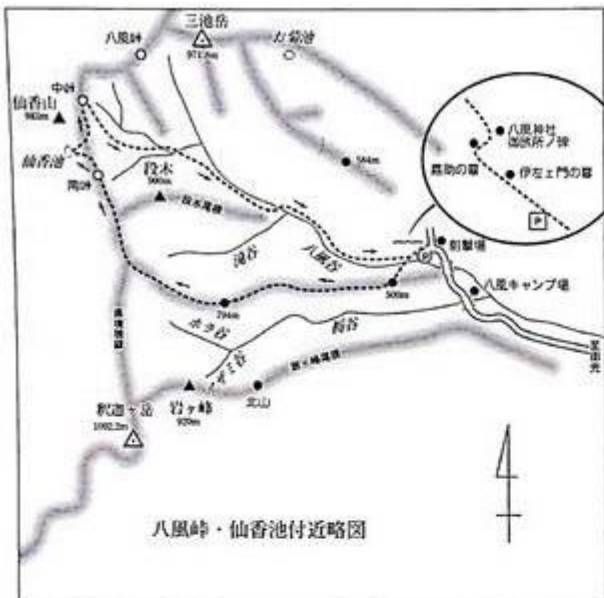
今回はまだ一度も登ったことのない、段木尾根と岩ヶ峰尾根との間の大平からのびている無名の尾根に登ることにする。暗闇のなかを八風東谷に降り坂を渡ろうとしたが、渡渉できず、戻ってしばらく左岸を歩く。数分すると水流の音が大きくなったので、ま

た、沢に降りると何とか渡れそうだった。飛び石伝いに対岸にたどり着き、そのまま尾根を直登する。急な斜面を、220度へまっすぐ登って5時53分に台地にのる。ちょうど、地図上で5000円のコンタールラインの右の丸い円の所だと思ふ。そのまま262度へ進むと、しばらくして袖道に出合ったのでホッとす。少し明るくなってきたのでライトを消す。

6時4分に右手の空がオレンジ色になり、7分に鹿の第一声が右手前方より聞こえる。6時25分には右横で鹿の鳴き声が三回、ビーの後で、プーッという鼻息のような音が聞かれて思わず笑いだす。

6時33分、620円で朝食にアンパンを食べる。このアンパンは99円ショップにて五個入りで売っているもので、小生にとって冬の山行では欠かせないものとなっている。

650円には尾根右手に雰囲気の良い台地があった。7時に下の射撃場から散弾銃の音が響きた。7時7分、735円で岩ヶ峰の方の見晴らしが良かったが、三池岳の方は雲が多く残念ながら頂上は隠れていた。7時20分、790円で右側に展望のよい砂ザレのピークがあり、立



八風峠・仙香池付近略図



三池岳（頂上はガスで隠れている）

派な松の木がある。おそらく北側からは、はっきりと確認できると思う。

845分で左手（南側）の谷から水流の音が聞こえてくる。7時45分、880分になると南側の眺望が開け、急な岩峰帯が続くようになり、それなりに正確な三点確保が必要になる。

8時6分、960分でようやく雲間から太陽がのぞく。左手に岩ヶ峰・釈迦ヶ

よろしくテーピングやマキキングが数メートルおきに取り付けられているようで、趣も何もあったもんじゃないようだが、ここもそうなってしまったのだろうか。

この池は、水が多い時は一つだが、今日は秋の好天続きのせいで、二つに分かれていた。しかも残念ながら巖窟とした樹林のなかにひっそりとたたずむ池とか霧雨やガスのなかに浮かび上がるような



岩ヶ峰、釈迦ヶ岳を望む

岳の見晴らしが良く、一服するのにちょうどよい。

8時13分、975分でようやく八風峠から釈迦ヶ岳へ至る県境稜線に到着。地図で確認すると970分位なので今のところ、高度計は正確だ。

しばらく北西に向けて、のんびりと稜線歩きをしていたら、何と、段木尾根への取り付きのプレートがあるではないか！今まではガスっている時など、尾根への入り口がわかりずらくて苦勞したものが、いつの間に取り付けられたのだろう……。このぶんでは、もう少しメジャーな岩ヶ峰尾根への取付点もプレートがあるに違いないと思うと、何となく悲しくなってくる。最近では、テープやプレートがそこらじゅうに付けられていて、自分でルートを探す楽しみが奪われているような気がするのは小生だけでしょうか？

8時28分に水場を通過、こんな稜線上に滾々と水が湧き出ているなんて、本当に不思議だ。この水のお蔭で癒されたことも何度となくあるが今日はバス。8時30分に南峠着。ここにも南峠のプレートがある。今まで一度も気づかなかったが、

幻想的な池ではなく、黄葉と落ち葉であっけらかんとした明るい池であった。幽玄もワビもサビもない仙香池は初めてであったが、これも悪くはないなと思われて、ピクニックに来たようなウキウキした気分がさせられた。

今日はとても憧れの竜神姫には出会えそうにもないので、30分程写真撮って、中峠から下山することにする。

9時13分、中峠を通過。谷の水場を横切り、9時22分に南峠・中峠分岐に到着。このあたりの穏やかな感じも小生の好きな所で、釜跡もある。やはり昔の人もこういう雰囲気が好きだったのだろうか？一度、ツェルトを張ってゆったりと一晩過ごしてみたいものだ。

そのまま谷心から離れ、右岸尾根をくぐって、ふたたび釜跡を過ぎ、谷の右岸に出るが、ちょうど、右手から谷が合流し、合流点から左岸に渡る。この辺りにはまだマムシグサの実がたくさん付いている。

9時48分に堰堤の上に着、右岸を降りる。次の堰堤の下を左岸に渡ると、ブルーシートに囲われた洋式トイレが設置されていてビックリした。まさか登山者

昔からあったのだろうか？

さていよいよ目的地の仙香池を目指すわけだが、どこから行こうかな？とoriaあえず仙香山へ登って降りるか、そのまま初めて池に出会った時のようにまっすぐ出会いに行くかと、わくわくしながら歩いていると、何とまた木に仙香池と書かれた赤いテープのマキキングが……。しかもこのテープに二つも……。うーん、いつの間にかこんなにメジャーになっていたとは……。小生が初めてこの池を見つけた時に、鈴鹿の大御所といわれている方の何人かにお尋ねしたところ、どなたもこの池をご存知なかったのに。

最近、鈴鹿の山のホームページの掲示板にこの仙香池のことを書き込んだのが原因かなあとも思ったりして、まさにインターネットの威力を実感する。

このせちがらい世の中で、私財を投入してマキキングやプレートを取り付けるなんて何ぞ奇特な人なのだ！これで迷わず気楽に歩くことができる。あまりのうれしさに涙がちよちよぎれる私であった。

そういえば、昔は秘境といわれた「ブナ清水」も、今では北アルプスの表銀座

のためではないと思うが、観光客のためなのだろうか？ そのままさらに二つの堰堤の左岸をくだり、西尾本で有名な、「八風神社御旅所ノ碑」に出合う。この碑の林道を挟んで少し右手の土手の上に、嘉助の墓があるので、今回の山旅の無事を感謝してお参りする。そして次は伊左エ門の墓にお参りする予定が、気づかずに通り過ぎてしまった。今まで一度も通り過ぎたことがなかったのに！うーん伊左エ門さんに嫌われたのか、と考えながら駐車場に到着、10時17分だった。

自宅に12時着、何気なくスポンジのポケットに手を入れたら、何と仙香池のマキキングが二つ共出てきたではないか。小生には全く身が覚えがないのに……。本当ですよ……。うーん、小生もボケたものだ。（平成17年10月30日歩く）

#### A参考タイム

田光射撃場上の空地5・32―台地にのる  
5・53―県境稜線8・13―水場8・28―  
南峠8・30―仙香池8・45―中峠9・13―  
南峠・中峠分岐9・22―八風神社御旅  
所ノ碑10・02―駐車場10・17  
△地形図V2万5千御在所山

## ぶらりテント泊の1人旅

# 小豆島・星ヶ城山

筒井 克治

## 瀬戸内海

青春18きっぷが発売されるとどこか遠くに行きたくなる。御大師様のミニ廻路に出かけた。

(8日)

1月の三連休は信州の山にでもと思っていたが、強い寒波が入ってチョッとためらう。

いつか読んだ記憶に瀬戸内の小豆島がある。若い頃行きたかった所で、なぜか思い出されるのだ。

早速資料を調べるが……めんどくさい、行けばわかるかと、テント装備でJR関西線河曲駅一番電車に乗った。

快適な列車、連絡もよくて播州赤穂駅

14時大部の集落路地に行く。プロパンを運ぶ人に尋ねると、「前は山道があったんだけど、道路を横切る道は残ってらんか？」

川沿いに行く竹藪のなかはハナからバリエーションコース、それらしき道跡をつないで行く。やがてゆるやかな尾根らしき所を伝う古いテープや粗も確認する。やはり古道はあるのだ。尾根まで2時間位かな、夕暮れまでには着くだろう。

雑木のなかの道は右の方向に引かれていく。思いとはチョッと違う感じだ。雑木林の尾根が終わわり、小さなコブから霧閉気がガラッと変わる。ザレた斜面は伐採跡のようだ、道らしきは無い。右に左にきつい斜面を上がると、大きな岩壁に突き当たった。廻り込もうとしてもグルリと岩柱が立ちはだかり、とても上がれそうにない。下方は海が思わぬ近さで見える。

里から遠目に見ていた岩壁の基部にいるようだ。ダメだこりゃ……出直しだな。左に左に捲いて降りて行く、岩壁は凄さも感じられ、修験道のような。三十年程の植林地帯はゴロゴロの岩崩れ帯で苔が覆っていて足を取られて歩きにくい。

から日生駅に11時に到着。フェリーは12時30分発で余裕の時間がある。

ゆっくりのお昼にしよう。波止場前はいいロケーション、コンロにうどん鍋と熱燗はいつものスタイルだ。

日向ポッコのおばあさんと話す、脇に猫も日向ポッコで眠ってる。フェリー売店のおばあさんは、若いときに山へ歩いて登ったと。霊場八十番の子安観音寺の横から登ったかなりあ、と記憶は曖昧だ。

フェリーは数人の乗客だけで快適だ。景色を楽しみながらブシュー(缶ビール)がうまい。1時間少して大部港に到着。

質素な大部港からわずかで観音寺。同船だった母と姉弟の家族が受験祈願と百

雪も降り出し、16時半を廻っている。こんな所でビバークは嫌だなあと思いつながら頑張って道路に出た。

広い道路で、つづら折れの下には遠く港が見える。日暮れも近いし道路を上がろう。ウンが良ければ誰かが拾ってくれるかな。テント場を探しながら行く。

道路脇に雪が出てきて寒そうな霧閉気だ。車が上がってきたが愛想なく通り過ぎて行く。まだまだ遠そうだなあ、二台目がきたがそれも愛想なしだ。

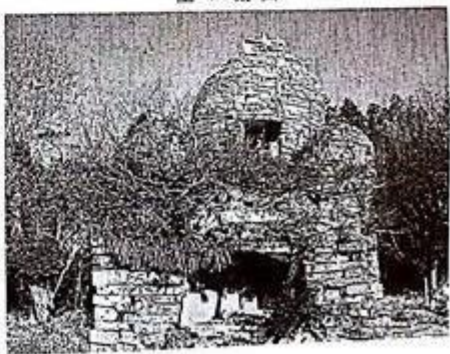
上から車が降りてきた、先に登って行った車には娘が2人。「おっちゃんどこまで行くんや」気になって戻ってきたとか。「乗りなつて」と言われ、便乗させてもらう。

話せばただドライブしてるだけとか。「若い人は皆出ていくよ。何も無いもの島には」四望頂で降りしてもらい、助かりました。

寒霞沢を見下ろし、帯水の向こうは四国の山が雲を被って浮かんでいる。日暮れだ、小さな灯りがポツポツと灯りだした。

外は寒いがテントの中は夕げの準備で暖かい。お腹を満たして眠りについた。

星ヶ城山



日参りにお堂に入る。何となくホッとすような空気の流れ、好きなあと思う。私も廻路になろうと思ったたりして……和尚さんに山越えする古道はありますか？と問う。もう廃道となり知らないとのこと。右手の山の中に観音堂があると聞く。それから尾根通しで行けるのかな？地形図はもってきかないし駅で買った絵地図だけでは心もとないが、上に登ればよからう。時間切れならテントにすればよいか。

夜半は風の神が遠く吠えた後にきて、バタバタとテントを叩いて通り過ぎていく。冷え込みがきつく、テントの中の水は凍りとなる。天気は良くなるかな。寒い、温かいお雑煮を食べてまた眠る。

(9日)

薄明るくなり風は止んでいた。夕べに耐は無くなって、どうも気合いが入らない。展望台に登る。陽は上がってるだろうに、山へ光は射して来ない？ やがて影となっていた岩峰の後ろがモルゲンロー

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)  
・中型 (28人乗り)  
・中2階 (45人乗り)  
・大型 (55人・60人)  
いずれもサロンカー  
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372



播磨灘



ホラ貝洞窟

ト(朝焼け)で明るくなると、段丘の山斜面が黄金色に染まる。その先はまだ暗い海につながっていた。  
テントを片付けて出たのは8時、遊歩

道を写真を撮りながらゆっくり行く。いい眺めである。ゴンドラの索道は寒霞溪の真ん中を通っている。駅前はまだ誰もいない明るい広場だ。

茅原の三笠山から遊歩道を通り、星ヶ城跡に史跡を見る。鞍部へ降りて登れば空が開けて東の山頂は一等三角点の星ヶ城山(819m)だ。

目の前に飛び込んで来る海原は太陽の光を反射している。目の前を雲の塊が通り、空気が冷たいけれど暖かい。頂の真ん中には特徴のある石積み遺構が鎮座している。思っていたより小さい。真ん中のドームを取り囲む四隅の小さなドームは異国の雰囲気だ。それぞれに仏様がまつられていたのだろう。正面に廻れば真ん中ドームに仏様がおられた。基部の祠には石仏が八体ほど並んでいる。

霜の降りた祠前で朝ご飯。メールしながらゆっくりと時間が流れていくだけ。遠くの橋は鳴門海峡、あの海峡も渡ってみたいなあとおもって思う。

帰りにゴンドラ駅に寄り、耐を買ってお湯をもらい、裏八景を降りる。松茸岩でチョコッとひと休みする。石門洞は自然の作り、十八番札所は不動明王が凄顔で

見下ろしてござる。お参りで堂内を巡らせてもらう。

少し降りると巨岩の立つ山中から人の声がする、女性を引き連れた登山者が急斜面を登っている。こんな所からパリエーションコースを星ヶ城山に登るのか? しかし、行けるのかなあ? くだった所にホラ貝洞窟遺跡への案内があった……なるほど納得だ。

広い道に出て、案内の道路道に入る。振り向けば鳥の山稜が広角に見渡せる。捨てられた段々畑、入り江の海が近づいてくる。今夜はどこに泊まろうか、食料と泡を仕込まなくては……

船が出るぞいで乗っちゃった、高松はミソレ模様。立派な駅前にモダンな駅舎、列車が出るぞいで乗っちゃった。

瀬戸大橋を渡り、岡山で乗り継ぎよろしく船路についてしまった。また来ればいいさ。  
(緑水)

(平成17年1月8日〜9日歩く)

▲コース▼タイム取らず\*参考図略  
日生駅(船) 大部港―四方頂(泊)―星ヶ城山―草壁港(船) 高松駅  
△地形図▽2万5千1寒霞溪・草壁

## 連載

### 旗振り通信の研究 ⑳ (補遺5)

# 旗振り通信の資料Ⅷ

柴田 昭彦

【阿武山の旗振り場はどこにあったのか】

筆者は、前回(補遺4)で示した疑問「阿武山の旗振り地点は、阿武山古墳(貴人の墓)の西なのか、山頂三角点であるのか」に関連して、その手がかりを得るためには、阿武山の山頂のすぐ西に設置されている案内板の全文と、宇津木秀甫氏が「安威郷土史」に報告している山頂の石敷(旗振り跡といわれる)の現在の状況を確認する必要があると感じて、平成17年6月12日に出かけてみた(地図は前号参照)。

JR富田駅前から奈佐原行きのバスに乗り、終点で降りる。少し北へ行くと、

殿岡神社である。鳥居の横には高槻市教委の案内板があり、次のような内容である。

「殿岡神社は宇賀御魂神を祭神とし、かつては稲荷神社と称した。創建の年月は不詳であるが、社伝によると、奈佐原近在の四か村が干ばつに苦しんだとき、神輿を阿武山の山頂、殿岡の峰に埋めて降雨を祈願し、その霊験に因んで殿岡神社と称するようになったという。この伝承は、古来、当社が奈佐原四箇庄の鎮守であったことを示している。」

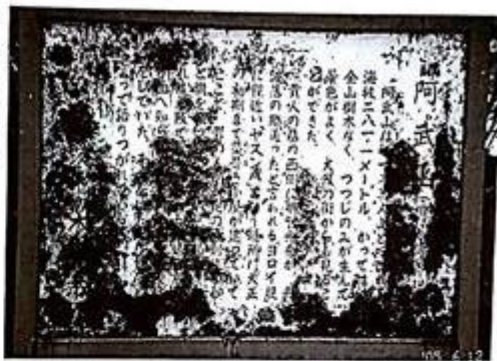
宇賀御魂神は須佐之男命と神大市比売命との間の御子で、宇賀は食の意味で、食物・五穀・主食を司る神である。

食の御魂とは稲魂(稲の精霊)を神格化したもので、稲荷神社の祭神となった。宇賀神は稲神で、弁才天や白蛇神と同一視され、水神として信仰された。

奈佐原バス停に戻ると、そのすぐ南に「歴史の散歩道 古墳群コース」の道標があり、これに従って西へ道なりに歩くと、やがて、地震観測所のゲートから入ると観測所の南側に出る。左から廻り込んで北に向かい、阿武山古墳の横に出る。詳しく書かれた説明板(平成元年設置)がある。今は樹木が茂っているが、ツツジのみで草刈り山だった頃は東西方向に通信可能な立地と思われた。

北へ歩くと、茨木市の桑原橋バス停からのコースと合流する。古墳の案内板がある。鉄塔のそばを過ぎて、やがて道が二手に分かれる。どちらをとっても山頂三角点に出られる。

三角点の西側の道標分岐の傍らに、阿武山の案内板が建っている。表面はかなり錆びていて、ところどころ、読み取れなくなっているが、文字は縦書ききちんと並んでおり、字数から矛盾のないように再現してみると次のようになった。この全文は、筆者の知る限りでは、今まで活



阿武山の山頂（三角点）の西側に建つ案内板

字になって紹介されたことがないようだ。

【阿武山（相場の旗振り場）】

阿武山は、一名美人山と呼ばれ、海拔二八一・一メートル、かつては、全山樹木なく、つつじのみが生えて景色がよく、大阪の街からも見ることができた。

貴人の墓の西側に明智光秀が、丹波落の際通ったと言われる「ヨロイ堤」に程近い「ヤスンバ」という場所に大正の初

期まで葺き小屋が建っていてここで、男の人が一定の時刻になると旗を振っているのが見られた。これは大阪で開かれている相場を京都方面へ知らせるための中継所の役目をしてきた。それを「はたふりさん」と言って語り継がれている。

茨木市

阿武山の標高は、現在の2万5千分の1地形図「高槻」にあるように、1992年の改測によって、280・9に改訂されている。

文中、「かつては」は口頭語として使われることもあるが、本来は「かつては」である。「ヨロイ堤」は書き誤りで、「ヨロイ堤」が正しい。ここは明智街道と呼ばれる軍用路であって、江州坂本、京都愛宕山南麓、角田、根尾根と南下していた。「鐘堤」と呼ばれる堤防は、その形が鐘に似ていることに由来する。「ヤスンバ」は休場で、人間の背負運搬時の休憩所、賦が移動中に必ず休む場所、神が降臨する際の休み場等に命名されている。

案内板の内容からは、前回に示した阿武山についてまとめた7項目のうち、「①美人山ともいう」「④山頂は今も展望

がないが、昔はツツジのみで見晴らしが良く、大阪の街から見えた」「⑤南の貴人の墓の西側のヤスンバに葺き小屋があり、男の人が相場通信をしていた」の3つが裏付けられた。

ところが、「②旗振り山ともいう」については案内板にはどこにも見当たらない。「相場の旗振り場」「はたふりさん」とあるだけである。旗振りをしてきた山を各地で旗振り山というので、阿武山が実際に旗振り山であったことに異論はない。しかし、案内板の文の「はたふりさん」は旗振り山ではなく、旗振りをしてきた人のことを親しみを込めて呼んだものである（本誌65・76号参照）。

阿武山が旗振り山とも呼ばれたという記述は前回で示したように多く見られるが、少なくとも、情報源である案内板はそのようなことを解説しておらず、このあたりは誰かが「はたふりさん」を「旗振り山」と勘違いして書いた記録がチェックされることもなく、そのまま引用されているのではないかと思う。

たとえば、HPで「大阪府の山紀行」に、「山の解説板があり、この山は旗振り山とも呼ばれていた」「男が一定の時

刻になると旗を振っていたから、旗振り山と呼ばれた」とあるのは、その誤解の一例と言えよう。

③昔は入会地で採草地であった」ことについては、茨木市史等によったものだろう。

⑥阿武山の南西が休場である」との説明は茨木市のパンフレットに示されたものである。案内板は三角点の西側に述べたが、厳密には「西南西方向」に建っており、それが「南西」の根拠なのかもしれない。この場合、案内板のあたりを休場と考えていることになる。

⑦山頂が休場であった」ことは、茨木市のHPにあり、最近の見解と言えそうである。

さて、この案内板はいつごろ建てられたもののだろうか。茨木市史編さん室の田中裕三氏に尋ねたところ、「地元の方によると、二、三十年前に、安威のことをよくご存じだった方から聞き取ったものらしく、その方はすでに亡くなられている」とのことであった（平成17年6月15日の返信）。1980年前後の設置ということになるのだろう。

田中氏は安威の自治会長・老人会長に

尋ねたところ、詳しいという人も高齢で聞き取りは難しいとのこと、今では、案内板の内容についてわかる人はもう見つからないということであった（同7月11日の返信）。

もう一つの殿岡山の旗振り伝承（安威郷土史）についてはどうであろうか。井上正雄「大阪府全志巻之三」（大正11年）の七六五〜六頁には次のようにある。

「阿武山は西北に聳え、山は蛇山ともいひ、全山樹木なく、躑躅のみを生じ、風景佳絶にして、美人山の称あり。」

「種荷神社は字社の前にあり、宇賀御魂神を祀れり。創建の年月は詳ならず。社記に依れば、往時附近四ヶ村の共有に係れる神輿祭ありしが、当村の早魃に苦みける時、一少女に懇りて神輿を阿武山の頂なる殿岡の峯に埋めなば、溪谷より出水せしめて永く乾涸の害なからしめんと神託ありしかば、神慮に任せて其の神輿を埋めしに、果して爾後旱害を免れ、今も大早の節に、近郷より山に登りて祈禱すれば、忽ち感応ありと。もと神領として敷町の田園ありしも、変遷幾回して一步をも存せざるに至りしといふ。明治

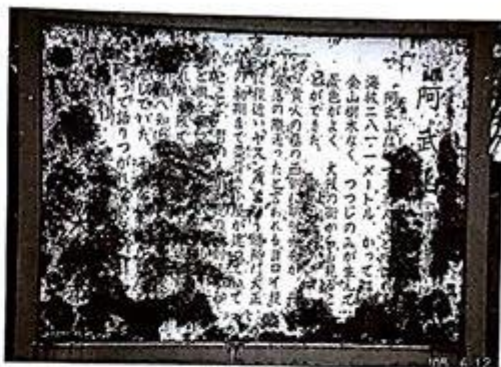
五年村社に列せらる。」

文中にある「蛇山」は明らかに誤りで、「蛇山」が正しい。江戸時代の採草地をめぐる山論関係の文書には「蛇山」とある。貴人の墓の発見は昭和9年であるから、このように大正11年の文献にすでに「美人山」の称が示されていることから、前回に疑ったような「貴人山」でないことは明白である。

平成17年6月8日、「安威郷土史」の著者で、阿武山についても詳しい、宇津木秀甫氏（かげ絵アクト歴代表。大正15年8月生れ。高槻市の郷土史家）に、殿岡山について問い合わせたところ、同6月28日に返信が届いた。その要旨を紹介しよう。

「殿岡山とは、阿武山々頂の別名です。村の古老の伝承では、昔、雨乞いをするのに巫女が殿岡神社の神輿を阿武山々頂に埋めたら雨が降る、と言ったので神輿を埋めたところを殿岡山と呼ぶようになった……とあり、阿武山の頂上が殿岡山ということがわかります。」

神輿を埋めたとの伝承があるので、現場に少し石敷があり、その跡かと今から



阿武山の山頂（三角点）の西側に建つ案内板

字になって紹介されたことがないようだ。

「阿武山（相場の旗振り場）」

阿武山は、一名美人山と呼ばれ、海拔二八一・一メートル、かつては、全山樹木なく、つつじのみが生えて景色がよく、大阪の街からも見ることができた。

貴人の墓の西側に明智光秀が、丹波落の際通ったと言われる「ヨロイ堤」に程近い「ヤスンバ」という場所に大正の初らう。

「⑥阿武山の南西が休場である」との説明は茨木市のパンフレットに示されたものである。案内板は三角点の西側と述べたが、厳密には「西南西方向」に建てており、それが「南西」の根拠なのかもしれない。この場合、案内板のあたりを休場と考えていることになる。

「⑦山頂が休場であった」ことは、茨木市のHPにあり、最近の見解と言えそうである。

さて、この案内板はいつごろ建てられたものだろうか。茨木市史編さん室の田中裕三氏に尋ねたところ、「地元の方によると、二、三十年前に、安威のことをよくご存じだった方から聞き取ったものらしく、その方はすでに亡くなっている」とのことであった（平成17年6月15日の返信）。1980年前後の設置ということになるのだろうか。

田中氏は安威の自治会長・老人会長に

期まで藁葺き小屋が建っていてここで、男の人が一定の時刻になると旗を振っているのが見られた。これは大阪で開かれている相場を京都方面へ知らせるための中継所の役目をしてきた。それを「はたふりさん」と言って語り継がれている。

茨木市

阿武山の標高は、現在の2万5千分の1地形図「高槻」にあるように、1992年の改測によって、280・9に訂正されている。

文中、「かつては」は口頭語として使われることもあるが、本来は「かつては」である。「ヨロイ堤」は書き誤りで、「ヨロイ堤」が正しい。ここは明智街道と呼ばれる軍用路であって、江州坂本、京都愛宕山南麓、亀岡、旗丹尾根と南下していた。「鐘堤」と呼ばれる堤防は、その形が鐘に似ていることに由来する。「ヤスンバ」は休場で、人間の背負運搬時の休憩所、獣が移動中に必ず休む場所、神が降臨する際の休み場等に命名されている。

案内板の内容からは、前回に示した阿武山についてまとめた7項目のうち、「①美人山ともいう」「④山頂は今も展望尋ねたところ、詳しいという人も高齢で聞き取りは難しい」とのこと、今では、案内板の内容についてわかる人はもう見つからないということであった（同7月11日の返信）。

もう一つの殿岡山の旗振り伝承（安威郷土史）についてはどうであろうか。井上正雄『大阪府全志卷之三』（大正11年）の七六五〜六頁には次のようにある。

「阿武山は西北に聳え、山は蛇山ともいひ、全山樹木なく、鷹園のみを生じ、風景佳絶にして、美人山の称あり。」

「稲荷神社は字社の前にあり、宇賀御魂神を祀れり。創建の年月は詳ならず。社記に依れば、往時附近四ヶ村の共有に係れる神輿祭ありしが、当村の早魃に苦みける時、一少女に懲りて神輿を阿武山の頂なる殿岡の峯に埋めば、溪谷より出水せしめて永く乾涸の害なからしめんとての神託ありしかば、神慮に任せて其の神輿を埋めしに、果して爾後旱害を免れ、今も大旱の節に、近郷より山に登りて祈禱すれば、忽ち感応ありと。もと神領として数町の田園ありしも、変遷幾回して一步をも存せざるに至りしといふ。明治

がないが、昔はツツジのみで見晴らしが良く、大阪の街から見えた」⑤南の貴人の墓の西側のヤスンバに藁葺き小屋があり、男の人が相場通信をしていた」の3つが裏付けられた。

ところが、「②旗振り山ともいう」については案内板にはどこにも見当たらない。「相場の旗振り場」はたふりさん」とあるだけである。旗振りをしていた山を各地で旗振り山というので、阿武山が実際に旗振り山であったことに異論はない。しかし、案内板の文の「はたふりさん」は旗振り山ではなく、旗振りをしてきた人のことを親しみを込めて呼んだものである（本誌65・76号参照）。

阿武山が旗振り山とも呼ばれたという記述は前回で示したように多く見られるが、少なくとも、情報源である案内板はそのようなことを解説しておらず、このあたりは誰かが「はたふりさん」を「旗振り山」と勘違いして書いた記録がチェックされることもなく、そのまま引用されているのではないかと思う。

たとえば、HPで「大阪府の山紀行」に、「山の解説板があり、この山は旗振り山とも呼ばれていた」「男が一定の時

五年村社に列せらる。」

文中にある「蛇山」は明らかに誤りで、「蛇山」が正しい。江戸時代の採草地をめぐる山論関係の文書には「蛇山」とある。

貴人の墓の発見は昭和9年であるから、このように大正11年の文献にすでに「美人山」の称が示されていることから、前回に疑ったような「貴人山」でないことは明白である。

平成17年6月8日、「安威郷土史」の著者で、阿武山についても詳しい、宇津木秀甫氏（かげ絵アクト座代表。大正15年8月生れ。高槻市の郷土史家）に、殿岡山について問い合わせたところ、同6月28日に返信が届いた。その要旨を紹介しよう。

「殿岡山とは、阿武山々頂の別名です。村の古老の伝承では、昔、雨乞いをするのに巫女が殿岡神社の神輿を阿武山々頂に埋めたら雨が降る、と言ったので神輿を埋めたところを殿岡山と呼ぶようになった……とあり、阿武山の頂上が殿岡山ということがわかります。

神輿を埋めたとの伝承があるので、現場に少し石敷があり、その跡かと今から



二十年程前に考古学者とともに調べましたが、社の跡らしくはなかった。これが旗振り場だろうと云うことになりました。殿岡山が三角点で、旗振り場だということは、奈佐原の古老が口を揃えて言っていたことです。」

茨木市の案内板にあるヨロイ堤とヤスンバの場所について、再度、尋ねてみたところ、同7月1日に次のような返信があった。

「茨木市教育委員会が貴人の墓の横に『ヨロイ堤』という、おそらく土盛りがあったと、古老から聞いていることは、おそらく間違いではないと考えられます。ただし、その場所は現在では確かめることが出来ません。」

貴人の墓の西の部分で茨木市が某大学の用地として、グラウンドにするために、史跡の土地であるにも拘らず削りとり、削り取らしてしまい、史跡が削りとられてしまいました。

茨木市教育委員会が武人の道として指定している道が、現況では高槻の奈佐原領を通っているのは、奈佐原と安威の境界にあった道が削りとられているため、やむを得ず奈佐原領に道をつけているの

当時、市の埋蔵文化財調査センターの誰かに、念のため調べておいてくれと話をした後、後日、行ってみたが何もなかったと返事をもらいました。

茨木市教委の二言「ヤスンバ」(休場)の場所、その近くに旗振り場という説については、川瀬氏も茨木の安威側のことには知らないと言いました。私は、安威村から登ってきた道の里道との接点あたりを、村人が勝手に言ったことだろうと勘ぐります。「その近く云々」も、村人が山道を歩く感覚で云ったもので、今でも安威から登って殿岡山は至近の場所だと云えるのではないかと思います。」

かくして、高槻市奈佐原の山本利一氏の証言から、阿武山の三角点で旗振りが行われたことが確定できたのであった。

宇津木氏の7月6日付の手紙に同封された個人誌(宇津木文化研究所の月報18・19号、1987年・1988年)には、阿武山古墳発掘(昭和9年)当時の模様「聞き書き」が載っている。京大の樋口隆康教授が朝日放送の支援で古墳の再発掘をしようと試みられた折の奈佐原関係者と教授との座談会の記録(高槻史談)9・10号、1982年、から転載)であり、

です。

古老がヨロイ堤と呼んだ場所は以上のような経過でなくなっており、奈佐原側では「ヤスンバ」なる呼称の場所は不明です。

貴人の墓が阿武山の頂上だと思っている人は確かにあると思いますが、それは説明がされていないから過ぎません。奈佐原の人が貴人の墓を殿岡山と思っていたことは有り得ない、と思います。古くから安威村の境界争いをしてきた草刈り山ですから。

貴人の墓が旗振り場だったとは考えられません。貴人の墓の場所は一つ前の旗振り場千里丘陵はみえるとしても、次の旗振り場大沢の山への眺望がないのではありませんか。

やはり、殿岡山の方が千里丘陵にも大沢方面にも眺望がひろげられて、適当でなかったか、と思います。」

グラウンド造成の不注意な認可のため、阿武山古墳(貴人の墓)のごく一部が削りとられていた事実が昭和57年に発覚したため、翌年、文化庁によって国の史跡に指定された。

標高212mに位置する貴人の墓での

結局、再発掘は中止となった。

この座談会は、当時、地元の市会議員であった川瀬義一氏の尽力によって、昭和57年2月20日に、奈佐原公民館で行われたもので、司会は宇津木秀甫氏であった。参加者は、京大退官前の樋口教授(文学部)、朝日テレビ放送職員、高槻市教委職員、地元の奈佐原村関係者たちであった。この座談会で、以下のような発言が記録されていて興味深い。

樋口教授 木なんかなかったんですか。  
安田 なかったんですわ、松の木だけでしたんや。先生みんな切られて、残った松も今枯れてますけどね。その頃は綺麗な山やった。昔は、草刈り山でね。松もなかったんですわ。美人山ちゃうて。百姓は田へやる草を刈りに行ってましたんでね。

山本 阿武山全体、裾の方までミヤマツツジね、ピンク色の綺麗な花が咲きます。あれが物すごい一面にありましたからな。それで美人山と。」

宇津木 殿岡山は、やっぱり阿武山ですな。  
山本 そうです。頂上ですな。それが

眺望については、樹木が遮ることがなければ、立地上、大沢の山が見えることを地形図での計測と現地調査によって指摘しておいた。その上で、殿岡山の現地調査や旗振り伝承について、具体的に尋ねると、平成17年7月7日に次のような内容の返信(7月6日付)が宇津木氏から届いた。

「殿岡山が旗振り場だったことは、いつの日だったか忘れましたが、奈佐原財産区の代表であった山本利一氏から聞いたことです。山本氏は既に他界されました。」

小生の親友、川瀬義一氏が奈佐原財産区の現在の責任者、代表委員で、念のため本日、川瀬氏に電話して確かめたところ、氏も旗振り場は殿岡山の高いところと思ってきたが、たしかなこととはわからない。現地に四畳半ほどの石敷があったと云いました。私が二十年ほど前に見た石敷ですが、それが頂いた写真にはないよう思えます。

尚、川瀬氏は、その石敷のあるところからカワラケが出てきたと村人が言っていたと、以前私が聞いたことをまた言いました。私は社殿祭祀のあとかと思ひ、

三角点でんな。

安田 あの殿岡に、殿岡神社の御輿が埋んであるいうてね。」

ここで、美人山の由来が示されている。阿武山にはツツジの綺麗な花が全山を包んで、その美しい彩りと姿が美人に似ていたことから、そう呼ばれたのであった。現在の山容から、美人山の由来が納得できないのは無理もないことであつたのである。

地元奈佐原からの座談会参加者のうち、安田氏は昭和9年4月の京都大学阿武山地震観測所の志田順博士の指示で地震観測機器設置のための人夫仕事に従事し、阿武山古墳発見時の当事者のひとりである。また、山本氏とは、もちろん、利一氏のことである。

かくして、ほぼ、材料は出尽くしたので、ここで、次のようにまとめておこう。

- I 阿武山の旗振り場は殿岡山(殿岡の峰ともいう)で、三角点のすぐ横の一番高い地点(かつて石敷が残っていた)にあつたという(高槻市奈佐原の古老の伝承による)。
- II 阿武山の貴人の墓の西側の「ヨロイ



阿武山の山頂（三等三角点標石がある）

堤」に程近い「ヤスンバ」という場所に藁葺き小屋があって、そこで旗振りが行われていたという（茨木市安威の古老の伝承による）。

Ⅲ 阿武山山頂（三角点）と阿武山古墳（貴人の墓）との距離は約650材で歩いて10〜15分程度であるから、「程近い」

場所といってもよい。従って、ヤスンバは三角点である可能性がある。ただし、ヤスンバが貴人の墓の西にあった可能性もあり、その場合は、2ヶ所に旗振り場が設けられたのかもしれない。

以上のような経過については、HPで「ともちゃんのゲストブック」（平成17年

5〜7月）に書き込んでおいたので参照されたい。

平成17年6月12日の踏査では、山頂三角点付近に、石敷を見ることはできなかった。宇津木氏が石敷を見たのは1980年代のことであり、HP「浮雲流水の記」（1998年）にも「阿武山」頂上は低いクマザサと桜の木、アカマツの中。その真ん中の地肌が露出した所にポツンと三等三角点が埋まる」とあり、当時の眺望はまあまあとあった。筆者が以前に登ったのもこの頃で、何もない静かな広場であったように記憶している。

現在の阿武山三角点はというと、「大阪府の山紀行」（2003年1月16日）に次のようにあるのが参考になるだろうか。

「小さい日溜まりの山頂に新しい木彫の山の神が祀られている。祠はない。昔は水神の宇賀御魂神が祀られていた。山麓の奈佐原の雨乞い神事では、宇賀神が少女に降臨し、御輿を山頂に担ぎ上げると、深谷に水が湧き出て長くかれることがなかったという。この木彫は宇賀神であろうか。それとも宇賀神が降臨した少女であろうか。

ヤブツバキの苗が幾本か植樹されて、さらに植樹を進める募金箱がある。冬枯れだがほとんど展望はない。」

20年前に山頂にあったという四畳半ほどの範囲の石敷の石は集められて、この木彫像の土台となったのであろうか。現在は、さらに、この木彫像の左側に「あぶちゃん像」（本誌83号のせせらぎ参照）が増えている。募金は継続し、植樹も増えてきているようだ。

宇津木氏からの返信（平成17年7月6日付）には「頂いた写真で、現況を知り、変なものが築かれているのに驚いています。その土地の所有者、奈佐原財産区に申し入れて、阿武山の説明板でも設置しておいた方がよいかとも思いました」とあった。

阿武山の山頂の様子の変化について、石敷のあった頃の状況や当時の写真、木彫り像の設置された年代など、その由来や経過についての資料をお持ちの方は筆者まで、お知らせ願えば幸いです。また、茨木市の古老の言う「ヨロイ堤」や「ヤスンバ」についての情報もお知らせ願いたい（〒572-0001 寝屋川市明徳2-16-1C9-502）。

#### 【旗振り山】の本の出版

筆者は、ホームページや本誌で、旗振り通信に関する情報を発信してきたが、さらなる発信の拡大のためには、単行本に情報をまとめる必要性を痛感してきた。追加情報が増えることによって、最終的な原稿のまとめが遅くなることを余儀なくされたが、ようやく、平成17年8月に、平成の大合併にも対応した形で原稿・地図・写真が揃い、9月にナカニシヤ出版にお願ひする運びとなった。

『旗振り山』（ナカニシヤ出版、平成18年春頃）は、本連載のダイジェストであるほか、主要な旗振り山のコースガイドや、通信ルート図、旗振り場一覧表も収録している。

膨大になってしまった本連載のまとめとして、読者にも愛読をお願いしたいと思う。

#### 【明石市の黒田さんについて】

明石市の黒田実三郎さんについては、本誌71・75号で紹介している。この実三郎さんが平成17年8月に88歳で永眠された。

実三郎さんとは、平成14年8月に取材

でお会いしたのが最初で最後であったが、米相場の通信に祖父が使用したという望遠鏡をすっかり巻いた布をはずして、長く伸ばして見せてくださり、丁寧に取材に応じていただいたのが今でも忘れられない。ご冥福をお祈りしたいと思う。

その望遠鏡の写真を収載した『旗振り山』の本を生前にお届けできなかったのが悔やまれる。それと同時に、旗振り通信についての生の取材が古老の死去によって益々困難になっていくことを痛切に感じさせられたのであった。（つづく）

（平成17年7月25日初稿）  
（平成17年12月27日補遺）

エリア別徹底研究

伊能ウォークーNやまと⑬

JR・近鉄桜井駅く多武峰一の  
鳥居く上宮く下く倉橋く下居く  
北音羽く南音羽く百市く八井内  
く多武峰く西口く御破裂山く多  
武峰バス停

上田 倅 弘

伊能忠教・測量日記

文化5〔1808〕年12月12日〔1809・1・27〕

朝晴天。六ツ午前〔7時前〕、桜井村出立。多武峰一ノ鳥居より初〔メ〕、上之宮村（藤堂領）、下村（同領）、倉橋村（藤堂和泉守・松平甲斐守領人舎、北音羽村（藤堂領）、南音羽村（同領）、下居村（同領）、百市村（郡山領）、八井内町（多武峰領、即、境内入口）、それより多武峰境内を西口町（是より同国高市郡に成）迄測〔リ〕、引帰し、本社仏閣を拝し、八井内町へ九ツ〔正午〕頃に帰着。止宿本陣、松屋吉右衛門。別宿仕立屋磯右衛門。此夜晴〔レ〕て測量。

〔伊能忠教・測量日記〕第二卷 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年6月19日(火)

くもりのち雨

●参加人数 18名

JR・近鉄桜井駅9時45分集合。スタート地点の桜井市浅古談山神社大鳥居まで歩き、10時25分スタート。しばらく南下すると吉野川分水の案内板あり、寄り道をして寺川サイホンを見る。まず一町の町石（農文化財）があり、次いで四辻に「右聖林寺左談山」の石碑がある。このあたりの山麓はアジサイがきれいだ。

下のバス停より少し南下した所で旧道と新道に分かれる。私たちは道標を目印に旧道へ進む。「倉橋八講桜十三町」の道標、崇峻天皇陵の南一町の道標を過ぎ、JA奈良興多武峰支店の前へ出る。ここは昔の役場だそうだ。ここで旧道は終わり、もとの道へ。

音羽山観音口を過ぎたところから川淵にクルマミ、ピワ、薄緑のマタタビの葉が目につく。マタタビ酒を飲むと疲れがとれ、明日また旅に出られるの伝えあり（先生談）。

百市を過ぎた頃三五町の町石。不動の滝を南へ、岩石に北を向いて彫られた不

動明王の行場あり。このあたりから雨が

ばらつき始め、八井内雨量観測所を過ぎ

て多武峰バス停12時10分頃着。バス停前の屋形橋で雨をしのいでお昼。  
13時出発、そこから西にとり、談山神社東大門を通る（城郭風門が用いられた数少ない遺構）。近くの地形図に表示されていない窪地に覆われてはつきりわからず、西へ登って行く。このあたりには明治維新の頃まであった塔頭の石垣が多く見られる。

四八町の町石を見て、神社前の「多武峰村道路元標」より門前西口まで歩く。西大門を過ぎた所に「女人禁制」の石柱あり、そこからは見晴らしよく金剛・葛城山の展望が開ける。

さらに北へ山道を御破裂山に向かう途中に4等三角点破裂山がある。山頂（610m）には鎌足公の墓がある。山頂展望台は悪天で視界悪し。少し下がった所に「かたらい山（566m）」があり、鎌足と中大兄皇子が大化改新の秘策を練った所と伝えられる。これより境内までく

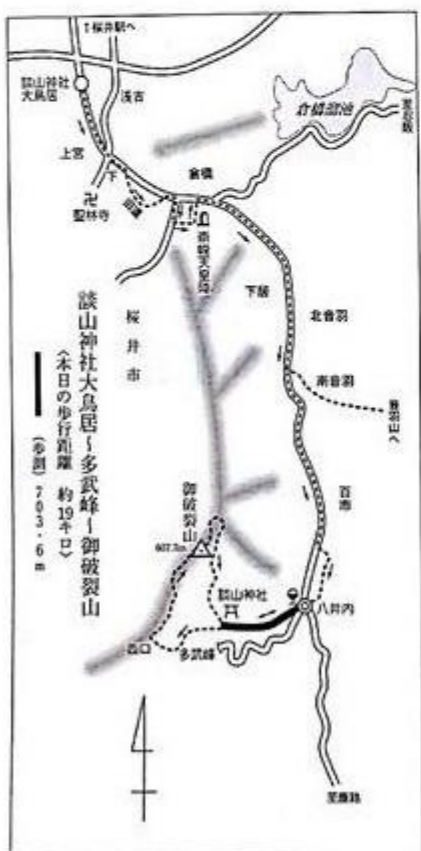
だる。  
十三重塔前で写真を撮る。雨のため自動シャッターがきかず、笹木さん、大変

でした。

神社へ入り、参拝・見学。道路元標の前から屋形橋まで、もときた道を歩測する。初めての急な坂道で、距離が短かったわりには大変人は出なかった。16時07分のバスにて桜井駅へ帰る。

（記録・西本まゆみ）

△地形図V2万5千II桜井・歌傍山



談山神社・十三重塔前にて



エリア別徹底研究

いのち  
伊能ウォークーNやまと⑭

JR・近鉄桜井駅〜多武峰〜西  
口〜上村〜嶋之庄〜岡寺〜橘寺  
〜飛鳥〜岡寺前バス停〜榎原神  
宮前駅

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5「1808」年12月13日「11809・1・28」

朝晴天。六ツ後「7時半ごろ」八井内町立。高市郡多武峰領西口町より初「メ」、細川村（植村駿河守領）、上村（同領）、嶋之庄村（同領）迄測「リ」、印を残「ス」。岡村（同領・又印を残し）岡寺（西園巡礼札所、門前迄測「ル」。橋寺へ立寄「リ」）測術を用「ウ」、岡寺にて中食。それより印より始「メ」、飛鳥村（植村領）、飛鳥社門前迄測「ル」。引短し嶋之庄村印より初「メ」、祝戸村（同領）、坂田村、稲淵村を歴「ヘ」て、同村稻ノ森村境迄測「リ」、それより引短「シ」、7ツ後「17時ごろ」岡村へ帰着。止宿本陣米屋弥右衛門、別宿同前。此日、植村駿河守郷同心中嶋文治、竹上庄衛差添。岡村の与七郎というもの、少く測術を知る。此夜白雲測量。  
△伊能忠敬・測量日記」第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年7月17日(火)

晴れのちくもり一時雷雨

●参加人数 18名

JR・近鉄桜井駅南口9時に集合。多武峰バス停で9時25分降車する。9時35分談山神社東大門を通り、紫陽花の花と石灯笼の立ち並ぶ坂道を多武峰まで登る。9時55分西大門に着く。

ここは見晴らしも良く、金剛山、葛城山がよく見えた。少し休んで車道をしばらく歩き、西口への細い坂道を足元に注意しながらどんどんくだると、上村の気都和既神社に着く（10時30分）。

11時頃、細川を通り石舞台まで歩く。ここで氷などを食べて少し休み、11時30分頃岡寺に着く。

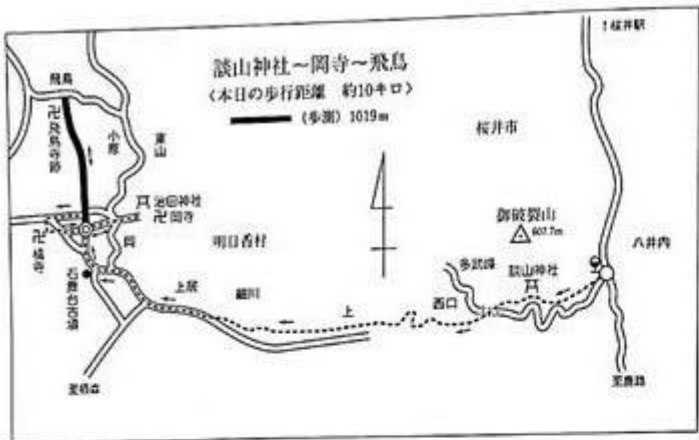
横の治田神社にて昼食。再び岡寺門前にて集合写真を撮り、12時50分頃橘寺へ向かう。今回発掘された亀型石を見て、飛鳥寺前に13時40分に着く。

ここより引き返す途中、雲行きが怪しくなり雷と雨が降り出したので、民家の車庫らしき所に雨宿りさせてもらった。雨も小降りになったので、予定を変えて飛鳥寺前三叉路より岡寺前バス停まで

歩測しながら戻る。

15時09分のバスにて、榎原神宮前駅まで戻り解散する。（記録・西野和代）

△地形図▽2万5千1000地形図



岡寺前にて



聖徳太子の誕生地橘寺を右に見て歩く



連載

三角点を訪ねて ③9

# 裏六甲の山、逢ヶ山へ 六甲

磯部 純

新ハイ例会の木村リーダーのファミリーハイクは74回を数えるが、参加するのはこの例会が初めて。登る山は裏六甲と呼ばれている山域だが、私がこの方面の山へ足を踏み入れるのも初めてのこと、このあたりの地形は全く頭に入っていない。

集合は神鉄有馬温泉駅に9時30分。どのように行けばよいかわからないので、その旨申し込みハガキに書くと、木村リーダーから電話があり、懇切丁寧に教えてくれた。途中で出会った島本町の彼女といっしょに、何とか新開地駅へたどり着き、やっとリーダーと出会えてホッとひと安心。山間を走るとかな電車にゆら

れ、有馬温泉駅に着いた。

駅前の広場は桜が七分咲き。初めての参加で誰も知っている人はいないだろうと決めつけていたが、長兄を始め、花知り人、写真が趣味の彼、山の連ちゃんだという高槻・太秦の彼女、それに、孫を連れた向日市の彼女も参加している。この日は37名の参加であったが、このうち女性は半分以下の18名。リーダーは「いつもは女性の参加が男性よりはるかに多いんですよ」と申しわけなさそうに言っているが、それを期待して参加したわけではない。この日はあいにくサブリーダーが所用で来られなかったので、初めて参加したのに私がサブを依頼される。難し

逢ヶ山山頂

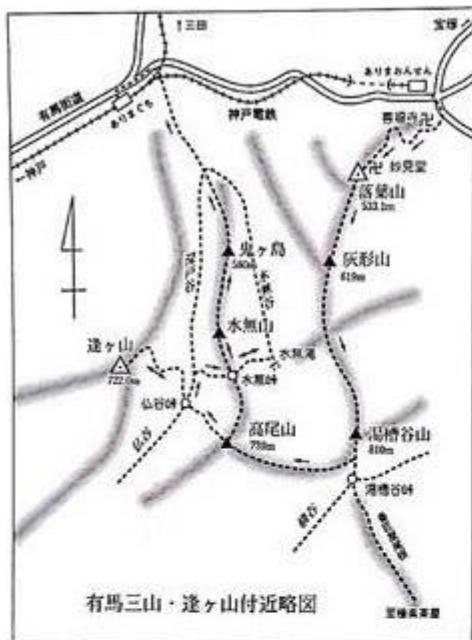


いコースでもなさそうなので引き受けたが、私を実力以上に紹介されて恥ずかしいほどで、穴があったら入りたいような気持ちだった。

コース説明、準備体操を終え、9時50分に出発。川の縁を南へ歩き、善福寺の境内に入る。ここには神戸市の名木に指定されている「いと櫻」が満開。それを見た後、妙見堂参道を登って行く。石畳

の道の両側には西国三十三ヶ所の観音石仏が、第一番の青岸渡寺から順に点々と立ち並んでいる。道には至る所にタチツボスミレの花が咲いていた。

登り着いた山頂には「妙見大菩薩」と書かれたお堂があり、中から読経の声が聞こえてくる。ここが落葉山と呼ばれているピークで、有馬温泉中興の祖である仁西上人が、神が授けた木の葉の落ちた地に泉源を掘り当てた伝承から、落葉山と名付けられたという。



有馬三山・逢ヶ山付近略図

三角点は妙見堂の雨のやぶのなかに埋められていた。標高533・1mで4等三角点。点名は「落葉山」である。この三角点は地形図に落葉山と書かれているピークから、昭和56年に移設されたものである。側の道にはシハイスマイレが二株、密やかに花を開いていた。

南へ標高差50mもくだる。あたりは枯れ木状の雑木林だが、そのなかにタムシバが白い花を開き、春の到来を告げている。近くの林のなかから、シジュウカラ

やウグイスの鳴き声が聞こえてくる。狭い吊り尾根を渡ると灰形山への登り。左檜林、右松の多い雑木林の境界尾根で、足の幅に合わない階段道が上へ上へと続いている。登っている間ずうっと、「チュチュビー、チュチュビー、チュチュビー、チュチュビー」と聞こえるヤマガ

ラの鳴き声があたりの林に響いていた。その鳴き声の鳥の名を覚えようと前を歩くと彼女は必死。だが何度教えてもすぐ忘れて、ヤマガラの名前が出てこない。私より「衰え」のキツイ人がここにいたと思うと嬉しくなり、急勾配の登りもさほど苦にならなかった。

10時55分、灰形山へ登り着く。標高619mの山である。秀吉の茶会で有馬に逗留した千利休が、風雅を取り入れようと、この山の山容に似せて風炉の灰を盛ったことからこの名が付いたといわれている。山頂は開けていて、前方に六甲山の最高峰が望め、手前にはこれから登る湯槽谷山がそびえ立っている。山頂広場の北片隅のミヤマシキミのすぐ側には、多角点が埋められている。これまで多角点という標石があるとは知っていたが、実際に見たのは初めてだった。

多角点とは、国土地理院が地形図測量の初期に、地形により高密度(1・5m<sup>2</sup>以上)に1ヶ所、基準点を設ける必要に迫られ、三角測量に代えて多角測量(トラバース測量)により基準点を設置することになった。このために設置された基準点が多角点である。12ヶ四方の角柱の上に、



直径8寸の銅板が埋められていて、そこには「三等三角点No.124 40402 神戸市」と彫られている。

灰形山から標高差60メートルほど、再び長い長い登りが始まる。左側の林、右手は雑木の林の尾根で、標高差わずか250メートルの登りだが、急勾配のうえ、足の短い者にとっては踏み出す歩幅に合わない階段が煩わしい。前の方から「地形図1ページの間に、二本の等高線が走っているような急勾配だ」と長兄のボヤキが聞こえてくる。リーダーは「ファミリアハイクでは楽なルートしか歩きません」と言っていたが、どうしてどうしてアップダウンがキツくて健脚向きルートそのもの、たそれに替りな黙って歩いて行くと、た

#### 湯槽山山頂

ただただ感心するばかり。「この坂を登る途中で、右手に水無山や鬼ヶ島を見ることができますよ」とリーダーに言われていたが、それを見渡す余裕は全くなかった。やっと登り切ったかと思っただけで、平坦な尾根の先にはまだ登りがある。いつの間にか左手の檜林は雑木林に変わっている。もうひと登りして、静かな雑木の

疎林を右手へ向かうと、湯槽谷山。この日の最高点で801メートルある山頂だった。湯槽谷山の山名にも伝承があり、この時代に旅人や病人を温泉で癒すため、この山から材木を切り出したことから湯槽谷山と呼ぶようになったという。

この山頂は、花の無いアセビやリョウブの木に囲まれたあまり広くない山頂で展望はほとんど無い。この山頂で昼食となったが、この後、さらにアップダウンのキツそうな四山を越えなくてはならず、そのうえ、サブを任せられていたのでは、アルコールを味わうのは残念だが諦める。

12時40分人員確認の後、山頂から西の尾根をくだる。表六甲の極楽茶屋への道

と分かれ、尾根をまっすぐに、まだ新芽も思吹いていない雑木のトンネルをくだけて行く。途中の道脇にまたまた多角点標石を見つけた。それにしても一日に二つの多角点標石に出会えたことは、何か得をしたような気分になってくる。

高尾山へは20分程で到着。逢ヶ山へ登らずに水無山へ行くのならこの山頂から西へくだればよいが、今回は逢ヶ山へ登るので左へくだる。50メートルも行って方向を西へ変え、急斜面をくだると鞍部が仏谷峠。逢ヶ山からの登山道、深戸谷登山道の分岐である。北は杉の林だったが南はササに覆われた雑木林で、静かな峠である。

檜林の急斜面を20分も直登し、尾根にのって左へ向かうと、檜の林に囲まれたちよとした高台広場に、逢ヶ山三角点標石が埋められている。標高が722メートルあるとは思えない平坦な場所である。3等三角点、点名「唐櫃」である。顔は南を向いていて、20度東へ振っている。あまり人が来ないのか、標石は欠けた所もなく、実に美しい。

少し休んだ後、仏谷峠まで戻り、峠から北の深戸谷へくだる。登山路はこのま



逢ヶ山三角点全景

ま深戸谷に沿ってくだっているが、ヤブツバキの林間を谷上流へ通り水無峠へ登った。峠からわずかの登りで水無山へ着く。山頂はこの日一番の展望といつてよく、東には今登ってきた湯槽谷山が高くそびえ、すぐ西には鍋を伏せたような逢ヶ山がある。北東には湯槽谷山からの尾根の途中に、灰形山・落葉山が連なっている。山間の切れ目には有馬町唐櫃の集落が、

その彼方には播磨の山々が霞んでいる。こんな展望の良い水無山を「どこが水無山だったかわからなかった」と言った人がいたのには驚くしかない。地形図を持たずに歩く人の弱みだろうか。

水無山からやせ尾根をくだり、少し登り返すと標高点580メートルの鬼ヶ島ピーク。松の林に囲まれた山頂だった。落葉山・灰形山とそれぞれに名前の由来があるが、このピークにも故事来歴があるのだろうか、その由来はわからない。

これでこの日の有馬連山の七つのピークを全部踏んだことになり、後はくだるだけ。鬼ヶ島山頂からは、すばらしい雑木林の尾根が続く。新緑の頃、紅葉の頃と、季節を問わずに楽しめる尾根といつてよい。やがて斜面が急になるとその先はガレ場。その手前に「足元注意」の立て札が張られていたが、それを「マムシ注意」と読み間違えて悲鳴を上げる太藁の彼女。そこからあまり危険のなさそうなガレ場の縁をくだり、松の多い雑木林の斜面をくだると水無川林道は間近。

道沿いにはタムシバの白い花、黄色のクロモジの花、ピンクのコバノミツバツツジの花が我々を見送ってくれている。

水無川林道はヤシャブシ・キブシの花で、枝先が黄緑に彩られている。

林道に出た所で人員確認の後、この日の例会は解散。ここで私の任務も無事に終了し、解放される。

朝、リーダーは「この日歩くルートには、この時期に花はありません」と言っていたが、思っていた以上にいろいろな花に出会えた山行だった。

有馬口駅まで歩き、有馬温泉へ向かう人、新開地へ向かう人、三田へ向かう人と分かれる。我々高槻の彼女、向日市の彼女と孫の4人は、乗り換えが少ないことから、三田廻りで帰ることにする。

ここまで我慢していて、車中で飲んだビールと酎ハイが、何とうまかったことか！ (平成16年4月1日歩く)

#### ▲コースタイム▼

神鉄有馬温泉駅 (10分) 善福寺 (25分) 落葉山 (25分) 灰形山 (45分) 湯槽谷山 (30分) 仏谷峠 (20分) 逢ヶ山 (20分) 仏谷峠 (20分) 水無山 (20分) 鬼ヶ島 (25分) 水無川林道 (20分) 有馬口駅 (25分) 有馬温泉駅 (25分) 有馬・宝塚 (25分) 有馬温泉駅 (25分) 有馬・宝塚 (25分)

## 田代峠から

# 紀州富士の龍門山へ

コースとコースタイム JR粉河駅(1時間)一本松(40分)龍門山(15分)明神岩(25分)林道出合(20分)一本松(50分)粉河駅(約12.4時間40分)

## 中村敏文



龍門山山頂

は少なく、U字型の石コロ道が長く続き、児童生徒も敬遠するという。

### ① 粉河駅から一本松

41分の駅前から少し東へ行き、和歌山線を潜り国道24号線を横切る。粉河町役場西側の藤崎東用水路の小橋を渡り、全長500mの紀ノ川龍門橋を心して渡る。

渡り終えた紀ノ川左岸の橋詰に案内板があり、粉河荒見道路西側に龍門山温泉がある。荒見郵便局を過ぎ、龍門川を渡る標識プレートがある。標高が徐々に上がりはじめ、集落と果樹園が北面の斜面に整然とある。ミカンが多いが梨・桃・

イチジクなど種類が多い。  
300mほどに上がると龍門山コースの案内板があって一本松へ到着する。農業用倉庫と樹高10m程の黒松がある。林道は右折して中央登山口へ続く。数台の駐車地があって駅から1200mでタクシィが入る。駅から3km、徒歩だと最後の1kmがゆるい上がりで1時間もかかるので、最近では田代峠口または中央登山口までは、タクシィを利用する登山者が増えたという。

### ② 一本松から田代峠

300mの一本松から林道と分かれ、

南へ登る。650mの田代峠まで1.7kmの山道だが、善女魔王を祀る小祠を過ぎると急坂となり、U字型にえぐられた石コロだらけの難儀する道となる。

灌木が生い茂るので石も水気を含み、滑りやすく脚力差が登山列を長くしてゆく。先導の音が聞こえなくなり、小1時間も登ると石の地蔵があつて時に着く。先頭集団は40分、最後尾が20分遅れの切りよい1時間の急坂登りであった。

草地の田代峠からまっすぐ南へくだれば権現滝を経て畑野、左へ続く尾根道を伝えれば神路峰。龍門山へは右へ折れ、ササが青々と茂る尾根道に入る。

### ③ 田代峠から龍門山

赤松林の尾根道は多種多様の山野草が生い茂り、歩きやすい山道が15分ほど続くと、露岩と石コロの多い急坂となり、10分近くよじ登ると磁石岩がある。

高さ4m、周囲17mの岩石を積み重ねたような大岩で、強い磁性を帯びた特殊な露岩ゆえ県指定天然記念物である。岩の上へ上がると案外と展望が良く、長く坐って景色を眺めたくなる場所である。磁石岩からゆるい尾根道を数分歩くと、龍門山(755.9mの二等三角点)に到着する。

山頂に背丈の低い灌木が点在し、キイシモンケが群落で繁茂している。南西斜面は一面スキの小広場である。

山頂からの展望は北に紀泉高原と和泉山脈、東は紀伊山地の高野山系の山々、南には生石高原が見える。天候の好い日は淡路島が遠望できるそうである。

### ④ 山頂から中央登山口

南西斜面広場から右手の山道の15分先にY字型の分岐がある。左への尾根道は勝神峠へ、右手中中央登山口への道をくだる。露岩や石コロだらけの道脇にはキイシモンケとギボウシが多く生えている。

10分ほどくだり、右手の枝道を少し登ると蛇紋岩原の岩上に出る。見下ろすと蛇紋は不明だが谷一面に蛇紋岩が拡散している。蛇紋岩原への分岐へ戻り、少しくだると右へ分岐する明神岩への案内がある。右手への道をくだり、さらに右手への脇道を登ると明神岩がある。高さ25m大の垂直の岩にはポルトやハーケンなど残るが、断崖下りの冒険はやめた。明神岩から7分先に深さ11mという風穴がある。南北朝時代に楠木正成が立て籠もったという伝説がある。

中央登山道へ戻り、急坂を30分ほどくだると林道出合で中央登山口である。

### ⑤ 中央登山口から粉河駅

中央登山口から東へ林道をたどると、ゆるい下りが続く車道で、一本松へは15分着く。

一本松から往路と同じ道をくだって粉河駅へ向かう。果樹園が途切れた東杉原からの2kmは、平坦な町道歩き50分で駅へ着く。

\*粉河寺を拝観するには比較的日の長い時期を選んで1時間早く出発し、1時間遅れのバスか和歌山線で帰ればよい。



下高野街道(下)

布忍から狭山池へ

松永恵一

狭山池

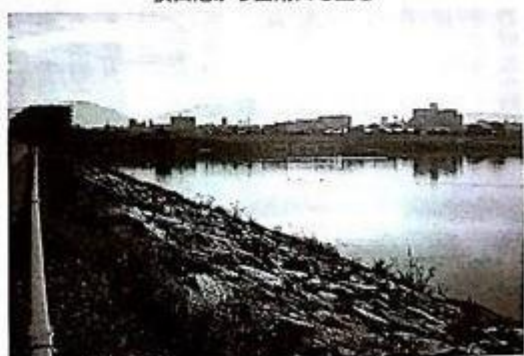
清少納言は「枕草子」で興味深い池のひとつに狭山池を数えた。「狭山の池は、三稜草と言ふ歌のをかしきがおぼゆるならむ。」狭山の池は、みくりという歌が素敵だったので、憶えているのでしょうね。「古今六帖」第六に「恋すてふ狭山の池の三稜草こそ引けば絶えずれわれは根絶ゆる」と残る。

雨が比較的少ないこの地では、農業用水を確保するために、古米たくさんの溜め池が造られた。大阪狭山市にある狭山池は周囲約2・85km、面積36haを誇る。夕暮れが見事な風光明媚な池として人々に親しまれてきた。昭和16年に大阪府の史跡名勝第一号に指定されている。江戸

時代には狭山八景が選ばれ、多くの文人墨客に愛された。北堤に咲き誇っていた桜は「狭山の春霞」といわれるほど雄大で美しく、競って花見に出かけた。

狭山池は、我が国最古の溜め池。その歴史は古く「古事記」「日本書紀」に登場する。「日本書紀」崇神天皇三年7月2日の条に、「農は天下の大本なり。(中略)今、河内の狭山の植田水少なし。是を以て其の国の百姓、農のことを怠る。其れ多に池溝を開きて民衆を寛かにせよ」と詔したとある。「古事記」垂仁天皇の段には、「印色入日子命」が血沼池などとともに狭山池を造ったと記している。実際の築造年代は、6世紀末ないし7世紀初頭ではないかといわれている。

狭山池から金剛山を望む



今狭山池は「平成の大改修」を終え、狭山池ダムとして生まれ変わった。奈良時代の行基や鎌倉時代の重源、豊臣秀頼の奉行片桐且元などが、各時代の最先端の土木技術を用いて改修に係わってきた。その土木技術遺産を展示するために、大阪府は平成13年狭山池博物館を開館した。人間の最も基本的な営みである水と大地との関係性を追求する建物は、安藤忠雄建築研究所による。

布忍神社

布忍神社は、速須佐男之尊・八重事代主之尊・建甕槌尊を祀る。弘法大師が嵯峨天皇の勅願によって布忍寺の伽藍を再建した際に祀ったと伝える。

本殿は寛文三年(1662)建立で、大阪府の有形文化財に指定されている。一間社流造檜皮葺き瓦棟。桃山の風情を伝える。蛙股には薬師如来を表す梵字(バイ)が彫刻され、神仏混合の形が見られる。本殿奥の両側面には唐獅子や脇障子の随神像が描かれている。幕府の御用絵師狩野探幽が描いたと伝える。高泉性教(1633-195)筆の「布忍宮」の社名扁額が残る。

布忍の地名は、御祭神を天美の阿麻美許曾神社から、白布を敷いて迎えたので、布忍と呼ぶようになったと伝えている。この地との関係は定かではないが、平安時代初期に編纂された古代氏族名鑑「新撰姓氏録」河内国皇別は、「布忍首、的臣同祖、武内之宿禰之後也」と記している。「日本書紀」巻第七景行天皇記に、「日本武尊、兩道入姫皇女を娶して妃として、布忍入姫命を生めり。」と記している。

大林寺十一面観音立像

布忍山大林寺の本尊の阿弥陀如来立像と並んで、十一面観音立像は祀られている。平安時代後半の観世音は、檜の一本造りで、高さ170cmを測る。お顔もお体も大変痛んでおられる。「ある長い時期、風雨にさらされることがあったのではないか」と想像されている。乱生を生き抜いてこられたのであろう仏に手を合わせ、声を出して「念彼観音力」「ネンピーカンノンリキ」と唱えた。

「目鼻から口もとにかけての面貌の影りは浅く、いたって穏やかな表情となっている。面奥の深い割りに頬の張りはない。府内でも古像に属し、作柄も畿内作品としてしっかりしている。これが旧布忍寺の本尊であれば、かなり寺観の整った大寺と思われる」と「河内国布忍寺(永興寺)の調査研究」は、記している。布忍寺は明治の廃仏毀教で廃寺になり、大林寺に移された。

「布忍山永興寺略縁起」によると、永興寺は寛治三年(1069)永興律師により創建され、弘安年中(1278-88)に大和西大寺の叙尊が中興したと伝え

狭山藩

藩主は外様大名の北条氏。丹波郡狭山(大阪狭山市)に陣屋を構えた。北条氏の祖は、関東に朝を振った戦国の英雄・北条早雲である。戦国時代の具頭者であった後北条氏は、天正十八年(1590)、豊臣秀吉の小田原征伐により滅び、その家系は残る。

主戦派であった後北条氏第四代北条氏政と北条氏照は切腹。第五代北条氏直は徳川家康の娘婿であったことから、和平に尽力した北条氏規とともに、高野山での蛸居を命じられた。翌年氏直は30歳の若さで死去するが、当主となった氏規は許され河内狭山で七千石、氏規の子、氏盛は下野国内で四千石を領する。慶長五年(1600)、氏規が没すると氏盛は一万一千石の大名となる。

当初、氏規の大坂屋敷があった久宝寺町(大阪府中央区)で政務を執り行っていたが、二代氏信は元和二年(1616)に狭山池尻の地に陣屋を築き、その後明治維新まで十二代280年にわたって狭山に陣屋を置いた。現在の東小学校あたりに上屋敷が、さやま遊園跡地の付近に下屋敷があった。





布忍神社

コース概観

下高野街道は松原市と堺市東部を通り狭山で西高野街道に合流する。旧道をたどると古い民家が点在し、辻には高野への道を示す道標が残る。河内長野に向かう電車の車窓左手に見える狭山池は、池の堤防の上に立つと、その大きさに驚かされる。1400年の時を経て今に生き残る狭山池を目指して、ゆっくり時間をかけて歩いてみた。

近鉄南大阪線布忍駅下車。線路伝いに北へ進み、踏み切りの通りを左折し西へ歩くと西除川に行き当たる。赤い欄干の橋が「宮橋」で東詰に、布忍山大林寺がある。融通念仏宗、河内西国第5霊場。橋を渡ると布忍神社。「毒虫の到ることなく神霊の奇瑞なり」といわれ、毒虫、病氣退治や産業、交通の神として近郷の人々から崇敬されている。境内には楠の大木が茂り、江戸時代初期に再建された本殿、拝殿、幣殿、絵馬堂が並ぶ。

布忍寺に伝わる「布忍山東坊縁起」には、聖徳太子が薬師如来を本尊として創建。弘仁五年(814)弘法大師が再建したが荒廃し、寛治三年に永興律師が再興し、永興寺と名付けたとある。平安後期には大伽藍を誇った寺院が存在していたと思われる。布忍神社はこの寺の守護神で、明治の廃仏毀釈で永興寺は廃寺となり、神社だけが残った。

西除川に沿って南に進む。すぐの布忍橋で長尾街道と交差し、西除川を離れ府道堺大和高田線と交差する。府道大阪狭山線と呼ばれる下高野街道は竹内街道と交差し、後、大阪中央環状線を越えて直進。野邊、大畷集落を過ぎて小寺集落に

入り、古い道標に導かれながらひたす南に南に進む。いつしか田の中の道となって余部集落、阪和道の高架下へと続く。北野田の高いマンションが近付いてくる。南海高野線狭山駅から新しい道に迷わずに、左の旧道を歩く。狭山池畔へ出る。要害のような巨大な堤が目に飛び込んでくる。

東の羽曳野丘陵と西の狭山丘陵との間を北流する西除川と、その西側を北流する三津川を堰き止めて造られた狭山池は、北西岸から西除川、北東岸から東除川が流出する。狭山池と南河内を北流して大和川左岸に注ぐ東除川・西除川は、1400年の時を経た今も、一帯の稲作・畑作に貢献している。

狭山池の北側に建っている狭山池博物館に立ち寄る。入館無料。「平成の大改修」で新たな親水空間に生まれ変わった狭山池との一体活用を重視した野外性をもった博物館として建てられた。狭山池の堤や出土文化財を中心に、人間の最も基本的な営みである水と大地との関係性を追求する土地開発史専門の博物館は、全国でも類を見ない珍しいものである。館内には豪華な水庭が迎えてくれる。滝

がしたり落ちる。流れ落ちる水のカーテンを通して内部に導かれる。

左右に細長い建物には、高さ約15m、幅約60mの堤の断面がそのまま展示されている。そっくり免震床に載せられている。館内を圧して聳え立つ狭山池の堤。狭山池の1400年にわたる歴史を秘めた地層が一目で理解できる。地震の跡、繰り返された改修工事の跡。狭山池堤の中掘付近の堤体断面をはがして、ポリエチレングリコール水溶液で保存処理したものである。

飛鳥時代に敷葉工法を用いて築かれた狭山池の堤は、改修を繰り返して現在まで使われ続けてきた。敷き詰められた木の葉や幹、土中の敷葉は、発掘時には青かったという。締め固めた粘土の上に排水材の代わりに木の葉を敷き、また土を

載せ締め固めている。機械も何もない時代に大きな石を人力で持ち上げ、少しずつ、また少しずつ粘土を締め固め、木の葉を使い粘土を含む水を排水し、より締め固めた粘土をいっそう硬くする。古代人の知恵に敬服する。

狭山池の歴史は改修の歴史。8世紀、行基による改修。13世紀、重源による改修。17世紀、秀頼の命を受けた片桐且元による改修。改修のたびに、堤は大きく高くなっていく。下のパネルのボタンを押す。ランプが点り、それぞれの時代の大きさがわかる。

堤の下に飛鳥時代と江戸時代の東端が、長さ約60mにわたって展示されている。年輪年代測定結果から、7世紀前半に造られたことがわかった。重源は古墳時代の石棺を利用して樋を作ったが、こ

の時の業績を記した重源狭山池改修碑が見つかっている。片桐且元の改修では、大型船の部材が使われている。中掘取水塔は大正から昭和初年の改修時に造られたもの。現地から移築して展示している。狭山池畔で生まれ、生涯を送られた考古学者末永雅雄先生のあゆみと、狭山池とのかかわりについて解説したコーナーもある。

北条氏の陣屋跡に寄り、南海大阪狭山市駅に向かう。狭山遊園地があった頃は「狭山遊園前」の駅名だった。

コースタイム

近鉄布忍駅(5分) 大林寺・布忍神社(1時間) 大阪中央環状線(1時間30分) 狭山池博物館(10分) 南海大阪狭山市駅

△地形図√2万5千Ⅱ古市

△費用

近鉄大阪阿部野橋駅→布忍駅	250円
南海大阪狭山市駅→難波駅	430円
(問い合わせ先)	
布忍神社	072(334)7634
大林寺	072(331)0718
大阪府立狭山池博物館	072(367)8891



〈山のレポート〉

山の地名を歩く(26)

### 「ツ」または「つ」の役割

西尾 寿一

山岳に関する地名で「七ッ岳」や、二ッ岳・三ッ岳・四ッ岳・六ッ岳・八ッ岳・九ッ山など、ほとんど和数字の後に片仮名の小さい「ッ」または平仮名の「つ」が付される場合がある。この場合の「ッ」とは何なのだろう。

これとは別に「国ッ神」(ツの小文字は平仮名のつも含まれる)や、天つ神・奥つ城(境)または奥津城などがある。

仮に前者をA群とし、後者をB群としておくが、前者の場合は明らかに数をかぞえる際に使われる口頭語で一から九までの和数字に対応している。

例をあげた山名で「八ヶ岳」が抜けているが、これも八ッヶ岳が本来で「ヤツガタケ」と読む。国語辞典を引くと「広辞苑」では、「箇・個で数詞の下にそえて数を表わす語」とあり、数を読む場合の個体識別と考えられ、これを

接尾という。

ツはノなどと同じように前の字を補佐し誘導する役目を負う場合が多いが、それならば必ず和数字(それ以外にも)の後にツまたはつが付されるかというとうそはいかないのである。

京都北部の五万図地形図に「四ッ谷」があるが信州にも四ッ谷があり、これを「信濃四ッ谷」と呼ぶ。東京にも四ッ谷と四谷がありやや混乱している。一時地下鉄の駅名も二分していたらしいが現在は「四ッ谷」に統一されていると聞く。ツを送らない四谷もけっこう残っている。四谷見附はその代表格で、「四谷怪談」の強力な存在があるからだろうか健在である。

接尾語のツまたはつは結局のところ有っても無くても口頭で発音されるので単なる慣用にすぎないものである。日本語の数字は古くから一から九までは、ヒトツ、フタツ……といずれもツを付して口誦していたのである。漢字導入と共にそれを書面化する過程で「一箇・または個」とするところ、箇の字はコと詠まれるおそれがあり具合が悪く普通の口誦を残して片仮名の採用となったのではないか

と推察する。頑固なまでに日本語にこだわり、漢字化へ全面依存の潮流に流されなかった古代の日本人に敬意を表したいものである。

この例で示されたように「八ヶ岳」の場合も八の字自体にすでにツが含まれていたのである。ただ八ヶ岳の場合の小文字のケも実際には箇のいう漢字と同じで正確には「个」という漢字の片仮名の略なのである。漢字で書くと本来は「八箇箇岳」となってわずらわしく複雑さからあえて箇を抜いて表記されるようになったと解釈される。

余談ながら、八ヶ岳の数そのものは必ずしも八個の峰を指しているものではなく、古代においては数の多い状態を意味し、現代においては厳密に八つの峰を同定することとは別の次元に属するのである。八ッ峰も同じで、これを「字訓」で白川静氏は「数の八に特定される以前には「や」は極めて多い数を示したらしく「や」「いや」「いよいよ」という副詞のなごりである。それで八は「八百」「八千」のように無限の数を示す意に用い聖数ともされた。」と言っている。八の字は一方では末広がり的好字とさ

れ、庶民に親しまれたため必ずしも数との関係で使われるとは限らない場合がある。つまり未来指向的発想が生まれて現実とは必ずしも一致しないのである。地名にそれが表れていれば、現実とその地名との対比で明らかになることである。

漢字の个(ヶ)については別に述べるので先へ進むが、続いて、B群のツについて考えてみる。これは明らかに接尾の字でなく、それぞれ独立した漢字と漢字の間に新しい意味をつくっていることがわかる。

「岩波古語辞典」では、これを「連体助詞」と言い「文中にあって体言と体言とを関係づける」と述べている。体言とはそれだけで独立した意味をもつ単語で

あるから、両者を関係づけて別の意味をつくる場合に使われる。先にあげた「天つ神」の例でもわかる通り、古い時代から存在する助詞であり、平安時代にはすでに使われなくなつてゆく。化石的に残るものに「海津霊」があり、ツが連体助詞であるが、後に「海」一字でワタツミと読まれ「海」にツミが含まれている。

地名で古い表現が残る場合があり、そこに連体助詞がみられても、現代風に表現される場合がほとんどで「ツ」の連体助詞としての役割は亡んだも同然の状況である。

そこで残る接尾字としてのツが和数字の後に付される形式が、特に地名に示されているのを我々はよく目にしているわ

けである。

一ツ二ツと指を迫って数を勘定していた古代人にとって数字は片手の指で足りるものであって、両手を必要とするものは多数であり、現実の生活にはあまり必要としなかったことが理解されるのである。

## 新日本山岳誌

## 世界中の屋根に登った人びと

日本山岳会編著 菊判 一九九二頁 上製  
クロス装/函入り 一八九〇〇円

日本山岳会百周年記念出版。55支部別有余名が、全国約四〇〇〇の山へ実際に足を運び執筆にあたった、最新・最大の山岳情報事典。

好評発売中

酒井敏明著 四六判並製 一八九〇円  
ヒマラヤ、アルプス、アンデス、もう一つの「最高峰」チンボラソ：その登頂の歴史と人物をいきいきと描き出す。ノシヤック峰初登頂の貴重な体験も綴る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

## 〈山のレポート〉 海外トレッキング

### ネパールのトイレ事情

野瀬 和紀

私が初めて海外のトレッキングへ出かけたのはネパールで、もう20年以上も前のことになる。4日間のテント泊のトレッキングを終えてポカラのホテルに戻った翌朝、英字新聞を広げた時、目に飛び込んできた「加藤は死んだか」という大見出しは、今でも鮮明に目に焼き付いている。

登山家の加藤保男氏がエベレスト登頂に成功した後、下山中に事故死したのがこの年であった。

初めての海外トレッキングに際して先輩に言われたのは、ネパールトレッキングでは欧米人と日本人で決定的な相違があるということであった。何が聞くと、トレッキング中ポーターが持つて行くもので、日本人にはトイレ用のテント、欧米人にはテーブルといすが必需品だという。実際にトレッキングに出かけ、近く

にドイツ人と思える一行とテント地で宿泊した時、彼らはテーブルといすで食事をしていたが、我々は地面に敷かれたシートの上に坐っての食事であった。

また、我々のテント場にはトイレ専用の小さなテントが設置されていたが、ドイツ人のテントにはそれらしきものは見当たらなかった。

初めてのトレッキングから7年余りたつて出かけた「回目」のトレッキングもネパールであったが、日本人のトイレ用テントは相変わらず健在？であったが、日本人の食事はテーブルといす使用に変わっていた。

その後、ある時ロッジに泊まってみたくなり、キャンプ地近くのロッジに泊してみた。ロッジのトイレは戸外に数個並んで建てられていて鍵がかけられていた。ロッジから鍵を持って行って使用する和式（汲み取り式）のトイレであった。

この時の帰途、峠のレストランで昼食をとり、トイレに入ると和式の水洗式になっていた。と言ってもバケツに水を入れて使用後自分で流すというものであった。'04年10月、五回目のネパールトレッキングはイギリス人経営のロッジで2泊し、

アンナブルナやマチャブチャレの展望を楽しむというものであったが、この時宿泊したロッジはツインベッド・シャワー付き、そしてトイレは洋式の水洗トイレであった。

ネパールへ行った時は1泊はすることにしてはいるホテルがカトマンズにある。空港に近いサンセット・ビューがそのホテルで、文字通りホテルから見ると夕日が美しい。

オーナー夫人は日本人でしかも新ハイキングの元会員。このホテルではヒマラヤのそば粉を使った日本式のそば料理が食べられる。ネパールの青年を長野県戸隠村で修業させ、主人（オーナー）の出身地ツクエ村産のそば粉を使用した日本そばの店をオープンさせたのだ。

'04年のトレッキングではもちろんサンセット・ビューに宿泊し、カトマンズ最後の夜は日本そばのフルコースを味わった。そのビューホテルがジョムソンに新しいロッジを建設しているという話である。全室ではないがバス付きの部屋もつくったという。カトマンズ、ポカラ等一部の地域に限られていた施設の良い宿泊施設が増えつつあるのは歓迎だ。

## 〈山のレポート〉 登山あれこれ

田中 明

いつの頃からだろうか、私にとって趣味登山から花巡りの山歩きに変化していったのは……

異業種なる集いに参加して、ヨシ！

これからの生き方に取り込めるのはこれだと始めた登山だったが、「あの山を○時間登ったヨ」と、ピークハンティングのタイムトライアルを重ねても、脚・腰・膝などの体力を考えれば健康面に疑問がわき、肉体に醜態を塗りつけ、逆に心の状態までもが落魄してしまうのではと身震いをしてしまった。

そんな時、足元の小さな山野草に心が揺れた。それからは山仲間を誘って、ゆっくり歩いてこそ華と心に決め、バテずに余裕をもって歩ける山旅を目指した。登山道で出会った花をそれなりに楽しもうと、いまものんびり山野草を楽しんでいる。だが、長年の早足はなかなか直らない。周囲の中高年登山者を見ると、どうも

せっかちすぎではないだろうか。どうやら競争するのが好きなようである。戦後の経済復興に寄与し、高度成長を支え続けた年代であることを考えるとさもありなん。しかし、山で競争していたら山は楽しめない。パブル崩壊という結果も合せて考えると、人生後半に得た生きがいともいえる山に、高度経済成長の論理は不似合いではなからうか。

山野草を親しむ山歩きを続けるうちに、私たち人間による自然への影響が甚だしく、圧迫とさえなっていることに気がついた。

可憐な野草も、厳しい自然環境のなかで適応し、さまざまな種が共存して生き続けてきている。

今やこれらの植物たちに、私たち人間が、いや心ない登山者の不注意な行為によって、自然界の破壊を増長させているように思えてならない。

せっかくなの山歩きだ、自然とのふれあいを深めたい。急登でフウフウ汗を流しながら目に飛び込んでくる可憐な妖精たちに何度心を癒されたことか、その気持を大切にしたいから妖精たちの名前を知ろうとしている。それが植物との関わり

りをこれまでとは違ったものにしてくれ、やがて草花をやさしく見つめるようになる。足元にあったが知らない、その時とは明らかに変化している。

軽いきっかけから己が持ち得ていない事実を自分で観察し始めると、これはもう立派な「自然との共存」に近づいているのではと、自己満足の昨今である。

山への想いは多々あろうから、あくまでも私自身の考えと受けとめていただいてよい。

私の一押しの花巡りコースは、四季折々刻々と変化する自然の万華鏡のような、伊吹山の北方に稜線をのばす「伊吹北尾根」。何はさておいても私の大好きな所である。

関西の人たちにはあまり聞きなれない岐阜県的美東から入る国見峠から歩き始めとしてもいいし、脚にやや自信ない方には反対コースの静馬ヶ原からくれば、より楽しくお花巡りの縦走が楽しめること請け合いです。

山歩きのスタイルは様々なれど、私の花巡りの山歩きはいつまでもフィンハナさそうだ。

(里山シリーズ32 敦賀嶺南)

未踏のブナ林と人気の平原

### 新定田から岩籠山

中級コース (★★★)

長宗 清司

山中に、ぼつんと置き去られたようにあった北陸本線「新定田駅」も、ようやく日の目を見る機会が訪れたようで、駅のホームに新しく屋根が付いた。

今日は、この新定田駅から出発する。柴式部父子や著名人も歩いたという「深板越え」の道から歩き出す。やがて、峠への道とは分かれ、五位川沿いにしては上流へ、さらに道なりに国道161号線に出て、車に注意しながら、駄口の集落手前まで国道の端を歩く。

今日の登山口には目印が無い。頭上に二本の高圧線が国道を横切る地点の右、小谷から入る。谷筋に入ってすぐ、左の支尾根に取り付き、高みに向かって登る。

山中に、ぼつんと置き去られたようにあった北陸本線「新定田駅」も、ようやく日の目を見る機会が訪れたようで、駅のホームに新しく屋根が付いた。

袖道はないが登りやすい。やがて支尾根の突端に出て、踏み跡をたどると、足下に4等三角点(点名奥野・361.8分)の標石が見つかる(ここまで左側は伐開地)。

三角点からは急な登りの灌木帯となる。大きな二つの岩の間を抜けたり、巨岩を抱くように廻り込んだりするやせ尾根が続く。時々岩の上によじ登って周囲の景色が見られるが、そのうちに東側が谷で、国道をはさんだ向かい側の山並が、総見山を中心に深板から園地あたりまで大展望が広がり、ちよっとした高山に似る気分が浸れる場所に出る。

T形地点に突き当るが右へ移行する。このあたりの灌木は密度が高い。やがて、右前方に地図にもはっきり示されたガレ場が確認できる。ここまで来ると勾配はゆるくなり主尾根が近いことを感じる。再び登りの急な所を少し我慢して、677地点の主尾根に出る。ひと息いれて尾根を右へ移動すると少しくだつたあたりから一面、見事なブナ林となり、疲れが吹っ飛ばすらしい光景に出合う。

次いで、谷の源頭から・708のピーク近くを左巻き、北側に移ると、なお一

層太い幹のブナの群生地となり、思わず頭上を見上げる。

両側の谷から岩籠山に出る



最後は、灌木が密生する急斜面を強引に突き上げると、パッと視界が開けて、ササ原の向こうに岩籠山の頂と、インディアン平原の特徴のある巨岩群が目飛び込んでくる。あとは、これらを目標に腰から胸まで生い繁るササを分けて進む。

記念写真にもってこいの被写体(巨岩)からは登山道があり、公園の遊歩道を歩く気分が快適に岩籠山三角点に向かう。頂上からの360度の展望を楽しんだあと、下山は通常のハイキングコース(沢伝いの道)を利用する。夕暮山との分岐点からジグザグに急下りして、源頭から沢沿いに徒渉を繰り返す。季節によっては小花を見つけて小休止できよう。荒れた川原を注意してくださる。

岩籠林道に出て、道なりにJRの上下線二つのガードをくぐり、あとは京橋からバスで帰るのが本筋らしいが、今日は

再び新定田駅に戻ることとする。

定田の集落には、昔、小屋川に通じる川幅九尺(約2.8分)の舟川があった。文化十三年(1816)3月超工、同年7月に竣工したが、天保五年(1834)には、馬借屋の訴願で廃止された。

現在、定田集落内を流れる疎水は、舟川遺跡「水と史の回廊」として整備改修されたものである。

琵琶湖の北より深坂山を開削して、敦賀へ疎水を通す企画は古くからあり、平清盛の命で重盛が着工した跡が、深坂峠に残ると伝えられている。大谷吉継、河村端軒、京都の商人田中四郎左衛門らが



奉行所に企画書を提出したが、いずれも郡内の庄屋衆に反対されて中止した。その後、日本海沿岸への異国船の出没に対し、都への糧道確保のため、文化十二年に琵琶湖疎水計画書が幕府・藩の手によって具体化して、翌年3月、先ず小屋川と定田間の舟川工事を開始、4ヶ月後に完成した。

なお、一度廃止された舟川は、安政四年(1857)再び掘り起こされ、12月に開通。土橋より下は葎ノ川筋に出て、河口の今橋の下には荷物取扱所も置かれた。しかし、この舟川も慶応二年(1866)5月の大洪水で破壊され、その後

の復活はなかった。平成の時代になって、JRの電化代替工事周辺整備(琵琶湖一周が目的)を機に、一部だが、敦賀運河(定田舟川)跡が、観光用に再現された。

歴史的にみても、また琵琶湖の北端と敦賀は距離も短かく、  
△コースタイム▽  
JR新定田駅(10分) 深坂分れ(10分)  
国道(20分) 登山口(40分) 奥野三角点(30分) 展望地(40分) ・766(30分)  
源頭ブナ林(20分) 奥のブナ林(30分)  
インディアン平原(20分) 岩籠山(25分)  
夕暮山との分岐点(1時間10分) 岩籠林道口(30分) 定田集落北口(30分) 新定田駅  
△地形図▽2万5千1:1敦賀・駄口(問い合わせ先) 0770(21)1111

2等三角点のある山

釜ヶ谷山・古城山・天王山

山形 歳之

釜ヶ谷山(696・0) 2等点釜ヶ谷

一般コース(★)

岐阜市の北、伊自良村の北部にあり、伊自良湖のキャンプ場から登る。湖畔には青少年センターや観音霊場の甘南美寺がある。

シーズンオフで、人影の無いキャンプ場の車道脇に駐車する。釜ヶ谷の林道口にはチェーンが張られていた。

林道をつめて橋を渡り、みぞれ谷に入る。道標もあり道は明瞭である。木陰の所どころに石仏が安置され、山上の神社の参詣道になっている。やがて展望台に到着するが、木々が繁っていて展望はあまり得られない。ここから尾根の急坂に

なる。碎石が道を覆い、歩くのに難渋する。やがて小さい神社が鎮座し、さらに登ると御神体の行者岩が現れる。甘南美明神御神体とある。道は相変わらずのゴロた石の急坂で、登り難いことおびただしい。

稜線に登り着くと、竜神道と表示された釜ヶ谷の分岐道が合流し、山頂に到着する。

山頂には千把小屋と名の付いた新しい小屋が建っていた。展望は良くないが、まだ谷筋に雪を残す能郷白山や、大白山・花房山などが望まれる。

下山は竜神道をくだる。地形図にある釜ヶ谷の源流に向かう道でなく、まだ新しい道で登った道よりよほど歩きやすい。釜ヶ谷には石畳の遊歩道がつくられているが、急坂の逆落として、谷底に吸い込まれそう。道はやがて林道になり、キャンプ場に戻った。

登山靴を履き替えていると、妻が靴の中に水が入ったと言う。水のある所を歩いていないし、ゴアの登山靴は濡れてないので不思議に思って中を覗くと、血が染みていた。急いで衣服を改めたが、すでにヤマビルの姿は無かった。

谷の入口

には「ヒルが多いので注意」の看板があったが、上から降ってきたのか、道が良かったので全く気づかなかった。

釜ヶ谷山への登山標板



(平成17年5月19日歩く)

▲コースタイム▼

キャンプ場(30分) 展望台(1時間) 釜ヶ谷山(25分) 釜ヶ谷(35分) キャンプ場

▲地形図▼

5万Ⅱ美濃 2万5千Ⅱ美濃神海

古城山(437・1) 2等点古城山

初級コース(★)

美濃市の北方、長良川沿いにある古城山は名の通り城跡である。

山麓は美濃市運動公園で、遊歩道が山頂を一周している。地形図には山を半周する林道が記載されているが、チェーン

止めされ一般車は入れない。公園には広い駐車場がある。運動場奥の弓道場から丸太の階段道を登って行く。日陰になって涼しい。途中で林道を横断し、ひと登りで山頂広場に到着する。

休憩舎と佐藤なにかしの城跡石柱、旗竿のパイプなどが立ち、わずかに西北の山並が望まれた。方位盤には、午後に予定の天王山と誕生山があった。

南西にのびる尾根をくだる。林を抜けた展望の良い道で日射しが強い。ハイウェイ(東海北陸道)の車がおもちゃのように見えた。(平成17年5月23日歩く)

▲コースタイム▼

運動公園駐車場(1時間) 古城山

▲地形図▼

5万Ⅱ美濃 2万5千Ⅱ美濃



天王山(537・8) 2等点天王山

初級コース(★)

美濃市街から長良川を渡り、武芸川町に走る。途中の大矢田から北上し、大矢田神社に到着する。ここは紅葉の名所だが、シーズンオフで人影も無い。広い駐車場があるがまだ車道がびていたので、急坂を登って行くと、神社の本殿前に到着した。4~5台のスペースがあり木陰に駐車する。今新緑の真っ盛り。モミジ

が多く紅葉の時期はすばらしいだろう。神社右下から登山道が始まり、天王山の文字が見える。しかしその上には「熊に注意」と貼り紙されていた。前年は各地で熊の出没が多かったが、これも例外ではなさそう。

神社の裏から沢沿いの道を登る。周辺にはモミジが多い。やがて中高年の婦人



が4~5人くだった。平日だが案外登られているようだ。

稜線に登り着くと、誕生山からの縦走路が合流し、天王山の山頂に到着する。山頂は小広く、仮小屋で日射しを避けてひと休みする。

天王山を守る会とあり、出版されたばかりの美濃の山の写真集・ノートなどが置かれていた。展望はすばらしく、美濃地方の山が全部見渡せた。標石は新しいもの。50歳ばかり北に反射板が立っていた。

1日コースなら誕生山からの縦走も楽しいだろう。(平成17年5月23日歩く)

▲コースタイム▼

大矢田神社(1時間) 天王山

▲地形図▼

5万Ⅱ美濃 2万5千Ⅱ岩佐



新ルート紹介

コモンバの滝を見て

ひやくり

# 百里ヶ岳

初級コース(★)

山田 明男

山頂から百里四方が見渡せるから百里ヶ岳と名が付いたと言われるが、山頂の見晴らしはさほど良くはない。現在の登山ルートは福井県側二ルート(木地山峠・根米坂)、滋賀県側四ルート(根米坂・木地山峠・百里新道・南谷からシチクレ峠―百里新道)が知られている。もう一つ福井県の大谷ルートはほとんど歩かれず、廃道の状態だ。今回紹介するのはこれら以外の新ルートである。

滋賀県側の大倉谷奥には、「コモンバの滝」があり、すぐ横にも無名の美しい滝がある。この滝まで足をのばすには右記の各ルートからだ、場所と時間の関係でなかなか難しい。滝を見て県境線

コモンバの滝



に登って百里ヶ岳へ行き、百里新道を見るか、根米坂から焼尾地蔵経由でくだるコースがとれるかと思っていたのだが、今回歩いたのはまさにこのルートである。

小入谷集落のはずれから百里新道登山口に駐車し、大倉谷林道からコモンバの滝を目指す。小入谷から滝まで林道をゆっくり歩いて40分程で、林道終点の先がコモンバの滝になり、ここで休憩となる。滝は細い流れだが、15分程の気持ちの

よい滝である。コモンバの滝は右又の支流にあり、本流側にも10分程の滝がある。この滝のほうは水量が多くて見応えも十分だが、滝壺に近寄る道は無く、滝と滝の間の階段を登れば滝の上に出られる。コモンバの滝の上には竜神が祭られているが、はっきりとした道は左の本流側にあるので、右の竜神様に参ってから滝と滝の間の尾根に取り付くように行く。最初こそ踏み跡ははっきりしないが、次第にはっきりとしてくる。

私が最初に入った2000年6月1日

は所どころにテープがあったが、はっきりとした踏み跡は無かった。尾根は結構急だがあわてて登らずとも、30〜40分で県境の尾根道へ出る。出た場所は百里新道の分岐から根米坂方面に5分程の所である。このルートは急坂なので、下りよりも登りに使うほうがよいだろう。登り着いた県境線から山頂まで40分程で行ける。

帰りは百里新道を1時間15分〜1時間30分かけて登山口にくだる。登山口から

小入谷集落まで10〜15分である。

百里新道の分岐から根米坂までは30分で、根米坂から小入谷集落までは1時間〜1時間30分である。

2000年、最初に来たときは林道工事中であったが、3年前には林道が峠を越えて滋賀と福井が繋がった。根米坂の風情が壊されるのではと思っていたが、林道は少し西の所を越えたので風情は残されたままだ。

百里ヶ岳に登るなら一度は根米坂に行かれるとよいだろう。時期は春先カタクリの時期、8月のお盆過ぎ(ナツエビネが見られる)、11月中旬の紅葉の時期がよい。



シチクレ谷の右岸にあったと思われる昔の道は廃道だが、またの機会に探して歩いてみたいと思う。  
(平成17年11月6日歩く)

## 山旅ツアー添乗員募集

1979年創業、「大自然とのふれあい」をテーマに、国内海外の自然を楽しみながらゆっくり歩くハイキング・ツアーを企画・実施。特製の登山の経験、動植物の知識を生かしていただき、ツアーのお手伝いをお願いします。

【仕事内容】山旅ツアーの添乗、ガイド。

【資格】山歩き、人と接することやお世話が好きな方。55歳位迄。

【応募】履歴書・登山歴(書式自由)をご送付下さい。書類選考後通知致します。

【お問合せ】〒531-0076  
大阪市北区大淀中1-1-73 (新梅田シティ)  
(株)トラベルギャラリー旅の本棚・花野店  
☎06-6456-4888 (担当:中川)

## ▲コースタイム▼

百里新道登山口(15分) 小入谷集落(40分) コモンバの滝(40分) 県境尾根(40分) 百里ヶ岳(20分) 百里新道分岐(10分) シチクレ峠(1時間) 登山口

▲地形図V2万5千1古嵐  
\*「コモンバの滝」山本武人氏の『近江朽木の山』(92年6月発行)ではコモンバの滝となっているが、地元ではコモンバの滝と呼ばれているようで、滝に付けられた朽木山行会の札でもコモンバの滝となっている。

# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

## 近鉄

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「梅薫る枚岡梅林を行く」 3月1日(雨)雨天中止(集合) 南生駒駅9時11時(コース) 南生駒駅1時15分(コース) 枚岡梅林(約8km)一般向 \*係員は同行しません。参加自由・無料。生駒駅0743(74) 2056  
 「早春の甘樫丘からロマンあふれる歴史の旧跡めぐり」 3月11日(雨)雨天中止(集合) 榎原神宮前駅東山口9時11時(コース) 榎原神宮前駅(約10km)一般向 \*係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途)。榎原神宮前駅0744(22) 2449  
 「陸奥ふれあいハイキング」 「早春の馬見丘陵公園へ」 3月12日(雨)雨天中止(集合) 五位堂駅9時30分10時10分(コース) 五位堂駅

## 京阪バス

1 (かつらぎの道) 三石石塚古墳・竹取公園・馬見丘陵公園・榎原神社・新木山古墳・新山古墳・築山(約12km) 参加自由・無料(拝観料は別途)。近鉄大阪イオント係06(6775) 3566  
 「王陵の谷と河内源氏発祥の地を訪ねて」 3月18日(雨)雨天中止(集合) 上ノ太子駅9時11時(コース) 上ノ太子駅・宗岡池公園・科長神社・小野妹子の墓・推古天皇陵・用明天皇陵・飯塚寺・西方院・通法寺跡・森井八幡宮・上ノ太子駅(約10km)一般向 \*係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途)。古市駅0729(55) 0016  
 「花の郷から忍びの里へ」 3月25日(雨)雨天中止(雨天の場合は3月30日(雨)に延期) (集合) 三本松駅9時30分11時(コース) 三本松駅(約12km)一般向 \*係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途)。三本松駅0729(55) 0016  
 「花の郷から忍びの里へ」 3月25日(雨)雨天中止(雨天の場合は3月30日(雨)に延期) (集合) 三本松駅9時30分11時(コース) 三本松駅(約12km)一般向 \*係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料は別途)。三本松駅0729(55) 0016

## 神鉄

2 0021  
 「花折時・ナツ三角点トレック」 「花折時・ナツ三角点トレック」 4月1日(日)・8日(日)雨天中止(集合) 京阪出町柳駅地下コンコース8時18分(コース) 出町柳駅(バス) 平花折時・ピーク7621・ピーク8121・ミタニ峠・ナツチョー・小出石(バス) 出町柳駅(約10km) 電話申込制(1ヶ月前から) 各日共定員200名、参加費・無料(バス代別途) (申込先) 京都バス運輸部営業課075(871) 752112  
 「散山電車」  
 「早春ハイキング」 「大比叡」 3月1日(雨)・4日(雨)雨天中止(集合) 修学院駅9時30分10時(コース) 修学院駅(きざら坂) 水炊き神社・千種神社・大比叡(ケーブル) 大比叡(約10km) 参加自由・無料(登山杖貸出費別途) 075(702) 8111  
 「歴史ウォーク」 「八潮・修学院」 3月14日(雨)雨天中止(集合) 八潮比叡山口駅9時30分10時(コース) 八潮比叡山口駅・御蔭神社・

宝徳寺・赤山神社・神楽院・息縁院・鷺森神社・修学院駅(約7km) 参加自由・無料、叡山電鉄営業課075(702) 8111

## 神戸電鉄

▽駅長ハイク「有馬富士公園コース」 3月3日(雨)雨天中止(集合) 三田駅10時(コース) 三田駅・三輪神社・有馬富士公園・フラワータウン(約13km)一般向 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
 ▽木曜ハイク「紅葉谷・六甲最高峰コース」 3月8日(雨)雨天中止(集合) ロープウェイ有馬温泉駅10時(コース) ロープウェイ有馬温泉駅・紅葉谷道・六甲最高峰(約12km)一般向 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
 ▽火曜ハイク「鈴蘭台から有馬温泉までコース」 3月13日(雨)雨天中止(集合) 菊水山登山口(鈴蘭台駅下車)9時(コース) 鈴蘭台駅・菊水山・六甲線走路・魚沼道・有馬温泉駅(約20km) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

案内所078(592) 4611  
 ▽神鉄ハイク「石仏の旅・善防山と古法華石仏公園コース」 3月21日(雨)雨天中止(集合) 北条鉄道橋下里駅10時15分(コース) 播磨下里駅・古法華石仏公園・善防山・北条鉄道法華口駅(約8km)一般向 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321  
 ▽木曜ハイク「再度公園・トエンティックコース」 3月22日(雨)雨天中止(集合) 鈴蘭台駅10時(コース) 鈴蘭台駅・牛の背・再度公園・市ヶ原・トエンティックコース(約12km)一般向 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽火曜ハイク「須磨アルプスコース」 3月27日(雨)雨天中止(集合) 丸山駅10時(コース) 丸山駅・高取山・東山・鉄扇山・旗原山・山陽塩原駅(約16km) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
 ▽木曜ハイク「静けさの残る歴史の道コース」 3月29日(雨)雨天中止(集合) 栄駅9時10時(コース) 栄駅・つくはら湖・丹生神社・前・丹生山・箕谷駅(約16km) 一般

向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
 ▽神鉄ハイク「新・丹生山系縦走コース」 4月2日(雨)雨天中止(集合) 4月9日(雨)雨天中止(集合) 栄駅8時19分(コース) 栄駅・サイクリングロード・つくはら湖・シビレ山・朝日山・丹生山・帝釈山・稚児登山・花折山・金剛童子山・大池駅(約23km) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

## 山陽電車

▽山陽ハイキング「綾部山観梅ハイク」 3月5日(雨)雨天中止(集合) 網干駅下車(西約0.3km) 指保川(河川敷) 10時(コース) 指保川(河川敷) 右岸・龍岡寺・富鳩神社・新舞子・綾部山(約12km) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520  
 ▽山陽ハイキング「八家地蔵・木場ヨットハーブハイク」 3月19日(雨)雨天中止(集合) 大塚駅下車(大塚公園) 10時(コース) 大塚公園・八家地蔵・木場神社・木

場ヨットハーブ・瀬南緑道・白浜八幡神社・白浜の宮(約13km) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520  
 ▽山陽ハイキング「自然観察の森ハイク」 4月9日(雨)雨天中止(集合) 夢前川駅(夢前川河川敷) 10時(コース) 夢前川河川敷右岸・夢前川サイクルロード・松山貯水池・自然観察の森・夢前川河川敷右岸・夢前川駅(約11km) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520  
 ▽山陽ハイキング「淡路島公園ハイク」 4月23日(雨)雨天中止(集合) 明石駅下車(南西0.5km) 明淡島遊船石港・岩屋港・ポートビル前広場(コース) 岩屋港・ポートビル前広場・関線観音寺・淡路島公園展望広場・岩屋港・ポートビル前・明石港(約10km) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

# せせらぎ

## 題字・小林玻璃三

10月下旬、紀北の飯盛山(746呎)に登った。  
JR和歌山線名手駅から西国街道(麻生津道)を上り、麻生津峠で街道と分かれて車道を進み、最後は山道を登って頂上に着いた。

下山は、義経・静御前がそこで別れたという伝説の場所(雄桂・雄桂の老樹あり)を経由した。たかたのだが、事前にな賀町役場に問い合わせても、当日地元の人に聞いても、草木が生い茂っていて無理と言うので断念し、往路を戻った。

登山の途中では、紀ノ川の眺めや紀東山脈の遠望が楽しめた。特に麻生津峠から飯盛山へ進む途中、飯盛峠付近からすば

らしく見渡わせた。晩秋で、たわかに実る柿の木畑の風景も鑑賞した。

麻生津道には西高野街道の別名があり、麻生津峠までは、「右高野山大門五里」の道標から始まって、「第二高野山街道六地蔵」「堂前地蔵」「大師の井」などを見ながら、古道歩きの感じも味わった。

飯盛山山頂は樹木に囲まれていて展望は望めなかったが、南北朝の頃、北条一族が楠正成と戦った古戦場跡だったので往昔を偲んだ。

下山後、紀ノ川に架かる麻生津橋上から、麻生津峠・飯盛城・飯盛山と往復した稜線を眺め、深く印象にとめた。

今回の標高差は700呎、標準コースタイムの5時間10分に對し、所要時間は8時間20分近くを費やしており、こうした条件が私の日帰り登山における限界と悟らされた。

関西は関東に比し人口が少ないため、低山歩きで人に会うことは少ないのだが、今回は麻生津峠までいくつかの集落も通ったし、それ以後も飯盛山荘を見ながら、寂しい思いをせずに済んだ。

なお、これで関西に存在する飯盛山を三つ登ったことになる。(枚方市 東谷 宏)

11月13日、宮川村真手の高津(たかづ)山に登る。南からは道不明。北の特越林道終点から尾根にのる。北の峰から50呎くだり、80呎登り返して山頂に着く。宮川流域の展望良好。山中では、センブリ・キッコウハグマの花、ギンリョウソウモドキ、緑に輝くオオセンチコガネに出会った。林道では、空色・紫・白と、色とりどりの花を付けた竜胆、クロコノマチョウに出会えた。

11月28日、熊野古道の三瀬坂峠から北西のピーク(舟木浅間山)を目指す。南の巻き道からは登れずに峠まで戻り、尾根を直登。テレビ中継所の建つ山頂へ。北側の展望良好、宮川を越える。出来たばかりの近畿道を見下ろす。

ウリカエデ・タカノツメ・クヌギ等の葉が色づき、古道にも、たわかに実ったイブセンリョウの実、モミジガサの瘦果(そうが)等が見られた。いずれも40〜50分で登れる山だが、倍以上の時を費して登った。(松阪市 藪木伸人)

昨年の11月中旬、夜、湯毛して郵便ポストを見ると、年賀欠札の葉書が一通届いていました。差出人が新ハイ会員の方だと知り、あわてて本文に目を走らせると、ご主人が逝去されたとの報でした。葉書を手にしたまま声も出ず、玄関に立ち尽くしてしまいました。

差出人は深坂昌子さん。亡きご主人は寛さんで68歳での永眠でした。深坂さんご夫妻は、平成9年

から11年の間に、いつも揃って自然観察山行に参加されました。どこか飄々とした風情のご主人と、控え目ではあってもしっかり者の奥さんという絶妙な「コンビ」で、いわば常連さんとして山行を支えてくれたのです。そんな常連さんの存在は、リーダーとして大変ありがたく、いつも励みとなっていたのです。

いつしか参加が途絶えた後は、ご夫妻で新しい山行に踏み出されたものとはかり思っていました。この歳月がご夫妻の苦しい闘病生活だったのかも知れないと考えると、歳月の長さに胸が寒々想いがするのです。

「今思えば新ハイの山行に参加させていただき良い思い出になりました」という昌子さんの添書きの言葉に、わずかに救われた気がするのですが、自然観察山行への参加が、ご夫妻の人生に確かな思い出として残ったとすれば、望外の喜びといわなければなりません。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。(各務原市 鷺見守康)

能登半島最高峰「宝蓮(ほうだつ)山」の山名は天正から江戸期にかけて金鉱採掘されていたところからだ。

石川泉押水町のバス停から歩いて2時間半、山頂近くの駐車場から10分と資料にある。その駐車場から斜度30度の坂を車で登りつめれば歩かずして?宝蓮山(一等三角点名宝蓮山(6337・4呎))にこの対面。

その日は金沢に戻り、卯辰(うだつ)山(1411呎)を観光。金沢城の卯辰(北東)にある丘だ。

翌朝、駐車場から15分の石動(せきどう)山(564呎)に登る。かつては三百六十坊、三千衆徒が隆盛を極めたというが、今はブナ林に囲まれた神社があるのみ。蔵王山への道を探したが、下生え濃いやがで断念。

車移動し、平の集落を探す。蔵王山登山口を教えてもらい草深い休耕田を探る。透き通るような赤茶のミソソバがきれい。左から来た尾根にのると一本道で山頂、蔵王山1等点名高坂山(507・6呎)だが、樹林の成長で展望はない。

車移動し、自衛隊のレーダー基地のある高州山(567呎)に登って鉢伏山への道を探る。距離があり車止めもあり「一条大箱線」に再び車移動。林道に駐車し10分山頂、1等点名鉢伏山(543・6呎)だ。

今回1泊で1等三角点名三座と地元で有名な山々三座、計六座をうまく回って(山行とは言いがたい)、翌日の雨予報もあり急きよ、帰路についた。(向日市 湯浅康夫)

三方岩山……白山スーパールコースから山頂展望は360度何れも言うことなし。

料所ゲートを出て岩間温泉へ行く細い道に入る。目的は「岩間の噴泉塔群」。新岩間温泉まで車で入り、先川沿いの林道を1時間歩いて支流を渡って山腹に取り付け。水平道を1.5キロラパスして本流の上に出て、そこから川底まで下り下りの上り。川底に近づくと湯煙が上がり温泉のおいがしてドキドキする。

私は石灰岩の塔が何本も立ち

並び、その先から温泉が吹き出している姿を勝手に想像していた。そのためになぜわざとこまで来たのに、それが一本もない。

川から立ち上がった岩壁の上には唯一、一塔あるが先端の噴出口は塞がっている塔の付け根の岩壁の割れ目から大量の熱湯が流れ出ている。流れの先の川水の中には玉石で囲った浴槽がある。くやしいうのでそれを手直しして独り占めの入浴。「一人占め、周りを見れば一人だけ」と寂しい句を読んで眺めれば絶景だ。

目の前には対岸に稜線まで垂直に立ち上がる大岩壁がある。帰路、「危険入ってはいけません」と書いた看板をまたいで川下の方へ行ってみると、垂直の岩壁の割れ目から熱湯を噴き出す壁が続いているが、塔は無い。帰路山おやじのところへ立ち寄り、一塔しかなければ群ではないと不満の意を申し述べると、その塔をチェーンソーで切り取って持ち去った壁がいたそうだった。(大里町 山形 明)



# サービスチェーン



## 新ハイキングクラブ

<p>◎ サービスチェーンを利用するときは、電話か往復ハガキで、必ず予約してください。</p> <p>◎ 予約のときに、料金を確認してください。</p>	<p>日本唯一の女公制の山「大雪山」(四谷山)の登山口                  冠帽カヌエコースもあり                  温泉・お水の里</p> <p><b>旅館 紀の国屋甚八</b></p> <p>1泊2食付 9,000円から                  〒638-0443                  奈良県吉野郡天川村洞川                  電話 07476141033099</p>	<p>大雪山の二本ツツ・石狩山・ウベベサケ山の登山口。朝・昼・夜三用区画。美しい自然環境で、SHC会館(貸し出し)・休憩所・トイレ・炊事場・お風呂(貸し出し)あり。</p> <p><b>温泉ペンション 森のくまろう</b></p> <p>〒090-0140 北海道 網走市 上土道町字あかひの温泉地区27                  電話 0904-41203  <a href="http://www5.ocn.ne.jp/~mlukuru">http://www5.ocn.ne.jp/~mlukuru</a></p>
<p>山小屋 <b>八甲田山荘</b></p> <p>ロープウェイ前                  〒0330-0111                  青森県荒川字寒水1-161                  電話 0177-2815112</p>	<p>登山バス・温泉浴 日本百名山 奥羽山岳近頃の山。登山バスは一人様より前座席確保まで承ります。羽田駅着後安眠バス券も手配します。弁当用器も提供します。</p> <p><b>清里イーハトーヴ ユーストステル</b></p> <p>〒099-1440                  長野県清里町向陽2-802                  電話 015222151309955</p>	<p>大雪山 奥山ロープウェイへ徒歩5分                  2008年グループ別                  8名以上で1名無料(7.8.9.10月の各)</p> <p><b>大雪山層雲峡 ユーストステル</b></p> <p>〒078-1701                  北海道 上川郡 層雲峡                  電話 0165581513418</p>
<p><b>知床岩尾尾 ユーストステル</b>                  (知床国立公園内)</p> <p>〒090-0143 北海道 網走市 知床町 岩尾尾                  電話 0904-41203                  北海道 網走市 知床町 岩尾尾                  電話 0904-41203                  北海道 網走市 知床町 岩尾尾                  電話 0904-41203</p>	<p>大雪山 奥山ロープウェイへ徒歩5分                  2008年グループ別                  8名以上で1名無料(7.8.9.10月の各)</p> <p><b>八幡平グリーンホテル</b></p> <p>〒018-1514                  秋田県鹿角市 八幡平 大湯温泉                  電話 0186-1312111                  〒018-1312 秋田県鹿角市 八幡平 大湯温泉                  電話 0186-1312111  <a href="http://www.fedvental-gh.com">http://www.fedvental-gh.com</a></p>	<p>大雪山 奥山ロープウェイへ徒歩5分                  2008年グループ別                  8名以上で1名無料(7.8.9.10月の各)</p> <p><b>大雪山層雲峡 ユーストステル</b></p> <p>〒078-1701                  北海道 上川郡 層雲峡                  電話 0165581513418</p>

新ハイ・サービスチェーンご利用について

今号から東京本社「新ハイキング」(月刊誌)に掲載のサービスチェーンを一括して本誌「関西の山」にも掲載することになりました。

最近、登山する人が増え、遠方の山にもマイカーなどで手軽に行かれる方が多くなりました。一番困るのは、安心して利用できる登山基地の宿情報が少ないことです。サービスチェーンは「新ハイキングクラブ」グループの特約の宿です。新ハイ関西の会員証を提示いただければ、宿によって異なりますが、「宿泊料金の割引」「登山地までの送迎」「飲み物のサービス」など、何らかの特典が受けられます。どうぞご利用ください。

山行短歌  
 10月25日 鈴鹿雨乞岳  
 笹原ゆけだせば懐しき友のよう  
 ぼくを手招きしている頂き  
 10月27日 美作人形仙  
 密集のササカき分け峰に立てば  
 ぼくだけの青い空と白い雲  
 11月4日 鈴鹿秋遊ヶ岳  
 高きより低きへ庵座の滝は流れ  
 水しぶきして希望掛け散る  
 11月8日 台高古ヶ丸山  
 赤青黄に絵を塗り山は色づいて  
 風景画の尾根を突きすすみ  
 11月10日 湖西三重嶽  
 山はあこがれを知る者にだけ  
 光りまばゆい奇跡の森が待つ  
 11月15日 鈴鹿仙ヶ岳  
 朝日射す仙鶴尾根のガレを越え  
 出会いの予感に胸高鳴らせ  
 11月18日 奈良経ヶ塚山  
 三山を越えゆく時の君の瞳に  
 さくらさくらの古代のみやこ  
 11月21日 奥高野牛廻山  
 遠く来てただひたすらに山廻る  
 無償の行為をそれを愛と呼ぶ  
 11月24日 美作泉山  
 どこまでも続いている縦走路を  
 われらは絆つなぎ合い歩む  
 11月28日 越美三国岳  
 夜叉ヶ池に山の精霊とじこめて

すべてのものむむ風高峰よ  
 (吹田市 木村太郎)

フクジュソウ・カタクリなどと聞くと、山野草ファンならたまらなくなるお花だと思っ。これらのスプリングエフェメラルたちに私も逢いたくてあちこち徘徊したが、とりわけ近場の小塩山・ポンポン山に昨年は4月だけで五回もいろんな方を案内した。

特に京都西山山系はカタクリが多く、近年有名になってしまいい、その時季ともなれば臨時バスが出る状態でもある。そのようなことから一帯が踏み荒らされる結果ともなっている。

今年もその季節がやってきたが、ロープ外には踏み出さないようにしたいものである。

この時季にはカタクリばかりでなく、ミヤマハコベ・ミヤマカタバミ・ミヤマアオイ・トウゴクサバノオ・ニッコウネコノメなど、たくさん山野草が可憐に咲き誇っている。植物への思いやりの心を忘れずいろいろな草花を楽しもう。

(長岡京市 田中 明)

昨年7月24日に三俣連華岳に登り、岐阜県と接する三俣境の6山を4年がかりで全て登った。(1)長野・愛知の三国山、2)長野・富山の三俣連華岳、3)右川・富山の笈ヶ岳、4)石川・福井の白山の峰、5)滋賀・福井の三国岳で、6)三重・滋賀も三国岳)

長かったのは今回三俣連華岳で、きつかったのは笈ヶ岳。わかりにくかったのは三俣境。思われた三国山で、1時間も山頂を探した。

次は岐阜県内と県境にある1等三角点の20山の全てを廻りたい。西美濃の12山は終わっているが、東濃から飛騨の山が8山ほど残っている。

三俣連華岳には、初めて見る標石「主三角点」があり、3等三角点と並んで置かれていた。次の目的地は大日岳の1等三角点、いっぶく平の主三角点である。

(海津市 山田明男)

自分達が今飲んでいる水がどこからどのようにやってくるのかを探検することである。一滴の水が大川をつくると言うが、それを見届けるには山を登り谷を越って源流域へ、夢があり楽しいではないか。

きっかけは、ある町が行った「源流にモニュメント」というイベントに参画したのが業地にある時、雪彦山が源流に当たる川を下流から遡上したが、川中から見ると景色に新たな発見があった。

夏になると濁水や悪臭の飲料水が問題になるが、それは源流域の林相も原因の一つだといわれていて、それを確認することで自覚を持ち、山をいとおしく思えるのを期待している。

(姫路市 須藤 博)

### 山行計画 (3・4月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。費用のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害長崎ジャパンと契約)  
死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
入院保険金 日額 5000円  
通院保険金 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

### 山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早から申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
  - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
  - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース(5時間コース)
  - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
  - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
  - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ過ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

4月	3月
2(日) 1(出) 2(日)	4(出) 美濃・向山・大岩
3(日) 2(出) 3(日)	5(出) 六甲・摩耶山
4(日) 3(出) 4(日)	6(出) 鈴鹿・仙ヶ岳
5(日) 4(出) 5(日)	7(出) 愛知・出来山
6(日) 5(出) 6(日)	8(出) 鈴鹿・雨乞岳
7(日) 6(出) 7(日)	9(出) 愛宕山・モリ木滝・社務所裏林道
8(日) 7(出) 8(日)	10(出) 湖北・七尾山
9(日) 8(出) 9(日)	11(出) 京都西山・ボンボン山
10(日) 9(出) 10(日)	12(出) 葛城・二上山・屯鶴峰
11(日) 10(出) 11(日)	13(出) 曾根・見通山・鷲の巣
12(日) 11(出) 12(日)	14(出) 播州・七種山
13(日) 12(出) 13(日)	15(出) 湖南アルプス・太神山
14(日) 13(出) 14(日)	16(出) 奈良・鳥ノ助屋山・竜門岳
15(日) 14(出) 15(日)	17(出) 九州・高平・穂積・関門岳・仰鳥頭山
16(日) 15(出) 16(日)	18(出) 鳥羽・菅志島
17(日) 16(出) 17(日)	19(出) 奥美濃・毘沙門岳・野伏ヶ岳
18(日) 17(出) 18(日)	20(出) 比良・雲仙山・ホツケ山
19(日) 18(出) 19(日)	21(出) 鈴鹿・御池岳・奥の平
20(日) 19(出) 20(日)	22(出) 大峰・山上ヶ岳
21(日) 20(出) 21(日)	23(出) 湖北・伊吹山
22(日) 21(出) 22(日)	24(出) 朽木・京大産生研究林
23(日) 22(出) 23(日)	25(出) 東山36峰・第28峰・第36峰
24(日) 23(出) 24(日)	26(出) 京都北山・貴船・白花・菅野・八瀬大原
25(日) 24(出) 25(日)	27(出) 箱根・金時山・箱根駒ヶ岳
26(日) 25(出) 26(日)	28(出) 南紀・高尾山
27(日) 26(出) 27(日)	29(出) 奥美濃・追分山・明王山・菅比羅山
28(日) 27(出) 28(日)	30(出) 美濃・追分山・明王山・菅比羅山
29(日) 28(出) 29(日)	31(出) 美濃・追分山・明王山・菅比羅山
30(日) 29(出) 30(日)	

2(日) 1(出) 2(日)	越前・鏡倉山・藤倉山	村田
3(日) 2(出) 3(日)	鈴鹿・白濁山・水沢岳	筒井
4(日) 3(出) 4(日)	関東新島・高尾山・角田山・穂留山	田中賢
5(日) 4(出) 5(日)	京都西山・花ノ寺・ボンボン山	田中賢
6(日) 5(出) 6(日)	京都西山・小塩山	狩野
7(日) 6(出) 7(日)	比良・リトル比良縦走	塚元
8(日) 7(出) 8(日)	美濃・百鬼岳・吉野山	森脇
9(日) 8(出) 9(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
10(日) 9(出) 10(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
11(日) 10(出) 11(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
12(日) 11(出) 12(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
13(日) 12(出) 13(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
14(日) 13(出) 14(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
15(日) 14(出) 15(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
16(日) 15(出) 16(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
17(日) 16(出) 17(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
18(日) 17(出) 18(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
19(日) 18(出) 19(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
20(日) 19(出) 20(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
21(日) 20(出) 21(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
22(日) 21(出) 22(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
23(日) 22(出) 23(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
24(日) 23(出) 24(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
25(日) 24(出) 25(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
26(日) 25(出) 26(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
27(日) 26(出) 27(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
28(日) 27(出) 28(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
29(日) 28(出) 29(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
30(日) 29(出) 30(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見
31(日) 30(出) 31(日)	美濃・追分山・明王山・菅比羅山	鷲見

自然観察山行201  
美濃・各務原アルプス  
向山から大岩(一般向き)  
期日 3月4日(日) 日帰り  
集合 JR岐阜駅9時15分  
コース 岐阜駅(バス) 柳谷坂  
向山見晴台 岩坂峠 大  
岩目晴台 各務野自然道  
産の森(バス) 岐阜駅  
(解散)  
費用 約4000円(岐阜駅か  
らバス代等)  
地図 2万5千 美濃関  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名

新神戸駅(解散16時頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 有馬・神戸首  
都  
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇  
申込み 〒675-0112  
加古川市平岡町山之上684  
の33・17A403  
古賀慶一まで  
春浅い静かな裏甲から摩耶山  
を訪ねてみましょう。雨天中止  
鈴鹿遊山19  
仙ヶ岳・修験者の道(健脚向き)  
期日 3月5日(日) 日帰り  
集合 坂本集落入口・瀬田駐車  
場8時00分  
コース 駐車場→上原→タカノ  
ス→仙ヶ岳→法印のコバ  
→不動尊(行者像)→駐車  
場(解散)  
費用 参加費2000円  
地図 2万5千 伊船  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

拝します。雨天中止  
展望の山14  
愛知・出来山(初級向き)  
期日 3月5日(日) 日帰り  
集合 名古屋地下鉄東山線土社  
駅8時00分  
コース 上社駅(車) グリーンロー  
ド 釜淵・足助・太多峠・  
段戸湖→出来山(往路)  
段戸湖(車) 上社駅(解  
散)  
費用 交通費各自(車代120  
0円)  
地図 2万5千 ねびそ  
係 ◎山田明男  
申込み 〒503-0535  
海津市南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\*定員15名程度  
愛知県中央部の1等三角点だが  
あまり登られていない。段戸湖付  
近のブナ林はきれいです。早く下  
山できれば足助で温泉に入ります。  
雨天決行  
鈴鹿を歩く235  
残雪の雨乞岳(健脚向き)  
期日 3月5日(日) 日帰り  
集合 大河原「かもしか荘」広

場8時30分  
コース かもしか荘(車) 清水平  
谷広場 清水の頭 南南  
乞岳 雨乞岳 雨乞尾根  
シャクナゲ尾根 林道広  
場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
○後藤康幸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の残雪の雨乞岳山行で  
す(62号78ページ参照)。  
小雨(雪) 決行  
火曜ハイイク18  
愛宕山シリーズ10  
モミノ木尾根・社務所裏農林道  
から保津峡へ(一般向き)  
期日 3月7日(火) 日帰り  
集合 清滝バス停9時00分  
コース 清滝一梨の木林道→モミ  
ノ木尾根→社務所→社務  
所裏農林道→水尾→コメ  
カイ道→中尾根→保津峡  
駅(解散16時頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千 京都西北部  
係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
今回は少しロングコースになり  
ます。雨天中止  
湖北・七尾山(初級向き)  
期日 3月11日(日) 日帰り  
集合 滋賀県栗井町今辻ぶどう  
園10時00分  
コース ブドウ園→七尾山(谷津渡)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 虎御前山  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
伊吹山を間近に仰ぎ見る(参加  
の方へは係より集合地の地図を送り  
ます)。雨天決行

ば9時30分  
コース 高槻駅(バス) 出灰→登  
山口→大原野森林公園西  
尾根→フクジノウ自生  
地→ポンポン山→神峰山  
寺(バス) 高槻駅(解散)  
費用 約1500円(大阪から)  
地図 2万5千 京都西南部・  
高槻・法貴  
明文社「北摂・京都西  
山」  
係 ◎塚元一彦 ○中村 登  
申込み 〒536-0008  
大阪市城東区関目4の14  
の9の901 塚元一彦まで  
\*定員30名  
新ハイキング関西支部と合同  
春の地図読み山行は京都西山シリ  
ーズです。フクジノウの群生地を  
訪ねます。シルバー型コンバス  
を持参ください。初心者歓迎。  
雨天中止  
葛城・二上山から屯鶴峰  
(一般向き)  
期日 3月12日(日) 日帰り  
集合 近鉄上山駅8時40分  
コース 二上山駅→雄岳→雄岳  
万葉の森→鉄塔ヒーク  
穴虫街道→穴虫峠→屯鶴

峰→関原駅(解散16時頃)  
費用 約2000円(大阪から)  
地図 2万5千 大和高田  
昭文社「葛城高原・二  
上山」  
係 ◎村田智俊 ○安倉正勝  
○呉比呂美  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
大津皇子の墓を訪ね、二上山か  
ら鞍区石の奇勝屯鶴峰の明るい尾  
根道を歩きます。雨天中止  
曾爾・見通山から鷺の巣  
(中級向き)  
期日 3月14日(火) 日帰り  
集合 近鉄桔梗が丘駅南口9時  
00分 比奈知ダムサイト  
駐車場9時15分  
コース 駐車場→鷺子林道→見通  
山→鷺の巣→沼木山→北  
西尾根線→大戸屋→鷺子  
林道→駐車場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 俱利伽羅山  
係 ◎田中賢治 ○岡平くみ子  
申込み 〒518-0626  
名張市桔梗が丘6の2の  
18 田中賢治まで

\*定員10名  
\*マイカー山行(5名ま  
で集合可能。希望者は  
その旨明記ください)  
因幡対岸の見通山を越え山  
行します。2万5千円はできれば  
部分拡大コピーを持参ください。  
小雨決行  
ファミリーハイイク78  
播州・七尾山(中級向き)  
期日 3月15日(水) 日帰り  
集合 JR新大阪駅→階上南口  
7時20分  
コース 新大阪駅(バス) 福崎町  
野外活動センター→七種  
滝→七尾山→七尾山→野  
外活動センター(バス)  
こうでら温泉(バス) 新  
大阪駅(解散)  
費用 約3500円(バス代)  
地図 2万5千 寺前・前之庄  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒565-0854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
\*定員20名(会員に限る)  
兵庫八景の七種滝から早春の色  
に染まる七尾山を越え、七尾山の  
岩尾根に遊ぶ。雨天中止

平日ふれあいハイクル  
湖南アルプス・太神山

期日 3月16日(日) 日帰り  
集合 J.R.石山駅帝産バスのりば8時20分

コース 石山駅(バス)アルプス登山口→御不動→太神山→矢笠岳→御仏河原→笹間岳→上関(バス)石山駅(解散17時15分)

費用 約1500円(京都から)  
地図 2万5千:瀬田・朝宮  
係 ©寺井恒夫  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 3月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央改札口9時10分

コース 橿原神宮駅(バス)千本橋→恋の谷ノ鳥ノ崎屋山→竜門岳→山口神社(バス)橿原神宮前駅(解散)

奈良・鳥ノ崎屋山から竜門岳  
期日 3月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央改札口9時10分

費用 約3800円(阿部野橋駅起点・バス代含む)  
地図 2万5千:古市宮  
係 ©西上利和 ©東山澄夫 ©前川和佳子  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 3月17日(日) 21日(朝) 4泊5日(船中2泊)  
集合 (17日)大阪南港かもめフェリーターミナル19時00分

コース (17日)大阪南港(船中泊) (18日)宮崎港(バス) 高千穂河原→高千穂峰→高千穂河原(バス) 開聞町(泊) (19日)開聞(バス) 登山口→開聞岳→登山口

九州南部の山  
高千穂峰・開聞岳・御鳥帽子山  
期日 3月17日(日) 21日(朝) 4泊5日(船中2泊)  
集合 (17日)大阪南港かもめフェリーターミナル19時00分

費用 約1800円(京都から)  
地図 2万5千:比良山・花背  
係 ©秦 康夫  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

岐阜駅(解散)

費用 約3100円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)

地図 2万5千:石徹白・二ノ峰・願教寺  
係 ©鷺見守康  
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

\*2月27日まで  
残雪期の奥美濃の展望の山に登ります。2003年4月に撤退した野伏ヶ岳にも再挑戦です。スノーシューまたはカンジキ必携。  
雪(雨) 天決行

比良を歩く47  
雲仙山からホッケ山(中級向き)  
期日 3月19日(日) 日帰り  
集合 J.R.堅田駅タクシーのりば8時45分

コース 堅田駅(タクシー) 妙道会教団前または雲仙山口→雲仙山→スゴパン→権現山→スゴパン→雲仙山口→栗原→和通駅(解散17時)

費用 約1800円(京都から)  
地図 2万5千:比良山・花背  
係 ©秦 康夫  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

(バス)人吉(泊)  
(20日)人吉(バス) 登山口→御鳥帽子山→登山口(バス)五木村(入浴/バス)宮崎港(船中泊) (21日)大阪南港(船中泊) 7時30分

費用 約3000円(フェリー・バス・宿泊代等)  
地図 昭文社『霧島・開聞岳』  
係 ©狩野東彦  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 3月18日(日) 日帰り  
集合 近鉄鳥羽駅9時00分

コース 鳥羽駅→佐田浜(船) 桃取港→ヤサキ→桃取港→和具山→屋山古墳→谷志

三重の山4  
鳥羽・谷志(鳥) (一般向き)  
期日 3月18日(日) 日帰り  
集合 近鉄鳥羽駅9時00分

新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の残雪の御池岳山行です(24号49ページ参照)。  
小雨(雪) 決行

大峰・山上ヶ岳(中級向き)  
期日 3月21日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市駅8時40分

コース 下市口駅(タクシー) 清浄大橋→レンゲ谷道→レンゲ辻→山上ヶ岳(タクシー) 下市口駅(解散18時頃)  
費用 約7000円(大阪から電車・タクシー代)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

費用 約3000円(参加費1500円)  
地図 2万5千:二見・谷志  
係 ©稲垣逸夫  
申込み 〒519-1031 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで

自然観察山行202  
スノーハイキング  
期日 3月18日(日) 19日(日) 1泊2日  
集合 (18日) J.R.岐阜駅9時15分  
コース (18日)岐阜駅(バス)石徹白(白鳥高原スキー場) 駐車場→林道取付点→尾沙門岳→林道取付点→スキー場駐車場(バス)石徹白(泊) (19日)宿(バス) 白山中居神社→和田山牧場跡→野伏ヶ岳→和田山牧場跡→白山中居神社(バス)

費用 約4000円(京都から入浴代含む)  
地図 2万5千:関ヶ原・美東・虎御前山  
係 ©田中 明  
申込み HPからメールのみ受付  
http://hana.04.hp.infoseek.co.jp  
\*定員10名

費用 約7000円(大阪から電車・タクシー代)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

和具港(船) 佐田浜→鳥羽駅(解散17時頃)  
費用 交通費各自(参加費1500円)

期日 3月22日(日) 日帰り  
集合 J.R.近江長岡駅バスのりば8時45分発乗車

費用 約3000円(参加費1500円)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 3月22日(日) 日帰り  
集合 J.R.近江長岡駅バスのりば8時45分発乗車

費用 約7000円(大阪から電車・タクシー代)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 3月26日(日) 日帰り  
集合 J.R.関ヶ原駅7時15分/道の駅「朽木本陣」9時00分

コース 各集合駅(重) 生杉休憩所→三園峠→野田畑峠→

費用 約7000円(大阪から電車・タクシー代)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 3月26日(日) 日帰り  
集合 J.R.関ヶ原駅7時15分/道の駅「朽木本陣」9時00分

費用 約7000円(大阪から電車・タクシー代)  
地図 昭文社『大峰山脈』  
係 ©村田智俊 ©安倉正勝 ©奥比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 3月26日(日) 日帰り  
集合 J.R.関ヶ原駅7時15分/道の駅「朽木本陣」9時00分

シンコボー 杉尾坂―上谷  
―地蔵峠―生杉休憩所  
(車)各集合点解散  
費用 交通費各自(車代150  
0円・1000円)  
地図 2万5千―古屋  
係 ◎山田明男  
申込み 〒503-0535  
津津市南濃町松山24の19  
山田明男まで

\*定員15名程度  
\*集合地を明記ください  
三園峠から奥境尾根を登って上  
谷をくだるルート。11月まで毎月  
歩きます。雨天決行(雨天時は地  
蔵峠より入ります)。  
火曜ハイク9  
私の東山36峰(最終第5回)  
第28峰―第36峰(一般向き)  
期日 3月28日(火) 日帰り  
集合 京阪伏見稲荷駅9時00分  
コース 伏見稲荷駅―稲荷山―恵  
日山―光明峰―泉山―今  
熊野山―阿弥陀ヶ峰―清  
閑寺山―清水山―鳥辺山  
―西本願寺本廟(解散16  
時頃)  
費用 交通費各自(資料代10  
0円)

申込み 1万―国土地理院「東山」  
係 ◎仲谷社司 ○沖 伸  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員18名(会員に限る)  
少しやぶが過ぎあります。神社巡  
りもしますので変則的な歩き方にな  
ります。雨天中止  
北山ちよつと歩き76  
貴船から旧花背道・八瀬大原へ  
(一般向き)  
期日 3月29日(休) 日帰り  
集合 JRR京都駅八条口団体バ  
スのりば8時10分  
コース 京都駅(バス) 貴船神社  
手前駐車場 奥貴船橋  
―旧花背道(アソガ谷)  
―旧花背峠分岐―百井別  
れ―百井峠―天ヶ岳分岐  
―寂光院道―地杉山分岐  
―寂光院―大原(バス)  
―京都駅(解散16時00分頃)  
費用 約2000円(京都駅か  
らバス代)  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎奥山整三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
雪解けの旧花背道、遠くに比  
良山や琵琶湖を眺めながら春の一  
日をゆっくり歩きます。雨天中止  
花巡り山行29  
箱根・金時山と箱根駒ヶ岳  
(一般向き)  
期日 3月29日(休)夜2日(休)  
前夜発1泊2日  
集合 (29日)JR大塚駅23時  
05分(ムーンライトなが  
ら乗車)  
コース (30日)(電車)御殿場  
駅(バス)乙女峠―金時  
山―矢倉沢峠―明神ヶ岳  
―明屋ヶ岳―宮城野橋―  
宿(泊) 宿―登山ケーブ  
ル―早雲山駅―神山―箱  
根駒ヶ岳―(駒ヶ岳ロー  
プウェイ)―箱根園(バ  
ス)小田原駅(電車)京  
都駅(解散21時頃)  
費用 約2000円(青春18  
きつが三分分・宿泊・バ  
ス代等)  
地図 2万5千―関本・箱根  
係 ◎田中 明  
申込み H/Pからメールのみ受付

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

金時山は金太郎伝説で知られ、  
富士山展望の山として名高く、眼  
下には芦ノ湖、仙石原が箱根のよ  
うに広がります。また箱根の最高  
峰神山とついで富士山を見なが  
ら駒ヶ岳まで歩きます。雨天決行  
日まで  
ファミリ―ハイク79  
南紀・高尾山(初級向き)  
期日 3月30日(休) 日帰り  
集合 JRR新大阪駅1階止出口  
7時40分  
コース 新大阪駅(バス) 奇絶峽  
―磨崖分仏―高尾山―東  
展望台―清水呑み―奇絶  
峽(バス) 天神温泉(バ  
ス) 新大阪駅(解散)  
費用 約4000円(バス代)  
地図 2万5千―秋津川  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒565-0854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで

三十三ヶ所観音霊場―編  
倉山―藤倉山―雲石山―  
今庄駅(電車) 米原駅  
(解散)  
費用 交通費各自(参加費20  
0円)  
地図 2万5千―今庄  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*プナ林・早春のギフチョウ・カ  
タクリなど、今年の春は豪雪でど  
うなるかな? 要天中止  
鈴鹿  
白滝山・大洞の頭・水沢岳  
(健脚向き)  
期日 4月4日(日) 日帰り  
集合 近鉄桂橋が丘駅前8時15  
分/野洲川ダムサイト駐  
車場9時30分  
コース 駐車場―元蔵谷出合―白  
滝山西南尾根―大洞の頭  
―鏡尾根分岐―水沢岳―  
水沢峠―元蔵谷林道 駐  
車場(解散)  
費用 交通費各自  
2万5千―伊船  
係 ◎田中賢治 ○関平くさ子

三十三ヶ所観音霊場―編  
倉山―藤倉山―雲石山―  
今庄駅(電車) 米原駅  
(解散)  
費用 交通費各自(参加費20  
0円)  
地図 2万5千―今庄  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*プナ林・早春のギフチョウ・カ  
タクリなど、今年の春は豪雪でど  
うなるかな? 要天中止  
鈴鹿  
白滝山・大洞の頭・水沢岳  
(健脚向き)  
期日 4月4日(日) 日帰り  
集合 近鉄桂橋が丘駅前8時15  
分/野洲川ダムサイト駐  
車場9時30分  
コース 駐車場―元蔵谷出合―白  
滝山西南尾根―大洞の頭  
―鏡尾根分岐―水沢岳―  
水沢峠―元蔵谷林道 駐  
車場(解散)  
費用 交通費各自  
2万5千―伊船  
係 ◎田中賢治 ○関平くさ子

\*定員25名(会員に限る)  
近くに田辺湾、遠くに紀伊山地  
の山並。景勝地の奇絶峽から大展  
望の秀峰へ登る。雨天中止  
自然観察山行203  
奥三河  
鳳来寺山と愛知県民の森尾根線  
走 (一般向き)  
期日 4月1日(日) 2日(日)  
1泊2日  
集合 (1日) JRR岐阜駅9  
時15分  
コース (1日)岐阜駅(バス)  
鳳来寺本堂―奥の院―鳳  
来寺山―天狗岩―鷹打場  
―東照宮―本堂(バス)  
愛知県民の森(泊)  
(2日)宿泊施設―南尾  
根―西尾根―北尾根―明  
治百年記念広場―県民の  
森駐車場(バス) 岐阜駅  
(解散)  
\*場路に入浴します。

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 警見寺康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで  
新日本百名山の鳳来山を歩き、  
パラエティに富む愛知県民の森の  
長い尾根を線走します。雨天決行  
鈴鹿を歩く237  
花の堂仙山西南尾根(宿廻り向き)  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 河内線甲津倉登り口広場  
8時00分  
コース 広場―あけん原―行者の  
森―笹峠―近江展望台―  
南雲岳―雲仙山―経塚山  
―ピン坂道―見晴台―落  
合―あけん原(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の花の堂仙山西南尾根  
から秋に歩いたパリエイションル―

申込み 〒518-0626

名張市植木が丘6の2の18 田中賢治まで

\* 定員10名

＊マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)  
滋賀県側から鈴鹿の樹林の尾根を元越谷林道からたどりませ。正確な地図がキーポイントになります。小雨決行

花巡り山行30

関東・新潟

高尾山と角田山・横曽山

期日 4月5日(休夜)8日(出)

集合 (5日) JRR大塚駅23時05分(ムーンライトながら乗車)

コース (6日)(電車) 東京(電車) 高尾駅(バス) 日影-横曽山-城山-高尾山-高尾駅(電車) 新宿駅(ムーンライトえちこ)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

○中西信行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

大峰・百員岳から吉野山 (一般向き)  
期日 4月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市口駅9時15分  
コース 下市口駅(タクシー) 鳳閣寺-百員岳-西行庵-青根ヶ峰-奥千本-下千本-吉野駅(解散18時)

費用 約3400円(阿部野橋起点・タクシー含む)  
地図 2万5千-吉野山・新子・中声  
係 昭文社「大峰山脈」  
○西上利和 ○東山澄夫  
○前川和博子

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒518-0626

名張市植木が丘6の2の18 田中賢治まで

＊マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)  
滋賀県側から鈴鹿の樹林の尾根を元越谷林道からたどりませ。正確な地図がキーポイントになります。小雨決行

花巡り山行30

関東・新潟

高尾山と角田山・横曽山

期日 4月5日(休夜)8日(出)

集合 (5日) JRR大塚駅23時05分(ムーンライトながら乗車)

コース (6日)(電車) 東京(電車) 高尾駅(バス) 日影-横曽山-城山-高尾山-高尾駅(電車) 新宿駅(ムーンライトえちこ)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

大峰・百員岳から吉野山 (一般向き)  
期日 4月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市口駅9時15分  
コース 下市口駅(タクシー) 鳳閣寺-百員岳-西行庵-青根ヶ峰-奥千本-下千本-吉野駅(解散18時)

費用 約3400円(阿部野橋起点・タクシー含む)  
地図 2万5千-吉野山・新子・中声  
係 昭文社「大峰山脈」  
○西上利和 ○東山澄夫  
○前川和博子

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒518-0626

名張市植木が丘6の2の18 田中賢治まで

＊マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)  
滋賀県側から鈴鹿の樹林の尾根を元越谷林道からたどりませ。正確な地図がキーポイントになります。小雨決行

花巡り山行30

関東・新潟

高尾山と角田山・横曽山

期日 4月5日(休夜)8日(出)

集合 (5日) JRR大塚駅23時05分(ムーンライトながら乗車)

コース (6日)(電車) 東京(電車) 高尾駅(バス) 日影-横曽山-城山-高尾山-高尾駅(電車) 新宿駅(ムーンライトえちこ)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

大峰・百員岳から吉野山 (一般向き)  
期日 4月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市口駅9時15分  
コース 下市口駅(タクシー) 鳳閣寺-百員岳-西行庵-青根ヶ峰-奥千本-下千本-吉野駅(解散18時)

費用 約3400円(阿部野橋起点・タクシー含む)  
地図 2万5千-吉野山・新子・中声  
係 昭文社「大峰山脈」  
○西上利和 ○東山澄夫  
○前川和博子

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒518-0626

名張市植木が丘6の2の18 田中賢治まで

＊マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)  
滋賀県側から鈴鹿の樹林の尾根を元越谷林道からたどりませ。正確な地図がキーポイントになります。小雨決行

花巡り山行30

関東・新潟

高尾山と角田山・横曽山

期日 4月5日(休夜)8日(出)

集合 (5日) JRR大塚駅23時05分(ムーンライトながら乗車)

コース (6日)(電車) 東京(電車) 高尾駅(バス) 日影-横曽山-城山-高尾山-高尾駅(電車) 新宿駅(ムーンライトえちこ)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

大峰・百員岳から吉野山 (一般向き)  
期日 4月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市口駅9時15分  
コース 下市口駅(タクシー) 鳳閣寺-百員岳-西行庵-青根ヶ峰-奥千本-下千本-吉野駅(解散18時)

費用 約3400円(阿部野橋起点・タクシー含む)  
地図 2万5千-吉野山・新子・中声  
係 昭文社「大峰山脈」  
○西上利和 ○東山澄夫  
○前川和博子

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒518-0626

名張市植木が丘6の2の18 田中賢治まで

＊マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)  
滋賀県側から鈴鹿の樹林の尾根を元越谷林道からたどりませ。正確な地図がキーポイントになります。小雨決行

花巡り山行30

関東・新潟

高尾山と角田山・横曽山

期日 4月5日(休夜)8日(出)

集合 (5日) JRR大塚駅23時05分(ムーンライトながら乗車)

コース (6日)(電車) 東京(電車) 高尾駅(バス) 日影-横曽山-城山-高尾山-高尾駅(電車) 新宿駅(ムーンライトえちこ)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
ややロングコースになりますが、展望と春の花が楽しめます。雨天中止

大峰・百員岳から吉野山 (一般向き)  
期日 4月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄下市口駅9時15分  
コース 下市口駅(タクシー) 鳳閣寺-百員岳-西行庵-青根ヶ峰-奥千本-下千本-吉野駅(解散18時)

費用 約3400円(阿部野橋起点・タクシー含む)  
地図 2万5千-吉野山・新子・中声  
係 昭文社「大峰山脈」  
○西上利和 ○東山澄夫  
○前川和博子

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
鳳閣寺から理源大師ゆかりの百員岳と吉野山最高峰青根ヶ峰を登り、千本板の名所を訪れます。小雨決行

駅起立

地図 2万5千 御所  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで

春の草花と触れ合い、自然研究  
路をたどる。府県境随一の展望を  
楽しむ葛城高原を歩く。雨天中止

鈴鹿を歩く238  
高畑・猿ヶ山・高取山  
(やや健脚向き)

期日 4月16日(日) 日帰り  
集合 河内探検寺院南広場8時30分  
コース 寺院広場―中村―高畑―猿ヶ山―高取山―八谷―寺院広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

河内線の中村から北に突上げて  
いる尾根に高畑と猿ヶ山があるが

全然知られていない。カレンフェ  
ルトの岩壁を登るとゆつたりと広  
がる樹林がどこまでも続き、貴重  
な植物も見られ、鈴鹿の山の良さを  
凝縮した感じだ。雨天中止

台高  
神之谷から柏原辻・白髪岳南尾  
根 (健脚向き)

期日 4月18日(火) 日帰り  
集合 近鉄橋原駅8時00分/神  
之谷東谷出合9時00分  
コース 東谷出合―神之谷林道―  
柏原辻北西尾根―白髪岳  
南尾根―東谷(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千 大和柏木  
申込み ◎田中賢治○簡暲くみ子  
〒51810626  
名張市桔梗が丘6の2の  
18 田中賢治まで

係 \*定員10名  
\*マイカー山行(5名ま  
で乗合可能。希望者は  
その旨明記ください)

神之谷川の深奥部、ブナの巨木  
が茂る柏原辻を目指します。下り  
は一般登山コースですが、急坂が  
続きます。小雨決行

火曜ハイク20  
愛宕山シリーズ11  
長坂道・パノラマコースから大  
杉谷へ (一般向き)

期日 4月18日(火) 日帰り  
集合 清滝バス停9時00分  
コース 清滝―落合―長坂道―ツ  
ツジ尾根―旧ケーブル駅  
舎―パノラマコース―大  
杉谷―清滝(解散15時30  
分頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千 京都西北部  
申込み ◎仲谷礼司 ○沖 伸  
〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

今回は長坂道とパノラマコース  
をメインに歩きます。雨天中止

花巡り山行31  
京都西山・小塩山(一般向き)  
期日 4月20日(日) 日帰り  
集合 阪急桂駅東口8時30分発  
の亀岡行きバスに乗車  
コース 桂駅(バス) 奈良西口―  
林道終点―グラウンド―  
カタクリ谷―大塚山―三  
の谷―ドコモ前―一の谷  
―谷分岐―鶴の子林道終

点―峠西口(バス) 桂駅  
(解散)  
費用 約800円(バス代)  
地図 2万5千 京都西南部  
係 ◎田中 明  
申込み HPからメールのみ受付  
http://hana04.hp.  
infoseek.co.jp  
\*定員10名

見事なカタクリ群生地五ヶ所を  
見て廻り、白花カタクリにも出会  
いたいですね。雨天中止

自然観察山行205  
西上州・妙義山と物語山  
(中級向き)  
期日 4月21日(金)夜23日(日)  
前後宛1泊2日  
集合 ◎21日 J R 岐阜駅22時  
00分  
コース <21日> 岐阜駅(バス)  
<22日> (バス) 妙義神  
社―本読みの僧―あずま  
や―第四石門―大砲岩―  
第四石門―第一石門―第  
一石門―石門入口―さく  
らの里遊歩道―中ノ居駐  
車場(バス) 松井田町園  
民宿舎(泊)  
<23日> 国民宿舎(バス)

サン・スポーツランド駐  
車場―登山口―コルー物  
語山―コルー登山口(バ  
ス) 岐阜駅(解散)  
\*帰路に浴食します。

費用 約41000円(岐阜駅  
からバス・宿泊代等)  
地図 昭文社「西上州」  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村南町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
\*2月27日まで

昨年雨で断念した表妙義中間道  
を歩き、名前がきれいな物語山へ  
登ります。雨天決行

奥美濃・五蛇池山(中級向き)  
期日 4月22日(日) 日帰り  
集合 揖斐川町広瀬旧坂内村役  
場前8時30分  
コース 役場(車) 大谷川ニシマ  
タ谷出合―旧林道終点―  
トウゲノ谷―五蛇池峠―  
五蛇池山―トウゲノ谷―  
旧林道終点―ニシマタ谷  
出合(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千 美濃広瀬

係 ◎金谷 昭 ○磯部 純  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

昨年10月に雨で中止になったコー  
スに再挑戦。五蛇池の新緑を楽し  
みます。雨天中止

展望の山15  
湖北・竹生島から山門水源  
(初級向き)

期日 4月22日(日) 日帰り  
集合 J R 関ヶ原駅8時30分/  
J R 木之本駅9時10分  
コース 各集合駅(車) 飯浦(遊  
覧船) 竹生島(遊覧船)  
飯浦(車) 海津大崎(車)  
山門水源(車) 各集合駅  
(解散)

費用 交通費各自(遊覧船込み  
車代3000円)  
地図 2万5千 竹生島  
申込み ◎山田明男  
〒50310535  
海津市南藤野村松山64の19  
山田明男まで  
\*定員15名程度  
\*集合駅を明記ください  
竹生島の三角点を見てから海津

大崎の桜を見て、山門水源を訪ね  
ます。雨天決行

三重の山85  
南伊勢・若山(中級向き)  
期日 4月22日(日) 日帰り  
集合 伊勢自動車道津島インター  
下車正面のコンビニ9時  
30分

コース インター前コンビニ(車)  
能賀峠―旧峠―尾根―  
展望地―若山―展望地―  
尾根―旧峠―能見坂峠  
(車) インター前コンビ  
ニ(解散17時頃)

費用 1500円  
地図 2万5千 五ヶ所浦・相  
賀浦  
係 ◎稲垣逸夫  
申込み 〒51910311  
鈴鹿市大久保町2065  
稲垣逸夫まで  
\*マイカー山行

標高661・4ヶ所、南尾町にあ  
る遠い山です。雨天決行

比良を歩く48  
蓬萊山から鳥谷山(中級向き)  
期日 4月23日(日) 日帰り  
集合 J R 志賀駅朝江若バスの

りば8時50分  
志賀駅(バス) びわ湖パ  
レイ前( Gondola ) 打見  
山―笹平―蓬萊山―白谷  
平―社倉―木戸峠―比良  
岳―鳥谷山―荒川峠―南  
比良峠―深谷道―堂瀬小  
屋―比良駅(解散17時頃)  
\*歩行6時間

費用 約2500円(合宿から)  
地図 2万5千 比良山  
昭文社「比良山系」  
係 ◎桑 康夫  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

深谷道は荒れ道です。状況によ  
っては、荒川峠―大岩谷道に変更し  
ます。雨天中止

青生定産観察2  
京都大学青生研究林(中級向き)  
期日 4月23日(日) 日帰り  
集合 J R 関ヶ原駅7時15分/  
J R 近江今津駅8時10分  
道の駅朽木本陣9時00  
分

コース 各集合駅(車) 生杉休憩  
所―三國峠―野田畑峠―  
シンコーポリー杉原坂―上谷

―地蔵峠―生杉休憩所  
(車) 各集合(車) 野鹿  
費用 交通費各自(車代) 1500円・10000円  
地図 2万5千・古屋  
係 ◎山田明男  
申込み 〒50310535  
海津市南瀬町松山24の19  
山田明男まで  
\*定員15名程度

春の花も咲き出しているでしょう、何が見られるのか。雨天決行  
北山ちよつと歩き77  
頭中山と野鹿の滝(一般向き)  
期日 4月26日(日) 日帰り  
集合 J R京都駅八条口団体バスのりば7時20分  
コース 京都駅(バス) 福居―頭中山―野鹿の滝―野鹿林道―納田終(バス) 京都駅(解放18時頃)  
費用 約3000円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千・口坂本  
係 ◎呉山繁三  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

若丹園境の頭中山へ登り、ブナ林の青葉と野鹿の滝を見ながら歩きます(今まで雨天中止になり、今回で三度目の挑戦)。雨天中止  
平日ふれあいハイク58  
京都北山・天ヶ森から天ヶ岳(一般向き)  
期日 4月27日(日) 日帰り  
集合 京都地下鉄国際会館駅京都市バス乗り場8時20分発  
小出石行きに乘車  
コース 京都国際会館(バス) 小出石―天ヶ森―百井―天ヶ岳―シヤクナゲ尾根―小出石(バス) 京都国際会館(解放17時15分頃)  
費用 約1000円  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎寺井恒夫  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
小出石から天ヶ森・天ヶ岳へと一廻りします。雨天中止

年事業として開設された中園山地特有の1000mを超える高原状の森林公園。山の家は自然、バスを降りてすぐです。雨天決行  
四国宇和島の山  
篠山・三本杭・鬼ヶ城山(一般向き)  
期日 4月29日(祝) 5月3日(祝) 前後発3泊4日  
集合 (29日) J R新大阪駅正面口1階玄関22時00分  
コース (29日) 新大阪(バス) (30日) (バス) 篠山神社―篠山―篠山神社(バス) 滝床溪谷(泊) (1日) 万年橋―御祝山―三本杭―奥千畳―万年橋(バス) 宇和島(泊) (2日) 宿(バス) 登山口―四本松―鹿のコーリ―鬼ヶ城山―八面山―鹿のコーリ―登山口(バス) 宇和島(泊) (3日) 宇和島(バス) 新大阪駅(解放20時頃)  
費用 約7000円(バス・宿泊代等)  
地図 2万5千・楠山・松丸・宇和島

8時00分  
新大阪駅(バス) 鞍掛トネル登山口―鞍掛峠―焼尾山―三國岳―登山口(バス) 彦根橋菜湯(バス) 新大阪駅(解放)  
費用 約4000円(バス代)  
地図 2万5千・藤立  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで  
\*定員25名(全員に懇)  
イワカガミやイワウチワが群生する焼尾山に立ち寄り、カタクリの道を三國岳へ登る。雨天中止  
自然観察山行206  
美濃・舟伏山(一般向き)  
期日 4月29日(祝) 日帰り  
集合 J R大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス) あいの森駐車場―さくら峠―みのわ平―舟伏山―小舟伏―あいの森駐車場(バス) 大垣駅(解放)  
\*湯路に入浴します。  
費用 約4000円(大垣駅からバス代等)  
地図 2万5千・谷合

◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
恒例の春の花満開の舟伏山フラワートレッキングです。小雨決行  
湖北・カナ山と夜叉ヶ峠  
(中級向き)  
期日 4月29日(祝) 日帰り  
集合 J R京都駅八条口団体バスのりば7時40分  
コース 京都駅(バス) 近江高山―林道―樫合橋―夜叉ヶ峠池―カナ山(往路) 近江高山(バス) 京都駅(解放18時30分頃)  
費用 約3000円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千・近江川合・虎御前山  
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎呉比呂美  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員22名  
山中にひっそりとある夜叉ヶ峠池を訪ね、カナ山まで足をのばし

登山山荘―ドンドン山―マトネ―金北山―姫ヶ沢登山口(バス) 宿(泊) (5日) 宿(バス) アオネバ登山口―アオネバ溪谷―十字路―ドンドン山―ドンドン山荘(バス) 西津港(船) 新瀬港(バス) 米原駅(バス) 岐阜駅(解放)  
\*湯路に浴食します。  
\*米原駅には20時頃到着予定。  
費用 約57000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)  
地図 2万5千・金北山・西津港  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
最後の大佐渡山行です。3日間とも大佐渡山脈に張り付いて、佐渡の花を満喫します。雨天決行  
テント泊山行  
台高・明神平から池木屋山(やや健脚向き)

ます。雨天中止

岡山鳥取県境・毛無山  
(中級向き)  
期日 4月29日(祝) 30日(回) 1泊2日  
集合 (29日) J R西明石駅西出口7時25分  
コース (29日) 西明石駅(バス) 毛無山の家―毛無山―俣野越―毛無山の家(自炊泊)  
(30日) 毛無山の家(バス) 岡山県森林公園・千軒平または残雪峰―大山夏山道(バス) J R西明石駅(解放19時頃)  
費用 約15000円(バス・宿泊代等)  
地図 2万5千・新庄・土佐原・下殿治屋・伯耆大山  
係 ◎古賀慶一 ◎岡田昇  
申込み 〒67510112  
加古川市平岡町山之下684の33・17A03  
古賀慶一まで  
\*定員15名(全員に限る)  
\*3月10日まで

この季節、毛無山はどんな表情だろう。岡山県森林公園は明治百

自然観察山行207  
佐渡  
大佐渡山脈(金剛山・ドンドン山・金北山) 縦走とアオネバ溪谷  
期日 5月2日(祝) 5日(祝) 前後発2泊3日  
集合 (2日) J R岐阜駅22時00分  
コース (2日) 岐阜駅(バス) (3日) (バス) 佐渡汽船新瀬ターミナル(船) 西津港(バス) 白瀬登山口―金剛山―ドンドン山―ドンドン山荘(バス) 宿(泊) (4日) 宿(バス) ドン

登山山荘―ドンドン山―マトネ―金北山―姫ヶ沢登山口(バス) 宿(泊) (5日) 宿(バス) アオネバ登山口―アオネバ溪谷―十字路―ドンドン山―ドンドン山荘(バス) 西津港(船) 新瀬港(バス) 米原駅(バス) 岐阜駅(解放)  
\*湯路に浴食します。  
\*米原駅には20時頃到着予定。  
費用 約57000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)  
地図 2万5千・金北山・西津港  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
最後の大佐渡山行です。3日間とも大佐渡山脈に張り付いて、佐渡の花を満喫します。雨天決行  
テント泊山行  
台高・明神平から池木屋山(やや健脚向き)

登山山荘―ドンドン山―マトネ―金北山―姫ヶ沢登山口(バス) 宿(泊) (5日) 宿(バス) アオネバ登山口―アオネバ溪谷―十字路―ドンドン山―ドンドン山荘(バス) 西津港(船) 新瀬港(バス) 米原駅(バス) 岐阜駅(解放)  
\*湯路に浴食します。  
\*米原駅には20時頃到着予定。  
費用 約57000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)  
地図 2万5千・金北山・西津港  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
最後の大佐渡山行です。3日間とも大佐渡山脈に張り付いて、佐渡の花を満喫します。雨天決行  
テント泊山行  
台高・明神平から池木屋山(やや健脚向き)



期日 5月3日(祝)〜6日(休)  
3泊4日

集合 (3日) 近鉄橋原駅8時30分

コース (3日) 橋原駅(タクシ) 高見大崎 雲ヶ瀬山 伊勢江山 国見山 明神平(泊)

(4日) 明神平 明神岳 松原峠(往復) 一世ヶ峰 千石山 奥ノ平谷 源頭キャンプ地(泊)

(5日) キャンプ地 赤嵐山 霜降山 池木屋山 (往路) キャンプ地(泊)

(6日) キャンプ地 明神岳 明神平 大又(バス) 橋原駅(解散18時頃)

費用 約6000円(大飯を多量に含む)

地図 昭文社「大台ヶ原」

係 村田智俊 ○安倉正勝 ○奥比呂俊

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

連休の4日間、台高山中の自然にたっぷりつかります。重荷で歩くコースはゆっくりで、池木屋山へは軽荷で往復します。テント泊

の装備と4日間の食料持参ください。雨天決行(コース変更あり)

海外特別山行 中国・天山山脈水ゴタ峰展望と敦煌8日間

期日 6月15日(休)〜22日(休) 7泊8日

集合 関西国際空港午前(予定) コース 関空 北沢 丸尾 湖群(泊) シャンジョ ン谷 ハイキング 往復(泊) ウルムチ 観光(夜行寝台列車) 鳴沙山 ハイキング 玉西関 西安(兵馬俑地観光(泊) 関空

費用 29万8千円(予定) 問い合わせ 申し込み

〒536-0008 大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで ☎06(6933)4125

シルクロードのハイライト天山山脈の麓の谷を歩き、包(パオ)に2泊します。敦煌敦煌の壁画や西安の兵馬俑などを観光します。

新ハイキング関西支部合同。\*旅行取扱いはアルパイン・ツアー(06-6444) 3033 \*添乗は乾あゆみさんの予定。

海外特別山行 スイスアルプス満足ハイキング9日間(初級向き)

期日 9月12日(休)〜20日(休) 行程 関空発着、バンコク経由 スイスでは、ヴァリス山 群衆ハイキング・マツ ターホルン北壁展望ハイキング・エンシネン湖ハイキング・ユングフラウ 三山展望ハイキング・パツ フアルプゼー湖ハイキングの5回、満足ハイキング

費用 37万5千円 問い合わせ 申し込み

〒914-0076 敦賀市元町14の29 高島伸浩まで ☎0770(23)2443

その他 つるが山楽会と合間 ツアーリーダー同行 最少旅行15名

山行報告 (11・12月号) 新ハイキングクラブ誌

九州中南部の山 霧島連山・市房山・白髪岳

11月2日(休)〜6日(休)朝 4泊5日(船中2泊含む) (2日) (集合) 大阪南港かもめ フェリーターミナル19:00〜30 (船中泊)

(3日) くもりのち晴(フェリー) 宮崎港8:15〜20(バス) 不動池・硫黄岳登山口9:55〜10:00 三合目10:45〜50 韓国岳11:40 (集合) 12:15 韓国岳避難小屋 12:55〜13:00 大波池休憩所13:55〜14:00 大波池登山口14:25

(4日) 晴れ 湯山温泉7:45〜8:00 市房神社登山口8:00 (バス) 市房神社(四合目) 8:30〜15 市房神社(四合目) 8:30〜35 馬ノ背(六合目) 9:30〜35 一七合目10:00〜九合目10:50 市房山11:05 (集合) 12:30〜六合目13:40 市房神社14:25〜30 市房登山口15:05 市房キャン

(泊) (6日) くもりのち雨 山荘6:45 (車) 杉谷林道登山口6:50 55 高屋山8:10〜20 小津権現山9:15 高屋山10:10〜20 登山口11:05 (車) 大野温泉12:30 (入浴) 13:15 (車) 道の駅(福部の里) 13:40 (集合) 14:50 (車) 大垣駅15:30 (解散) 予定を変更、晴天の土曜日にしんどい花房山に登った。小津権現山では途中から雨になったが、紅葉に身を染めて歩いた。かの今西錦司が奥美濃山行時に常宿とした月夜谷山荘で熊鷹に舌鼓を打ち、柵欄を崩して語り合った。

(参加者) 川島勝美 森 美香子 平田輝美 ○鳥居信吾 (計5名) ◎警覺守康

鳥取・鷲峰山 (中国自然歩道9) 11月6日(日) ◎古賀慶一 \*雨天のため中止しました。

蓬萊山から鳥谷山 (比良を歩く45) 11月6日(日) ◎泰 康夫 \*雨天のため中止しました。

ア場15:10〜30(バス) 湯山温泉 15:45 (泊)

(5日) 晴れのちくもり 湯山温泉7:35(バス) 湯道林道登山口8:40〜50 猪ノ子伏林道登山口10:10〜25 猪ノ子伏(二合目) 10:45〜P137411・25〜30 三池神社11:45 白髪岳12:00 (集合) 12:40 P137413・25〜35 猪ノ子伏13:50 登山口14:05 湯道林道・猪ノ子伏林道分岐(バス) 人吉温泉元湯15:40 (入浴) 16:10(バス) 宮崎港18:30〜19:10 (船中泊)

(6日) (フェリー) 大阪南港7:20 (解散)

(3日) ガスで眺望の無い韓国岳は、昼食もそこに紅葉の盛りを見ながら大波池へと下山した。

(4日) 巨大杉が並ぶ市房神社の参道を登る。市房山は人吉盆地を含め360度の眺望。縦走路は昨年の台風で二ヶ所が崩落しているためヒストンに変更。

(5日) 紅葉を眺めブナの倒木を抱きながらの稜線歩きであった。白髪岳山頂は晴れていたが、周りの山々の眺望は雲に邪魔されてしまった。ブナ巨木が多くある反面、根こそぎ倒れた巨木も多かった。

(参加者) 朝倉松雄 森本淳子 南 利憲 船越利明 船越みよ子 宮本真幸 宮本悦子 武村千鶴 石川 敏 森 瑞代 原 文字 松村雅子 安倉正勝 岡田薫彦 仲谷礼司 吉植 清 小川富子 筒井克治 ○加藤元彦 (計20名) ◎狩野東彦

北摂・羽東山 (ファミリーハイク70) 11月2日(休) 晴れ (集合) JR三田駅10:10 (バス) 登下10:35 登下寺10:45 六丁峠11:05 10 羽東山11:25 35 500 峰分岐12:00 木器住宅地分岐12:20 伊丹市立野外活動センター12:40 (パーベキュー) 14:50 (解散)

六丁峠から大岩ヶ岳、羽東山から有馬富士と、青空の下で北摂の山々が美しかった。

(参加者) 眞田久子 道草きわみ 川保留子 川上大聖 本篠幸夫 山藤 隆 木村 豊 松井明志 村上善子 木間昭忠 中澤ちよ子 加藤浩子 岡本佳子 田中三恵子 富田満子 渡部和美 田所真直子 兼田幸子 青木一雄 砂原重美子 古川幸子 小林博子 岩城豊子

秋葉正人 ○西條良彦 (計26名) ◎木村太郎

比較 八王子山から三元岳 (集合) JR比較山坂本駅9:30 10:10 日吉大社9:55 八王子山 10:25 30 林道出合10:50 三差路11:05 三石岳11:15 (集合) 12:00 元三三館堂12:40 50 一定光院13:00 ドライブウェイ展望台13:10 上御木14:05 雄琴駅14:40 (解散) 日吉大社や元三三館堂では見事な紅葉が楽しめた。山麓同定の練習をしながら、今年初の地蔵読み山行を終えた。

(参加者) 宮下淳一 前田栄三 山岸勝雄 吉野栄子 岩本いすゞ 小林 修 ◎塚元一彦 (計7名) 奥美濃・小津権現山と花房山 (自然観察山行1990) 11月5日(日)〜6日(日) 1泊2日 (5日) 晴れ (集合) JR大垣駅9:00 (車) 東前の谷登山口10:05 20 山頂西の肩13:00 花房山13:10 (集合) 13:55 登山口16:05 (車) 月夜谷山荘17:20

奥の細谷から雨を岳

(鈴鹿を歩く227)

11月6日(日) 小雨  
(集合) 藤切谷旧林道入口8・30  
―林道9・30 奥の細谷分岐10・  
00―サワグルミ巨木10・40―源流  
11・30(雨のため引き返す)―サ  
ワグルミ巨木11・50(朝食) 13・  
10―松地蔵14・10―広場15・00  
(解散)

紅葉を楽しみ奥の細谷に入ると  
一変した。秘境的樹林はまるで祭  
りのように紅葉の絨毯を敷き、赤・  
黄色の炎が燃え上がって一年の終  
わりを告げていた。突風で紅葉の  
嵐のなかを傘をさして行くと、源  
流は冬枯れの樹林。引き返して傘  
のように茂げるサワグルミの巨木  
の下で焚火を囲んで昼食。

(参加者) 一芝義雄 一芝義知子  
櫻田勝利 小林 修 網本美恵子  
谷 守 神野孝允 井口俊介  
今井武司 ○後藤康幸  
○山田景三 ○石野 明(計12名)

朽木・百里岳(展望の山10)

11月6日(日) 小雨

(集合) 道の駅「朽木本陣」9・  
00(車) 小入谷大倉林道入口9・  
45―コモンバの滝10・25―県境後

線11・10―シチクレ峠11・30―百  
里新道―登山口12・30―駐車地12・  
45(朝食) 13・45(車) 朽木温泉  
15・30(車) 近江津駅16・20  
(解散)

朝から雨で、新ルートを登った  
が、根尾尾根は風も強く百里新道  
をくだった。コモンバの滝の西横  
の滝には名前がまた無いと地元  
の人が言われていた。

(参加者) 馬場祥子 中澤照司博  
伊藤 明 伊藤紀子 長坂佐知子  
中神恵子 佐藤文枝 光川一美子  
竹内正子 林 正義 佐古田文字  
内田康夫 笹岡正威 今井みよ子  
堀江房隆 北村 稔 山田砂子  
○山田明男 (計18名)

京都北山・鎌倉山から峰床山

(平日ふれあいハイク55)

11月8日(日) 晴れ  
(集合) 京阪出町駅7・40(バ  
ス) 坊村8・30―45―ぶな平9・  
40―鎌倉山10・30―40―オグロ坂  
峠11・20―中村東越14・15―25―中  
村学校前16・05(バス) 出町駅  
17・00(バス) 京都駅17・30(解  
散)

鎌倉山からオグロ坂への尾根歩

美濃・小島山からムネ山

(自然観察山行191)

11月12日(日) ◎賢見守康  
\*リーダーの都合で中止しまし  
た。

野見ヶ岳(武生市)  
11月12日(日) ◎高島伸浩  
\*都合で中止しました。

醍醐幸治

天下峰から喜嶺山・高尾山  
11月12日(日) くもりのち晴れ  
(集合) 京阪バス日野薬院駅8・

40―50―方丈石8・55―供水塔石  
仏広場9・32―天下峰9・57―長  
坂峠10・22―山出峰道取付10・  
50―送電柱11・30(朝食) 12・15  
―葛城ダムサイト12・45―葛城山  
13・05―林道ゲート13・30―高尾  
山14・20―桐尾山展望台14・30―  
森林公園入口14・50―天ヶ瀬ダム  
15・10―宇治川吊橋広場15・43  
(解散)―J.R. 京阪宇治駅  
出発時の曇天も最終の桐尾山展  
望台では快晴となり、展望と紅葉  
を楽しんだ。

(参加者) 岩田育士 中嶋日出男  
木村 豊 金森節子 村田はる江  
武村千鶴 吉藤孝次 佐古田文字  
大川直澄 若林文夫 松上美代子  
前田初雄 山岸隆 林 久美子  
富田清子 林 信男 光川一美子  
十合 晃 加藤剛計 和田直樹  
岩本彩子 萩野暢子 船本裕巳子  
鶴尾健治 山口喜弘 加納由紀子  
石川 要 石原君子 木村太郎  
竹田義英 平 幸子 中川英子  
神野孝允 呉山三 藤井むつみ  
安良陽子 川上久堅 小河美奈子  
小松志信 ○井上由紀晴  
○沖 伸 ○谷 守 (計46名)

台高・赤ソレ山から馬駐ヶ場

(鈴鹿山行14)

11月12日(日) しぐれのち晴れ  
(集合) 波瀬山林舎前8・00(車)  
木樨林道―地蔵谷合入9・00―赤  
ソレ山10・30―馬駐ヶ場11・00  
(朝食) 12・00―北尾根―木樨林  
道14・00(車) 山林舎前15・00  
(解散)

木枯やし吹く寒い日となり、山  
稜はガスで隠れてる。紅葉わずか  
となったガスの尾根も、馬駐ヶ場  
北尾根は不思議な尾根で、ガス下  
の木原谷は妖しいほどに残りの紅  
葉が美しかった。

(参加者) 丹羽泰彦 関早くみ子  
池田繁美 山村恭男 島居信吉  
高原秀彦 伊藤弘隆 金剛美和子  
○筒井克治 (計9名)

奥播磨・日名倉山と後山

(近畿百名山に登る第86回)

11月12日(日) 13日(日) 1泊2日  
(12日) 晴れ(集合) J.R. 新大  
阪駅7・40―50(バス) 日名倉神  
社10・40―50―林道終点11・30―  
奥海越12・00(朝食) 12・50―日  
名倉山13・40―14・00―ベルビ  
ル公園14・20―30(バス) ちくさ  
高原ロッジ15・20(泊)

(13日) 晴れ) ロッジ8・05―ス  
キー場下8・30―40―成野地9・  
00―ゲルガ峠越道 鍋ヶ谷溪谷分  
岐9・30―40―駒ノ尾山10・05―  
15―鍋ヶ谷山―船木山11・00―後  
山11・25(朝食) 12・10―おこし  
き山(宝成大馬場門前) 12・40  
―下山道探検道 13・10―石小屋  
13・50―後山登山口14・15―板馬  
見渡谷バス駐車場14・35―15・00  
(バス) 大阪駅17・50(解散)

2日間秋の好天に恵まれ、日名  
倉山からは明日線走する後山の山  
並が見え、後山からは日名倉山が  
見えた。おこしき山からの下山道  
を倒れかけた樹が寒々、尾根をまっ  
すぐくたつてしまし、気がついて  
引き返した。

(参加者) 佐野信江 安田文美江  
高松雅子 高橋健治 武部美奈子  
朝倉悠雄 小谷和子 大園加代子  
堀尾春樹 楠原良彦 野末あや子  
仲谷行司 川原洋子 佐々木樹子  
宮野祥子 宮野祥子 首藤育子  
林 弘毅 ○長比保美  
○安達正勝 ◎村田智俊(計21名)  
高見山地・下津町谷から高見山  
11月15日(日) くもりのち晴れ  
(集合) 近鉄桔梗が丘駅8・35

平野たかすみ温泉駐車場9・45―  
10・00―下津町谷合入10・05―第  
二支流合入10・40―下津町谷右岸  
尾根11・00―右岸尾根P769付  
近11・45(朝食) 12・35―高見山  
13・25―14・00―平野道―たかす  
み温泉駐車場15・35(解散・車)  
近鉄名張駅16・50

二つ目の支流を右に見送ったと  
ころで小滝の釜に行く手を阻まれ、  
右岸尾根(這い上がる。尾根上は  
はしかりとした切り開きがあり、  
展望も上々なのでこれをたどる。  
最後はササの急坂を四つん這いで  
登れば、高見から一つ東側のピー  
クへ出た。残念ながら頂上ヘドン  
ビシャリとはいかなかったが、頂  
上ではガスも切れて360度ほし  
いままの景観が楽しめた。

(参加者) 上西信子 湯浅みや子  
大村俊子 蛟田二郎 前川和佳子  
山藤勝美 池田繁美 佐古田文字  
井沢重正 ○筒早くみ子  
◎田中政治 (計11名)  
台高・小佐倉山から紅梅矢塚  
11月17日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄橋原駅9・10―15  
(バス) 賢家(バス) 大豆生10・  
13―小佐倉山11・45(朝食) 12・

10―紅梅矢塚13・45―14・00―大  
豆生16・25(バス) 橋原神宮前駅  
18・00(解散)  
杉林の尾根を頭木やぶを避け  
てひたすら歩く。山頂周辺は自然  
林が残り紅葉を楽しんだ。

(参加者) 吉藤孝次 木村 豊  
石田高敏 緒方由子 蛟田二郎  
森本幹雄 大村俊子 前川和佳子  
長沢佑美 岩佐 修 君塚郁子  
若林文夫 原 幸子 岩本彩子  
西 悠子 須藤浩子 栗橋君子  
西原隆夫 栗橋浩吉 栗橋君子  
藤本桂吉 朽名生右 小川富士雄  
志水明美 鶴尾健治 石倉真佐子  
岩村登子 水富律子 渡部和美  
東中次夫 西岡賢子 松田美智子  
松田和恵 山根弘美 和泉元一  
竹田勝美 山根邦枝 中尾美智子  
藤井益子 大内昭子 宮崎ちへ子  
○東山澄夫 ○井上由紀晴  
◎西上利和 (計44名)

飯高・高尾山(三重の山2)

11月19日(日) 晴れ

(集合) 飯高道の駅9・00(車)  
七日市バス停(車) 乳峰神社駐車  
9・30―林道 登山道入口―水場  
10・30―高尾山11・30(朝食) 12・  
05―屏風岩12・15―高尾山12・35

水場13・20―乳峰神社14・10  
 (車) 水原神社15・00(20) (車)  
 飯高道の駅15・30(16・20) (車)  
 局ヶ岳の無静庵16・30(泊)  
 \*翌日20日は局ヶ岳へ登った。  
 里道の峠がよかった。収穫作業  
 をしていた方が、お好きなだけと  
 言ってくれました。山もよかったです。  
 が、樹齢千年といわれる水原神社  
 の大クスもよかったです。道の駅の  
 「いたかの湯」の湯かげんもよ  
 かったです。もちろんこの後の酒の味  
 も格別であった。翌日は一部を除  
 き局ヶ岳の紅葉を満喫した。

(参加者) 永戸鉄治 岡本美千子  
 平龍一 平 幸子 石田真由美  
 山本雅子 川村政和 中森義信  
 林崎 功 高橋正人 尾崎英五  
 ◎船尾逸夫 (計12名)

美濃・滝谷山と野村山  
 (自然観察山行192)

11月19日(日) 晴れ  
 (集合) JR大垣駅9・00(バス)  
 花立峰9・45―大谷山10・25(バス)  
 滝谷山11・10(朝食) 12・10―  
 大谷山12・50―花立峰13・20―野  
 村山13・35―東屋13・50―14・20  
 ―花立峰14・25(バス) 道の駅  
 「織部の里」14・50(バス) 15・15(バス)

ス) 大野温泉15・35(入浴) 16・  
 30(バス) 大垣駅17・00(解散)  
 暖かかったが、風の通る稜線で  
 の体感温度は低かった。里山をゆっ  
 たりと歩き、里に下りて富有橋を  
 買った。  
 (参加者) 岩城豊子 荻野美紀恵  
 伊藤 直 伊藤和代 加納由紀子  
 川島勝美 朽木生石 森 美奈子  
 小松志信 堀田輝子 水谷陽子  
 宮西和子 ◎長尾一令 (計14名)

湖西・大谷山

11月20日(日) 晴れ  
 (集合) JR京都駅7・20(バス)  
 (バス) マキノビュックランド9・  
 15(30) 正殿院9・48(53) 休屋  
 地10・43(53) 百瀬川源流11・45  
 (朝食) 12・30(東境後継) 12・47  
 (大谷山) 13・00(14) 寒風山13・  
 43(54) マキノ高原15・25(40  
 (バス) 西大津駅17・45(解散)  
 切れ込んだ古道を落ち葉を踏み  
 ながら登り、百瀬川源流のフナ林  
 に感動した。琵琶湖・日本海の大  
 パノラマを楽しんだ。  
 (参加者) 和田純子 武部美美子  
 荻野暢子 村井寿和 竹内喜久子  
 松村穂子 渡部和美 中尾美智子

多賀久子 岩村登子 岩田育士  
 竹内正子 福井清之 岩崎盛司  
 井上恭子 上田正子 木村 豊  
 平田輝美 木本恭子 中川節子  
 崎山悦子 山根弘美 濱本和恵  
 福嶋 章 山口敬明 須藤美子  
 高橋壽治 栗岡克子 石倉真佐子  
 下村啓子 平田和子 山盛加奈子  
 稲本芳雄 青木一雄 藤井つづみ  
 小池一郎 小川明美 ◎磯野重治  
 ◎中西信行 ◎森脇貞義 (計40名)

雲仙山と西南尾根  
 (鈴鹿を歩く228)

11月20日(日) 晴れ  
 (集合) 寺院広場8・30(車) 今  
 畑8・45―笹峠9・45 近江原  
 台10・40―南雲仙東池11・00(雲  
 仙池) 雲仙山12・00(朝食) 12・  
 45―経塚山13・00(見晴台) 14・25  
 ―汗ふき峠15・00(今畑) 15・45  
 (解散)  
 南雲仙東池から谷にくだって登  
 り、雲仙池(新発見)、雲仙山  
 経塚山から尾根をお虎ヶ池へ。そ  
 りてヒン坂の旧道を員晴台にくだ  
 る。未踏のバリエーションルート  
 を存分に楽しんだ。  
 (参加者) 榎田勝利 武村千鶴  
 岩本彰子 吉岡 仁 葛瀬井 豊

宮野哲郎 宮野穂子 合井武司  
 三枝 信 一芝義雄 一芝美知子  
 川田洋子 森本 勝 森本淳子  
 小林 修 大西節郎 安藤正雄  
 細野敏也 神野孝允 小原 堅  
 ◎後藤康幸 ◎山田賢三  
 ◎岩野 明 (計23名)

ソノド(鈴鹿白山76)

11月20日(日) 晴れ  
 (集合) JR関ヶ原駅8・35(三  
 岐鉄道西野尻駅8・30(車) 時山  
 9・10(車) 藪谷林道入口9・15  
 ―高塚730(バス) 10・20―ソ  
 ノド手前鞍部10・45―ソノド11・  
 45(朝食) 12・45―藪谷林道13・  
 55―林道入口14・40(55)(解散)  
 紅葉にはちょうどよく、快晴に  
 も恵まれて1時間以上も続く二次  
 林を堪能した。  
 (参加者) 島田信吾 今井みよ子  
 池田繁美 宮村信夫 森 美香子  
 小林一世 吉田穂子 長坂佐知子  
 大石将美 佐藤文枝 生越重美子  
 服部 昭 若林文夫 山藤志保江  
 余谷 昭 若林久夫 伊藤重美子  
 東中次夫 吉藤孝次 中澤貞司博  
 西村文男 平塚明美 佐古田文子  
 北村つづみ 光川一美子  
 武藤由美子 山田妙子

◎高原芳彦 ◎山田明男 (計29名)

東山36峰・第1峰(第4峰  
 (火曜ハイク11)  
 11月22日(日) 晴れ  
 (集合) 飯高八瀬比叡山口駅9・  
 00―御陰神社9・15(45) 御生山  
 10・00(05) ケール駅11・30(バス)  
 40―大比叡12・10(朝食) 12・45  
 ケール駅13・05(15) 赤山14・  
 15(25) 赤山神社14・35(15) 00  
 一修学院15・10(15) 繁森神社15・  
 20(30)(解散)  
 東山36峰に挑戦開始。山も神社  
 仏閣も紅葉の真っ盛り。急な登り  
 の疲れも忘れさせてくれた。  
 (参加者) 西 悦子 中嶋日出男  
 多田陽子 堀江房齋 北村つづみ  
 森本幹雄 船越利明 小川富士雄  
 木下朝子 大林 進 光川一美子  
 塚本忠次 村本俊弘 中原真理子  
 下村啓子 岩本彰子 宮路ちへ子  
 吉藤孝次 山岸勝雄 加納由紀子  
 横江 進 加藤浩二 久保田玲子  
 志水明美 渡部和美 藤井つづみ  
 東中次夫 河内正治 秦 康夫  
 山野博文 山根弘美  
 石原君子 小栗大直 藤原泰彦  
 村井寿和 竹田善美 ◎青木一雄  
 ◎小松志信 ◎山藤勝美

◎沖 伸 ◎仲谷弘司 (計29名)

美作・泉山  
 (ファミリアハイク71)  
 11月24日(日) 晴れのちくもり  
 (集合) JR新大阪駅7・00(バス)  
 (バス) 笠置駅前地10・15(20) 登  
 山口10・30(反射板) 11・10  
 (15) 泉山11・45(朝食) 12・20  
 中央峰12・35(井水山) 13・00(10)  
 10(泉山) 13・50(14) 笠置峠  
 15・10(15) (バス) 奥津温泉湯宿  
 西15・30(入浴) 16・30(バス)  
 新大阪駅19・45(解散)  
 一等三角点泉山で山頂同定する。  
 冠雪した因幡の山も望めたが、伯  
 耆大山はかすんでいた。  
 (参加者) 上田久子 川上久堅  
 高松雅子 西 悦子 妹尾一正  
 武田元可 澤田高治 田中三恵子  
 栗栖崇吉 栗栖君子 藤原くに代  
 岩村登子 岩城豊子 河本美千子  
 松尾剛子 中谷孝子 成川みさお  
 上田直代 渡部和美 山中あさみ  
 東中次夫 北本 泰 石倉真佐子  
 本間昭恵 村上嘉子 濱本美和恵  
 岩本彰子 多田陽子 砂原重美子  
 木下朝子 須藤浩子 松上美代子  
 小田博子 藤村勝彦 村本俊弘  
 ◎松井明忠 ◎西條良彦

◎木村太郎 (計38名)

山梨・青雲山と藤井山  
 (自然観察山行193)  
 11月25日(日) 夜2日  
 前夜発1泊2日  
 (25日) (集合) JR岐阜駅23・  
 00(バス)  
 (26日) 晴れのちくもり (バス)  
 奥山温泉4・50(朝食休憩) 6・  
 35―東海自然歩道休憩ベンチ7・  
 30(40) 田代峠8・10(30) 標高  
 点8・50(青雲山) 10・05(朝食)  
 11・35(1つろぎ山) 11・40(細島  
 峠) 12・25(45) 林道出合13・50―  
 奥山温泉14・15(泊)  
 (27日) 晴れ 奥山温泉6・50―  
 奥山登山口7・10(渡り場の頭手  
 前) 7・50(8) 渡り場の頭8・  
 10(藤井山) 9・05(30) 太田  
 切10・30(1ツ森) 10・40(1ツ頭  
 11・05) 馬込登山口12・05(正行  
 寺) 12・15(35) (バス) なんぶの湯  
 12・45(入浴) 朝食 14・15(バス)  
 (バス) 岐阜駅18・10(解散)  
 両日とも晴れて、でっかい富士  
 山を眺めた。青雲山は急登に耐え  
 て山頂に至ると360度の大展望。  
 藤井山縦走後半の下りはやせ尾根  
 急坂の連続で、堂々たる独立峰縁

井山の凄さを思い出した。

(参加者) 池田繁美 市井ユリエ  
 石川 敏 上田悦子 荻野美紀恵  
 栗栖崇吉 栗栖君子 加納由紀子  
 鳥居信吾 前田悦子 砂原重美子  
 武藤由美子 佐々木三一代  
 森 美香子 ◎三井統一  
 ◎鷺見守康 (計16名)

紀泉・横尾山(花巡り山行24)  
 11月26日(日) 晴れ  
 (集合) 東北高速和泉中央駅8・  
 30(タクシー) 公園口8・55―山  
 麓観察9・55(施福寺) 10・45(55)  
 一蔵岩11・15(朝食) 12・05(横  
 尾山) 捨身ヶ岳 12・20(緑花ク  
 イズ) 12・35(ベンチ) 13・30(50  
 15) 5(13) 55(公園口) 14・20(15  
 00(タクシー) 和泉中央駅15・  
 25(解散)  
 お目当てのサツマイノモリの開  
 花には早すぎたが、少しだけ見ら  
 れた。珍しいキジョランは花後と  
 同名のいわれとなった。長い白髪と  
 ような果実も見つかった。カギカズ  
 ラ・ルミノキ・ホソバニセジユ  
 ズネノキなど、アカネ科の聞きな  
 れない樹木にも出会えた。  
 (参加者) 堀江房齋 道平さきわみ  
 上山正二 前田初雄 湯浅みや子

小松志信 村井寿和 村田はる江  
山縣勝美 山縣 隆 船本裕巳子  
本家邦子 橋田和恵 勝元益次郎  
奈良邦子 橋本裕子 下藤利恵  
○岩橋健司 ○西原辰夫  
◎田中 明 (計20名)

播磨・葛城山と千町ヶ峰  
11月26日(出)27日(回) 1泊2日  
(26日 晴れ)(集合) J.R.姫路  
駅9:00(バス)奥佐見9:50  
山田越10:35→滑床11:20→飯出  
寺跡11:40(昼食)12:20→葛城  
山12:30→葛城山13:45→二郡山14:  
00→10→西支奥環堤15:00→伊勢  
自然の里15:10(バス)福知溪谷  
休養センター(泊)

27日 晴れ)福知溪谷(バス)  
千町こぶしの村10:05→炭焼釜跡  
10:58→千町ヶ峰12:25(昼食)  
13:20→無敵小屋13:35→源流案  
内ホール13:55→赤木山源流モニュ  
メント14:40(バス)まほろばの  
湯(バス)姫路駅17:40(解散)  
狩猟期に入り鹿を射止たハンター  
と出会う。直下の飯出(ばさ)寺  
跡から葛城山頂上。コースどりに  
苦勞しながら三郡山を経て新しく  
開設された伊勢自然の里へ。27日、

夏は賑うこぶしの村を抜け、冬枯  
れ間近かの雑木林、人工林を行く。  
境界尾根のササ地を音流しながら  
頂上へ。帰路は設置間もない源流  
モニュメントを経由する。  
(参加者)眞田久子 河崎妙子  
岩城豊子 松尾麗子 島田亮子  
岡本佳子 小田潤子 船越みよ子  
中村静香 兼田幸子 岡田恵美子  
小林豊子 岩田育士 金谷 昭  
石田賢一 大和 絃 秋田楠郎  
中島 隆 石原順次 朝倉松雄  
岡田 昇 ◎須藤岡 輯(計22名)

貴船口から鞍馬山  
(北山ちよつと歩き72)  
11月30日(出) くもりのち晴れ  
(集合) 鞍馬出町駅8:30→40  
(電車) 貴船口駅10:30→奥の院  
大杉権現11:40(昼食)13:00→  
鞍馬寺本殿13:25(参拝・休憩)  
14:20→鞍馬山14:50(解散)  
今回の里山歩きは距離は短いが  
歴史の多い山だった。鞍馬山全山  
が見事な紅葉に彩られた。  
(参加者) 伊谷礼司 松上美代子  
本岡孝子 志水明美 佐々木輝子  
山岸勝雄 井上登美 井上由紀晴  
宮崎紀正 榎 照司 榎 美栄子  
市野博文 妹尾一正 岩本いすゞ

石原君子 磯部 純 原 みとえ  
長尾節子 和田龍樹 石田真由美  
金森節子 渡部和美 小河美奈子  
今村 悟 中尾博子 戸田サエミ  
中村英雄 栗岡克子 光川二葉子  
川上久堅 田中順子 砂原恵美子  
平 幸子 尾野正弘 林 弘毅  
小谷和子 入江武史 竹田蕨英  
◎金谷 昭 ◎本間 隆  
◎谷 守 ◎奥山盛三(計42名)

忘年ハイイク  
湖北・己高山(週末ハイイク70)  
12月3日(出) 雨のちくもり  
(集合) J.R.京都駅8:00→35  
(バス)己高山10:20→40→登山  
口11:05→六地藏11:50(昼食)  
12:35→谷コーン登山口13:05  
己高庵13:30(入浴・温泉)16:  
10(バス)京都駅18:00(解散)  
遅刻者が出て出発が遅れたうえ  
三合目から本格的な雪になり冷え  
込んだため、中間点の六地藏で昼  
食にし下山した。近江牛の鍋で忘  
年会をした。  
(参加者) 船越利明 船越みよ子  
宮本真幸 宮本悦子 竹内喜久子  
沖 伸 村井寿和 船本裕巳子  
馬籠忠男 伊谷礼司 若松朝子  
山縣勝美 山縣 隆 山本京子  
岩佐 修 山岸勝雄 ◎狩野東彦  
(計17名)

呉枯ノ峰(木之本町)  
12月3日(出) 雨のちみぞれ  
(集合) J.R.木之本駅9:10→25  
一沙信寺参拝・休養地10:10→呉  
枯ノ峰10:50→青山寺境内11:25  
(昼食)12:30→田上山14:00→  
木之本駅15:00(解散)  
一等三角点の呉枯ノ峰を通過。  
無住で着原道真ゆかりの青山寺で  
昼食。膝ヶ岳の戦いで岩のあった  
田上山を通過し木之本駅へ戻った。  
残り紅葉と初雪にも遭遇。  
(参加者) 橋原良彦 小原きぬ子  
木下朝子 春見重美 君塚節子  
山田明男 山田妙子 勝野登子  
石原君子 加藤順計 水谷陽子  
谷 守 竹越富美江  
◎高島伸浩 (計14名)

忘年山行  
猿登(鈴鹿白山77)  
12月4日(出) 雪  
(集合) J.R.関ヶ原駅8:35→三  
岐鉄道西野駅8:30(車)こえ  
ど9:10→20→猿登最高地点11:00  
猿登二角点11:10→こえど11:  
45(車)山口の忘年会会場12:10  
(忘年会)15:35(解散)  
初めて歩くルートで雪が降り、  
ガストで山頂表示を背が見通すハ  
ブニングで三角点に着くのが30分  
遅れたが、無事忘年会を終えた。  
(参加者) 鳥居信吾 森 美香子  
吉田輝子 佐藤文枝 長坂佐知子  
石川 静 成瀬中幸 成瀬みち子  
久米孝子 馬場裕子 伊藤恵美子  
西村文男 北村 稔 光川二葉子  
竹内比子 北村 稔 北村つねみ  
須藤浩子 沖 伸 武藤由美子  
朝又敏雄 笹岡広成 佐古田文字  
多湖節子 中神恵子 岡本美千子  
伊藤 明 伊藤七子 南 智恵子  
山田妙子 ◎高原芳彦  
◎山田明男 (計32名)

大垣駅16:30(解散) \*ロスタイ  
ムが多く参考にはならない。  
城ヶ峰は全体が掛交城の城跡と  
いう文化財。播降上人開基の一心  
寺を訪ね、雑木林の道を散策気分  
でゆっくり歩いた。  
(参加者) 岩城豊子 狩野美紀恵  
川島敬美 堀田輝子 森 美香子  
堀江房樹 宮西和子 ◎田中真雄  
◎賢見守康 (計9名)

京都北山・愛宕山  
(近鉄白山山に登る第87回)  
12月4日(出) くもり時々雪  
(集合) J.R.八木駅8:30(バス)  
越畑9:30→芦見峠10:00→地蔵  
山11:15→20→反町坂11:30→鞍  
部11:45(昼食)12:20→三角点  
12:40→愛宕神社12:50(休憩)  
13:20→七合目分岐13:45→こめ  
かい道合流点14:30→40→保津峡  
駅15:20→30(解散)  
雪が舞う風の強い日で昼食時も  
手がしびれる程寒い。愛宕神社で  
参拝休憩後、七合目からフジシ尾  
根を一気に保津峡へくだった。  
(参加者) 福岡 章 中嶋日出男  
板垣 栄 板垣和子 荒谷祐徳子  
川戸せつ 磯野重治 野末あや子  
長尾節子 井上孝子 武部美美子

小栗大直 志水明美 川北恵美子  
川上久堅 佐野信江 竹内喜久子  
山口喜弘 岩村登子 入江武史  
小谷和子 和田直樹 中川光郎  
妹尾一正 松井明忠 ◎安倉止勝  
◎長比裕美 ◎村田智俊(計23名)

高取山・向山・ハツ尾山  
(鈴鹿を歩く229)  
12月4日(出) くもり時々小雨  
(集合) 大滝神社8:30(車)高  
取山ふれあい公園入口8:40→パ  
ノラマコース登山口8:50→展望  
台9:55→高取山10:00→向山10:  
20→ハツ尾山11:25(昼食)12:  
30→観音坂分岐12:45→ハツ尾山  
林道13:20→ふれあい公園入口14:  
10(解散)  
鈴鹿主峰の初冠雪を仰ぎ、美し  
い錦秋の濡れ落ち葉を踏みしめな  
がらムラサキシキブを愛で、高取  
山、向山、ハツ尾山へと縦走した。  
すばらしいコースだが、天候が惜  
しまれた。  
(参加者) 池田繁美 武村千鶴  
岩本彩子 宮村信夫 奥野太一郎  
永谷鉄治 一芝義雄 一芝美知子  
杉山能久 小林 修 石田真由美  
◎後藤康幸 ◎山田盛三(計13名)

発電所9:20(車) 樽原谷合出合9:  
45→万蔵橋(明神堂登山口)11:  
05→ワサビ谷合出合11:45(昼食)  
12:08→ワサビ谷左岸尾根分岐12:  
15→尾根1100m付近(引返し  
点)13:20→35→万蔵橋14:40→  
樽原谷合出合15:35(解散・車) 樽  
原駅16:35  
千秋橋あたりから雨が湿った雪  
に変わり、吹きだまりでは膝くら  
いまで滑る。ワサビ谷合出合まで  
一方所道が崩壊していて、ブッシュ  
にスリリングを固定して通過。ワサ  
ビ谷は雪が深く、左岸尾根に転進  
尾根上の1100m付近で時間切  
れとなり、引き返した。  
(参加者) 多賀久子 湯浅みや子  
上西信子 大村俊子 佐古田文字  
上田久子 山縣勝美 池田繁美  
井沢重正 村本俊弘  
◎岡平くみ子 ◎田中賢治  
(計12名)

京都丹波・鬼ヶ城  
(ファミリーハイイク72)  
12月7日(出) ◎木村太郎  
\*雨天のため中止しました。  
鈴鹿・人寄りのコバで忘年会  
(鈴鹿遊山15)

美濃・城ヶ峰  
(自然観察山行194)  
12月3日(出) 晴れ一時雨  
(集合) J.R.大垣駅9:00(バス)  
三輪神社9:30→城ヶ台山9:50→  
城ヶ峰11:55(昼食)12:45→三  
輪神社14:20→30(バス) 大野温  
泉15:00(入浴)16:00(バス)

12月6日(出) 雪  
台高・木履谷川ワサビ谷から  
樽原駅・千秋峰  
(集合) 近鉄橋原駅8:10/青田

12月10日(日) 晴れ

(集合) 宮津淡谷駐車場9・00ー奥ノ谷ー上部ー飯10・00(忘年会)12・00ーイワクラ尾根ー水沢峠ー林道ー駐車場15・00(ミーティング解散)

スカイラインが雪で閉鎖され、宮津淡谷会場を変更した。奥ノ谷出口は一面の雪景色、天気晴朗なれど風強しの日で忘年会会場は上部二段。懇話しに尾根廻り、展望も良く新雪を楽しんだ。

(参加者) 高原芳彦 伊藤嘉久男 池田隆一 永戸鉄治 岡本美子子 吉田峰子 山田妙子 石田真由美 村田紀生 毛塚一雄 落合ひろ子 伊藤弘隆 丹羽泰彦 岡平くみ子 米倉 哲 吉川 洋 吉川和子 (計18名)

大立

(自然観察山行195)

12月10日(出) くもり  
(集合) JR大塚駅9・20(バス)久瀬トンネル北口10・20ー大立中継ートンネル北口11・20ー35(バス)創造の森11・50(飯集・昼食)13・20(バス)池田温泉13・45(入浴)14・30(バス)月夜谷山荘15・00(忘年会)17・25(バス)

大塚駅18・25(解散)

大立は積雪まじりの泥道で不鮮明なため撤退し、揖斐川町の「創造の森」を散策した。温泉で温まり、月夜谷山荘で忘年会。

(参加者) 石川 敏 市井ユリエ 伊藤 直 伊藤和代 荻野美紀恵 金森節子 朽名生石 北村つねみ 栗栖崇吉 栗栖若子 小崎由利子 田中善雄 長尾一令 中澤興司博 細田輝子 堀江房隆 武藤由美子 山形 明 若松朝子 森 美香子 佐々木三千代 ○三井社 (計23名)

完登記念山行

大峰・山上ヶ岳(福村ヶ岳)  
(近畿百名山に登る最終第88回)  
12月10日(出) 1泊2日  
(10日) 晴れ (集合) 近鉄下市口駅8・40ー50(タクシー) 清浄大橋10・00ー20(タクシー) レンダ谷道撤退13・00ー清浄大橋14・30ー洞川温泉宿15・30(Bコース) 山上ヶ岳14・00ー30ー清浄大橋17・00(車) 洞川温泉宿17・30(泊)

(11日) くもり 宿8・10ー法力峠9・40ー山上ヶ岳11・30(昼食) 12・00ー法力峠13・00ー福村ヶ岳

登山口14・00(解散) 洞川バス停14・20ー55(バス) 下市口駅へ山頂付近は50ー60cmの積雪、レング谷道をラッセルしたが時間切れのため撤退。参道にはトレースがあったり山上ヶ岳へ登れた。翌日の吉野への下山は取り止め、山上にまで樹氷見物に登った。宿では盛大に完登を祝い、百名山中、60山に参加登山された武部さんが最高だった。

(参加者) 上田久子 村田はる江 村井寿和 堀尻香織 佐々木輝子 小谷和子 澤田高治 石倉真佐子 橋原良彦 川島勝美 宮路ちへ子 川田洋子 緒方由子 宮路美美子 山縣勝美 山縣 隆 猪狩美枝子 首藤百子 南 利憲 野末あや子 本務英夫 中西 昭 中西和子 飯田夢子 白鳥中子 若林文夫 林 弘毅 林 信男 朝倉正雄 嶋田幸子 三野 旭 ○安倉止勝 ○長尾裕美 ○村田智俊(計37名)

愛宕山シリーズ7

大杉谷左岸道から八丁尾根  
12月13日(出) 晴れ  
(集合) 清流バス停9・00ー取付点9・40ー50ー大杉谷左岸道ー愛

宕山12・05(昼食) 12・55ー首無地蔵13・45ー50ー取付点14・00(八丁尾根) 八丁山14・50ー15・00ー梨の木林道出合15・25ー30ー清流バス停16・05(解散)  
この時期としてはめずらしく積雪があり山頂の道は凍て歩きにくかったが、晴天に恵まれて近隣の山々も眺められて楽しめた。  
(参加者) 森本幹雄 木村 豊 多田陽子 船越利明 木下朝子 大林 進 岩本彩子 佐々木輝子 吉原孝次 山岸勝雄 北村つねみ 塚本忠次 岩佐 修 藤野つるみ 志水明美 加藤元彦 岡田史二郎 磯部 純 竹田善英 小川富士雄 本間 隆 渡部和美 荒木光雄 後藤純子 和田直樹 本家洗子 中村英雄 川上久堅 林 弘毅 安良陽子 小松志信 石原君子 川島勝美 宮野直子 山盛加奈子 山縣勝美 山縣 隆 藤井つみ 市野博文 谷 守 砂原重美子 ○青木一雄 ○村井和朗 (計45名)

忘年会山行

室生・大平山から仏隆寺  
12月15日(出) 晴れ  
(集合) 近鉄橋原駅8・10ー20

道經由直江谷林道14・20 養老公園14・30(駐車場) 14・40(車) 養老駅15・30(解散)  
寒波でキャンセルが多く、14名での登山。雪は深く、そま道を歩き三ヶ所点も二つ見た。  
(参加者) 筒岡庄蔵 長坂佐知子 安藤ゆう 竹内正子 伊藤恵美子 朝倉裕雄 久米多子 成瀬ちち子 水谷陽子 池田繁美 山野志保江 林 正義 山田妙子 ○山田明男 (計14名)

忘年会

水無山(鈴鹿を歩く230)  
12月18日(出) 吹雪  
(集合) 国道477号藤盛王ダム広場9・00(車) グリル冒険の森9・10(忘年会) 16・00(解散)  
大寒波でマイナス0・4度の吹雪のなか20名が参加。水無山と専用ロッジは中止。グリル冒険の森の大広間を貸切って朝から忘年会。昼前には吹雪もやみ、雪の野鳥集落を1時間ほど散策した。  
(参加者) 武村千鶴 奥野太郎 宮野哲郎 一芝美雄 一芝美知子 磯部 純 神野孝允 北村つねみ 豊田勝利 岩本彩子 光川一英子 小林 修 谷 守 網木重直子

(バス) 自明8・24ー登山口8・50ー大平山10・40ー高峰山11・30(昼食) 12・00ー唐戸峠12・30ー仏隆寺12・40ー高井13・05ー18(バス) 橋原駅13・30(電車) 細橋駅ーパンブハウス15・00(忘年会) 17・00(解散)  
冬景色の尾根を歩く。残雪が、初冬の空気を醸し出していた。忘年会はよく食べよく飲み、大いに盛り上がった。  
(参加者) 大石吉彦 東久保勝彦 西原辰夫 原 幸子 桐 照子 若林文夫 渡部和美 木村 豊 西岡賢子 山根弘美 永原津子 竹田勝英 木村太郎 奥田則夫 成川みさお ○前川和佳子 ○東山澄夫 ○西上利和(計18名)

小辺路3  
①五百瀬から三浦峠  
②十津川から奥無越  
(紀伊山地の参詣道を歩く6)  
12月17日(出) 18日(出) 1泊2日  
(17日) 雪 (集合) 近鉄大和八木駅8・00(バス) 五百瀬三浦口10・50ー11・05ー杉巨木群11・40ー三浦峠手前12・50(昼食) 13・20ー三浦峠東屋13・40ー50ー観音堂15・20ー西中16・00ー川合

神社16・15ー20(バス) 十津川温泉(山水)(泊)  
(18日) 晴れ時々くもり 宿8・00(バス) 尾尾柳本宿8・10ー天水田跡9・40ー50ー観音堂10・30ー40ー果無峠11・20ー30ー13番石仏広場12・15(昼食) 12・35ー七色分岐13・10ー八木尾14・00ー25(バス) なんば駅18・10(解散)  
三浦峠は30ー40cm、果無峠は10cmの積雪があり、真っ白の新雪にトレースを付けての2日間の古道歩きは最高で楽しかった。  
(参加者) 白鳥中子 大岡加代子 高橋舞治 佐野信江 野末あや子 中川光郎 和田輝子 小河美奈子 馬瀬忠男 岩鶴健司 河原美代子 岡崎知子 山高義治 山高多恵子 中川節子 宮野敏子 村田はる江 仲谷礼司 小泉大直 中嶋日出男 津井洋子 伊東チナ子 ○長尾裕美 ○安倉止勝 ○村田智俊 (計25名)

紀北・鏡石山 (ファミリーハイク73)  
12月18日(出) くもり時々晴れ  
(集合) JR海南駅9・10(バス) 栗崎谷9・20ー神林寺9・30ー40ー牡牛の滝10・05ー10ーくの子滝

杉山龍久 小林 実 堀 寿江  
○山田景三 ○後藤康幸  
◎京野 明 (計20名)

忘年山行  
湖西・阿弥陀山  
12月18日(日) ◎森脇貞義  
\*大雪のため中止しました。

◎集  
北尾根から園見山・紅ヶ岳  
12月20日(日) 晴れ

(集合) 近鉄栢根が丘駅9・20  
(重) 雨知川林道終点(霞見)10・  
15 P818付近11・30 園見山  
12・00 紅ヶ岳12・10 霞見13・  
30 白雲寺中雨知川林道終点14・  
45 (重) 栢根が丘駅15・25(解散)  
昨日までとうていかわった様や  
かな日差しに恵まれ、まばらに雪  
が残る北尾根をたどる。園見山か  
ら紅ヶ岳へ足をのびし、網奉行様  
の言いつけで園見社へ、下山は白  
く凍った白井谷をくだる。  
(参加者) 緒方勇子 前川和佳子  
大村俊子 越田二郎 山縣勝美  
上西信子 池田繁美 佐古田文子  
森本幹雄 小林 修 湯浅みや子  
◎田中賢治 (計12名)

嵯峨嵐山・鳥居大文字山

(北山ちよっと歩き)

12月21日(日) 晴れのち曇り  
(集合) JR嵯峨嵐山駅9・00  
10 公園9・40 嵯峨大宮10・  
10 鳥居大文字11・10 霞見11・  
40 1 尊院12・20 小倉山中腹見  
晴方12・40 50 天龍寺13・40  
50(解散)

嵯峨大宮・鳥居大文字、小倉  
山中腹からの京都市街や嵯峨野は  
美しい。嵐山公園で25名での野外  
忘年会は盛り上がりだ。

(参加者) 富田満子 中嶋日出男  
秦 康夫 井上繁美 井上由紀晴  
塚本忠次 若林和子 志木明美  
木内龍文 磯部 純 宮崎紀正  
後藤勝子 中村英雄 高木忠夫  
松尾陽子 岩本彰子 清 紀嘉  
妹尾正 横江進 宮村孝次郎  
和田直樹 西尾三子 兼田幸子  
中尾博子 石原君子 藤井むつみ  
中川光郎 林 弘毅 横川ゆり子  
青木一雄 東中次夫 ○金谷 昭  
○本間 隆 ○谷 守  
◎奥山繁三 (計35名)

年末にロングコースを歩く  
六甲・阪急間本駅から有馬温泉  
12月25日(日) 晴れ

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年6号発行)の  
定期購読者を中心としたハイキン  
グの集いである。

この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、健康な身体をつ  
くり、自然のなかを歩く喜びをと  
もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に55年  
間余、好評のうちに活動していま  
す。関西は平成3年秋発足で15年  
目に入りますが、すでに多数の会  
員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて楽しい山歩きを、多くの仲  
間たちと味わいませんか、多くの  
リーダー(係)はすべて無償の  
奉仕で、各自で切符を買い茶代を  
払い、宿泊料もすべてワリカンで  
す。

会員には「新ハイキング関西の  
山」を毎月お届けします。  
四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまで  
も持続するのはすばらしいことだ  
す。これから始めてみたい人、す  
でにベテランの人もみなさんご入  
会いいただけます。

年会費 5000円(ワッペン共  
年会費 30000円(送料別)  
入会の申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
何号からの送本かを忘れずに記  
入ください。

なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただきますと、  
毎号随時にお手元に届きますので  
便利です。  
切手530円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」最  
新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1〜2回程  
度の山行例会を計画・実施してい  
ただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われる  
方は、新ハイキング関西までご連  
絡ください。マニュアル「リーダー  
必携」を1冊送ります。

(集合) 阪急間本駅8・30 40 1  
保久良神社9・00 金鳥山9・25  
30 1 水車道1 打越峠10・10 20  
1 住吉谷山合10・50 西お多福山  
林道広場12・15 (昼食) 13・00 1  
一軒茶屋13・20 30 1 魚屋道1 有  
馬温泉御荷神社境内14・40(解散)  
住吉谷から西お多福山への登路  
で雪が深くなり、お多福山への登路  
予定の有馬三山へのロングコース  
は大雪で取り止め、アイゼンを着  
けてツルツルの魚屋道をくだった。  
早目に下山でき、希望者は有馬温  
泉でゆっくり湯につかって帰った。  
(参加者) 三井敏一 岩崎健司  
森本 勝 森本淳子 松上英代子  
西條良彦 河内正治 宮下淳一  
菅井克巳 上田直代 久保田玲子  
蓮井洋子 加藤浩二 金谷 昭  
君塚修子 塚本忠次 井上恭子  
若林文夫 加藤元彦 柳川富雄  
前田初雄 木村太郎 河本美子子  
西原辰夫 牧 和夫 森実美子子  
松井明忠 榎 陽司 榎 美奈子  
渡部和美 多賀久子 道平きわみ  
林 信男 東中次夫 後藤純子  
西村文男 妹尾正一 砂原重美子  
小山誠次 ○奥比谷美  
◎安倉正勝 ◎村田智俊(計19名)

東山36峰・第5峰 第14峰

(火曜ハイック)

12月27日(日) くもり  
(集合) 飯沼修学院駅9・00 1 粟  
山(粟山一畑寺) 1 粟山1 瓜  
生山1 北白川山(藤軍地蔵堂) 1  
茶山11・50 (昼食) 12・20 1 善氣  
山(法然院) 1 月待山(銀閣寺)  
1 如意ヶ岳(大文字山) 銀閣寺  
16・30(解散)

いくつかの山が、瓜生山や大文  
字山から派生する支尾根の中腹に  
位置するため、山頂の特定ができ  
ないことがわかりにくい一因なの  
だろう。12・13峰は次回に。

(参加者) 西 悦子 堀江房廣  
吉塚孝次 多田陽子 塚本忠次  
武田元可 武田和巳 宮西朝子  
金谷 昭 東中次夫 森本幹雄  
渡部和美 大林進 栗橋虎吉  
船越利明 志木明美 木下朝子  
山根崇美 ○沖 伸  
◎神谷礼司 (計20名)

11・12月の参加延1004名

○新入会員(定期購読者)紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号5140番から5159番  
まで(敬称略)

- 【三重】 大園のり 榎本朝子
- 【滋賀】 小原 堅
- 【京都】 林 浩三 杉本英一  
山口敏晴 谷口義治  
松本幸子 中川喜美雄
- 【大阪】 石原幸子 常盤勝子  
野村 潔 小西敏男  
芥田篤行 清藤啓美  
筒居義文
- 【兵庫】 釣 明良 榎本愛子  
伊東吉夫 (20名)

訂正とお詫び

86号(新春) 84ページ上段8  
行目からお「シキンカラマン」は  
「シキンカラマン」が正しい。  
86号(新春) 89ページ下段3行  
目および5行目の「小野原地区」  
は「小原野地区」が正しい。  
86号(新春) 95ページ11行目  
「○沖 豊」は「○沖 伸」が正  
しい。  
(編集長)

新ハイキング社

(東京本社) 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル301  
TEL・FAX 03-3915-8110 (編集室) TEL 03-3915-8852  
「新ハイキング」(月刊)・新ハイキング選書  
(関西分社) 〒610-0121 京都府城陽市寺田大群10-10  
TEL・FAX 0774-53-2754  
「新ハイキング」関西版「関西の山」(隔月刊)

「新ハイキング」ホームページ  
インターネットで「新ハイキング」の全てがご覧になれます。  
<http://shinHai.net/>

書店でお求めになりたい方へ  
前もって毎号ほしいと「購読  
予約」をされますと、どこの書  
店でもお買い求めいただけます。  
「関西の山」は偶数月の20  
日頃(隔月刊)の発売。